

第 9 編 資 料

9.1 名譽會員推挙者一覽

(1933~1993 年度)

推挙年月	氏 名
1933年 1月	古市 公威
1941年 2月	野村龍太郎・田辺 朔郎・古川阪次郎
1943年 2月	丹羽 鋤彦・名井 九介・那波 光雄
1945年	岡野 昇・真田 秀吉・国沢新兵衛
1946年 5月	吉町太郎一・牧 彦七・生野 団六
1950年 5月	安芸 杏一・前川 貫一・君島 八郎・大河戸宗治 青山 士・八田 嘉明
1951年 5月	G. A. Hathaway・久保田敬一・島 重治 松島寛三郎
1952年 5月	草間 偉・丹治 経三
1953年 5月	J. L. Savage・鶴見 一之
1954年 5月	辰馬 鎌藏・黒河内四郎・米元 普一
1956年 5月	谷口 三郎・島崎 孝彦
1957年 5月	平井喜久松・永井 専三・小野 諒兄
1958年 5月	福留 並喜・橋本 敬之・牧野雅楽之丞・田中 豊
1959年 5月	鈴木 雅次・黒田 武定・吉田徳次郎・平山復二郎 堀越 清六・高西 敬義
1960年 5月	池田 嘉六・菊池 英彦・斉藤 静脩・田井 九一 高橋 甚也・永田 民也・村山喜一郎・山田 隆二
1961年 5月	内田 葵郎・内海 清温・近藤 博夫・田淵 寿郎 荻原 俊一・花井又太郎・原口忠次郎・藤井 真透 山崎 匡輔
1962年 5月	池辺 福生・岩崎 雄治・小野 基樹・大蔵 公望 寛 斌治・金子源一郎・佐藤忠三郎・高橋 三郎 中村 廉次・三輪 周蔵
1963年 5月	阿部 一郎・青木 楠男・岩沢 忠恭・泉谷平次郎 佐伯 利吉・鈴木角一郎・鷹部屋福平・富永 正義 林 千秋・松尾 守治
1964年 5月	稲浦 鹿藏・小川敬次郎・岡部 三郎・坂上丈三郎 鮫島 茂・高橋嘉一郎・武居高四郎・沼田 政矩 星野 茂樹・三浦 義男・鷺尾 蟄龍
1965年 5月	A. T. Ippen・菊池 明・久保田 豊・近藤 泰夫 L. Escande・永田 年・野田 誠三・岡田 信次
1966年 5月	大島 太郎・田中 吉郎・成瀬 勝武
1967年 5月	内林 達一・大坪喜久太郎・福田 武雄・宮本 保
1968年 5月	大塩政治郎・下間 仲都・徳善 義光
1969年 5月	A. Grzywienski・J. W. Daily・佐々木 銃 末森 猛雄・西松 三好・藤井松太郎・堀 威夫 水谷 当起
1970年 5月	石田 二郎・井関 正雄・浦上 衛門・田中 茂美 當山 道三・松本 金吾・三池 鎮浪・米田 正文 富樫 凱一・松尾 春雄・真井 耕象・柳沢 米吉
1972年 5月	安芸 皎一・篠原 武司・平井弥之助
1973年 5月	伊藤 信・大石 勇・大石 重成・加藤 伴平 羽田 巖
1974年 5月	伊藤 令二・飯吉 精一・石原藤次郎・大林 勇治 叶 磯・今 俊三・杉戸 清・樋浦 大三
1975年 5月	稲垣 茂樹・岩本 常次・江口 馨・岡本 舜三 高野 務・堀越 一三・山本 三郎
1976年 5月	R. K. Linsley・上戸 斌司・上野 省二・末松 栄 田中 寛二・瀧山 養・藤村久四郎・前田 一三

1977年 3月	伊藤 剛・上山鉄之助・大野 台助・近藤 勇 酒井 忠明・立花 次郎・西村 俊男・本間 仁 渡辺 寛治
1978年 3月	江藤 智・熊川 信之・黒田 静夫・高津 俊久 中谷 茂一・星 治雄・松井 達夫・松見 三郎 水野 高明・村上 正・最上 武雄
1979年 3月	石田 聖・板倉 忠三・河村 重俊・鈴木 清一 平井 敦・水越 達雄
1980年 3月	井上幸太郎・太田尾廣治・佐藤 寛政・山崎 博 横道 英雄・米元 卓介
1981年 3月	猪瀬 寧雄・北村市太郎・高坂 紫郎・國分 正胤 佐藤 豪・庄司 光・鈴木 信孝・友永 和夫 仁 杉 巖・野瀬 正儀・星 埜 和
1982年 3月	小西 一郎・小林 嘉道・米谷 栄二・坂本 貞雄 城塚 孝雄・扇田 彦一・田代 信雄・田中 五郎 比田 正・三浦文次郎
1983年 3月	安藤 道夫・荒木 謙一・今岡 鶴吉・奥田 教朝 尾之内由紀夫・小林 二郎・篠原 謹爾・好井 宏海 吉田 登・渡部 時也
1984年 3月	石上 立夫・小野竹之助・加賀美一二三・片平 信貴 河上 房義・小池 誉・後藤 正司・佐藤 肇 中村 稔・福山眞三郎・藤田 博愛・横田 周平 渡辺 新三
1985年 3月	荒井 力・市原 松平・大橋 康次・奥村 敏恵 倉田 宗章・佐島 秀夫・斎藤 義治・坂本 信雄 田中 茂・田原 保二・谷藤 正三・中安 米蔵 長谷川盛一・丸安 隆和・八十島義之助・山内 一郎 市浦 繁・小林 重一・高畑 政信・村瀬 清 1987年 3月 岡本 孝平・菊池 三男・小林 元椽・高橋国一郎 竹ヶ原輔之夫・長濱 正雄・畑谷 正實・村田 清逸 柳瀬 珠郎・渡辺 豊
1988年 3月	足立 力・井口 昌平・石川 豊・小田 英一 岡部 保・久保慶三郎・後藤 幸正・堺 毅 下村 肇・杉尾捨三郎・鈴紀 喜久・福岡 正巳 南 俊次・M. P. O'Brien
1989年 3月	伊藤 直行・石井 興良・市田 洋・上田 稔 内田 一郎・大串 満馬・岡田 政三・佐々木正久 佐藤 康・田邊 義亮・高橋 浩二・成岡 昌夫 比留間 豊・廣瀬 可一・森下 卓也・吉開 正文 吉村 虎蔵
1990年 3月	内田 隆滋・尾崎 晃・大地 羊三・大橋 健一 岡田 光雄・佐藤 清一・佐藤 史・豊田 栄一 土方 大貳・細田 和男・三木五三郎
1991年 3月	伊藤 富雄・石川 六郎・岩井 重久・岩崎 敏夫 神田九思男・北郷 繁・左合 正雄・佐久間 啓 林 泰三・牧野 文雄・山岡 勲 J. W. Johnson
1991年 5月	堂垣内尚弘・村上 永一
1992年 3月	淺井新一郎・粟津 清蔵・神谷 洋・近藤 和夫 佐用 泰司・椿 東一郎・戸谷 松司・能町 純雄 八田 晃夫・前田 幸雄・耳野 慎・山門 明雄 山内 豊聰・山本 有三・山家 義雄 G. W. Housner
1993年 3月	井島 武士・井上 孝・岡田 清・片山 英吉 吉川 秀夫・小松 定夫・後藤 績・坂野 重信 瀬良 茂・多田 尚夫・長尾 義三・樋口 芳朗 平嶋 政治・堀川 清司・町田 利武・松本順一郎

1994年3月	八木 鐵男
	安藝 恒夫・岩垣 雄一・岩佐 義朗・勝田 悦之
	川越 達雄・小坪 清眞・丹羽 義次・沼田 實
	濱 建介・藤井 敏夫・村山 朔郎・森 麟
	吉田 俊彌

9.2 功績賞受賞者略歴

1965（昭40）年度から土木学会賞に加わった土木学会功績賞は、「本会会員であって、土木工学の進歩、土木事業の発達、土木学会の運営に顕著な貢献をなしたと認められたものに授与する」とあり、1993年度までに64名が受賞している。このうち会長経験者34名の略歴は1～14頁に掲載したので参照されたい。第9編ではそれ以外の30名の方々について写真および略歴をかかげ敬意を表することとした（敬称略）。

1966年度

^{たぶち としろう}
田淵 寿郎（1891～1974）



名誉会員 勲二等 1915年東大土木卒、内務省に入り仙台土木出張所長、名古屋土木出張所長、華北政務委員会技監、45年名古屋市技監兼施設局長、48年より58年まで名古屋市助役として戦災都市の復興に尽力、壮大な都市計画を推進した。名古屋市長。1940～42年土木学会中部支部長、61年「名古屋市の都市計画を実施した功績」で朝日文化賞。

1968年度

^{はらぐちちゅうじろう}
原口忠次郎（1899～1976）



名誉会員 工博 勲一等 1916年京大土木卒。内務省、満洲国、43年中国四国土木出張所長をへて45年神戸市へ招かれ、復興本部長、助役、47年参議院議員、49年から69年まで5期20年間市長をつとめる。ポートアイランド、摩耶埠頭、六甲トンネル等を推進、明石鳴門架橋を1940年から提唱。国際港湾協会会長（名誉会員）、ドイツ国有功勲章、藍綬褒章等受章、69年神戸市名誉市民（第一号）。

^{くぼた ゆたか}
久保田 豊（1890～1986）

1969年度



名誉会員 勲一等 1914年東大土木卒。内務省をへて朝鮮の長津江、虚川江、鴨緑江の水力開発に従事、日本窒素肥料専務、朝鮮電業社長、朝鮮鴨緑江水力発電社長等を併任、帰国後は引揚技術者を受け入れるため46年日本工管を設立し社長となり73年会長。民間技術大使とたたわれる。41年「水豊堰堤の建設」で朝日文化賞、56年藍綬褒章、カンボジア、ビルマ、ベトナム等より勲章多数を受ける。

^{さめじま しげる}
鮫島 茂（1894～1980）

1970年度



名誉会員 工博 勲二等 1917年東大土木卒。内務省に入り欧米出張をへて27年横浜土木出張所、42年下関土木出張所長をへて海軍司政長官としてセレベス島へ赴任、終戦後まもなく退官し、政府の各種審議会等の委員を多数歴任。61年日本港湾コンサルタントを創設し取締役社長、会長をつとめる。59年交通文化賞、61年藍綬褒章受章、62年日本港湾協会副会長。

^{あき こういち}
安芸 皎一（1902～1990）

1974年度



名誉会員 工博 勲二等 1926年東大土木卒。内務省に入り46年土木試験所長、48年経済安定本部資源委員会事務局長、51年同資源調査会副会長、56年科学技術庁科学審議官、60年エカフエ治水水利開発局長、64年資源科学研究所理事長等を歴任。この間44年、52年、59年東大教授を兼任、64年関東学院大学、70年拓大教授、42年土木学会賞、52年毎日出版文化賞を受賞。

^{ほり たけお}
堀 威夫（1899～1990）

1976年度



名誉会員 勲二等 1923年東大土木卒。大阪市へ入り37年土木部橋梁課長、理事、施設部長、復興局次長をへて47年港湾局長、56年より63年まで大阪市助役、63年大阪埠頭倉庫取締役会長、67年阪神外貿埠頭公団理事長、75年退任。61年藍綬褒章、72年交通文化賞受賞、62年および72年に日本港湾協会港湾功労者および特別功労者として表彰される

1976年度

ほんま まさし
本間 仁 (1907~)



名誉会員 工博 勲三等 1930年東大土木卒。内務省土木試験所へ入り土木局をへて38年東大助教授、43年教授、63年東大評議員、67年退官(名誉教授)。同年東洋大学教授、69年工学部長、73年理事、77年退任。この間、学会の委員、委員長として学会活動に尽力、国際水理学会 (IAHR) 副会長(名誉会員)、ASCE 海岸工学評議会委員、44年度土木学会賞受賞。「水理学」、「高等水理学」「河川工学」「標準水理学」等、著書多数。

1977年度

くろだ しずお
黒田 静夫 (1903~1986)



名誉会員 工博 勲二等 1926年東大土木卒。内務省に入り37年横浜港修築事務所主任。43年運輸通信省港湾局計画課長、46年運輸省第四港湾建設部長、50年港湾局長、55年退官、61年日本港湾コンサルタント協会理事長、63年国際港湾協会日本国理事、74年日本港湾協会会長、77年国際航路会議日本国内委員会会長、77年日本港湾コンサルタント社長、81年会長を歴任。64年交通文化賞受賞。

1977年度

みずの たかあき
水野 高明 (1907~)



名誉会員 工博 勲二等 1930年九大土木卒。内務省大阪土木出張所をへて38年九大助教授、43年教授に就任、56年学生部長、63年工学部長・工業教員養成所長、65年教養部長、67年九大学長、69年退官(名誉教授)。(株)間組顧問、攻玉社短大学長に就任。この間、通産省等の政府委員を多数歴任したほか土木学会副会長、吉田賞選考委員会委員長等。44年土木学会賞受賞。

1978年度

すぎと きよし
杉戸 清 (1901~)



名誉会員 工博 勲二等 1926年東大土木卒。名古屋市に入り内務省に出向後47年名古屋市水道局長、57年助役、61年4月より73年4月まで3期12年間名古屋市長。73年日本下水道事業団顧問。この間、水質審議会会長、名古屋港審議会会長、名古屋住宅供給公社理事長、日本下水道協会会長等を歴任。学会では44、45年度理事、55年度中部支部長をつとめる。日本画をよく、[下水道学]、[廁談義]などの著書あり。

さとう ひろまさ
佐藤 寛政 (1907~)

1979年度



名誉会員 工博 勲二等 1931年東大土木卒。内務省に入り神戸市土木出張所、土木試験所をへて38年北支那臨時政府、華北政務委員会等に出向、45年文部省科学官、50年建設省道路局道路企画課長、56年関東地建局長、58年道路局長、60年退官、日本道路公団理事をへて64年副総裁、66年退職し三井共同建設コンサルタント副社長、69年社長、78年会長、この間政府委員、学会役員、委員など多数歴任。

わたなべ やさく
渡部 弥作 (1902~1984)

1979年度



正会員 工博 勲三等 1926年東大土木卒、内務省に入り東京、新潟土木出張所、米代川改修事務所等をへて43年南西方面海軍民政府土木課長、新潟港工事事務所長、47年運輸省第一、49年第二港湾建設部長となり52年退官。53年東京都立大学教授、61年評議員をへて66年退官(名誉教授)。武蔵工大教授。この間、国土総合開発審議会、港湾審議会など多数の委員を歴任、65年交通文化賞受賞。

なかやす よねぞう
中安 米蔵 (1912~)

1981年度



名誉会員 工博 勲二等 1935年京大土木卒、広島県、京都府をへて内務省へ入り中国四国地方の鳥取、天神川、斐伊、宿毛、重信川等の工事事務所長を兼任、52年江戸川工事事務所長、56年建設省河川計画課長、中部、近畿両地建局長、建設技監をつとめ63年退官、清水建設顧問に就任後65年日本道路副社長をへて相談役。73年建設大臣表彰、76年日本河川協会副会長。

たにふじ しょうぞう
谷藤 正三 (1914~)

1982年度



名誉会員 工博 勲二等 1936年京大土木卒、東京府から内務省に入り51年建設省土研構造研究室長、道路研究室長をつとめ中部地建、関東地建の部長をへて59年道路局国道課長、61年土木研究所長、62年都市局長、63年首都圏整備委員会事務局長、64年北海道開発庁事務次官を歴任し65年退官。同年日大理工学部教授、67年セントラルコンサルタント社長、79年から会長、50年度土木学会論文賞受賞。

1983年度

^{いよいよ} ^{せいいち}
飯吉 精一 (1904~1991)



名誉会員 工博 1929年東大土木卒。間組入社、現場所長、満洲間組取締役土木部長、中支支店副支店長、46年鉄道建設興業（現鉄建建設）入社、71年専務取締役を最後に退職。この間65~75年早大理工学部講師、71~75年日大生産工学部教授、57年建設大臣表彰、67年藍綬褒章受章。学会では理事2期、日

本土木史研究委員会委員長を2期つとめる。著書として専門書、随筆多数。建設業史研究に貢献が大きい。

^{まるやす} ^{たかかず}
丸安 隆和 (1915~)

1987年度



名誉会員 工博 勲三等 1939年東大土木卒。41年京城大学助教授、46年東大助教授、52年教授、75年定年退官（名誉教授）。東京理科大学へ移り理工学部長、総合研究所長をへて85年定年退職。土木学会賞、吉田賞、東レ科学技術賞、紫綬褒章を受章。土木学会では理事、副会長、論文集編集、出版、電算機利用など各種委員長のほか国際写真測量学会副会長、NASA 主任研究員などを歴任。

1984年度

^{いまわか} ^{つるきち}
今岡 鶴吉 (1908~)



名誉会員 工博 勲二等 1932年京大土木卒。鉄道省へ入り盛岡、大阪、ジャワ勤務等をへて50年国鉄停車場および管理課長、静岡、大阪両管理局長をつとめ58年建設局長、59年常務理事、62年退職後は大阪市交通局長、68年大阪府都市開発(株)専務および副社長、74年(財)大阪タクシー近代化センター会長、

大阪市西梅田土地区画整理組合理事長のほか多数団体の役員等を歴任。

^{こめたに} ^{えいじ}
米谷 栄二 (1911~)

1987年度



名誉会員 工博 勲二等 1934年京大土木卒。講師をへて35年助教授、56年教授となり75年定年退官（名誉教授）し岡山大学教授となる。77年同大学定年退官とともに福山大学へ移り78年工学部長、79年工学研究科長となり、82年退職。この間京大評議員、日本学術会議会員をつとめる。土木学会においては常議員、理事、副会長、関西支部長、土木計画学研究会委員長を歴任。

1984年度

^{ひらい} ^{あつし}
平井 敦 (1908~1994)



名誉会員 工博 勲二等 1936年東大土木卒。大阪市土木部をへて41年京城帝国大学助教授、43年東京大学助教授、48年教授となり69年定年退官（名誉教授）。78年長岡技術科学大学副学長、82年退官（名誉教授）。この間、日本学術会議7、8期会員、IABSE 副会長（名誉会員）等をつとめる。土木学会では理事

2期、田中賞選考、橋梁構造、本四連絡橋耐風設計等の委員長のほか委員歴多数。著書「鋼橋」等。

^{おくむら} ^{としえ}
奥村 敏恵 (1914~)

1988年度



名誉会員 工博 勲二等 京大理学部に入學後、東大へ再入學し1941年東大土木卒。日本発送電水力試験所をへて45年東大助教授。61年教授となり75年埼玉大学教授へ移る（東大名誉教授）。80年より86年まで東京電機大学教授。土木学会では理事、副会長のほか本四連絡橋上部構造、論文集編集、構造工学、鋼構造、エネルギー土木等の委員長のほか委員歴多数。論文賞、田中賞を受賞。

1986年度

^{こにし} ^{いちろう}
小西 一郎 (1911~1988)



名誉会員 工博 勲二等 1935年京大土木卒。講師をへて37年助教授、戦時中は陸軍航空技術大尉として軍務につき45年教授、75年定年退官（名誉教授）。その後中部工業大学教授となり86年退職。この間、土木学会理事（60、61年度）、66年度関西支部長、本四連絡橋技術調査委員会委員、構造物安全性研究、鋼構造委員長を歴任、構造物安全性・信頼性国際協会名誉会長など。著書、論文多数。

著書、論文多数。

^{うへだ} ^{みのも}
上田 稔 (1914~)

1988年度



名誉会員 勲一等 1938年京大土木卒。秋田県、大阪府をへて53年建設省へ移る。関東地建、近畿地建の河川工事事務所長を歴任し63年九州地建局長、近畿地建局長、64年河川局長に就任し67年退官。68年より86年まで参議院議員、83年国務大臣環境庁長官をつとめる。87年より(社)日本技術士会会長、土木学会では西部支部長、評議員を歴任。

1989年度

やまのうち いちろう
山内 一郎 (1913~)



名誉会員 勲一等 1936年東大土木卒。内務省、49年建設省関東地建、55年河川局防災課長、59年技術参事官、60年河川局長、63年建設事務次官。65年より89年まで24年間、参議院議員在職。74年国土庁政務次官、80年郵政大臣、85年自民党参議院議員会長。(社)全日本建設技術協会会長、(社)国際建設技術協会会長等、多数団体の会長をつとめる。土木学会では理事、副会長などを歴任。

1989年度

かわかみ みさよし
河上 房義 (1914~)



名誉会員 工博 勲二等 1936年東大土木卒。陸軍築城本部勤務、45年(財)建設技術研究所、49年鹿島建設技術研究所、52年東北大学へ移り助教授、53年教授、71年から74年まで工学部長。72年から81年まで日本学術会議会員を3期、76年より83年まで宮城工業高等専門学校校長、85年より八戸工業大学学長、93年退職(理事)。東北大学、宮城高専名誉教授。土木学会では評議員、東北支部長、副会長を歴任。

1990年度

どうがきないなひろ
堂垣内尚弘 (1914~)



名誉会員 勲一等 1938年北大土木卒。海軍省建築局へ勤務、21年復員後は北海道庁、経済安定本部等をへて52年北海道開発局へ入り65年開発局長、北海道開発事務次官を歴任し67年退官。北海学園大学教授、道経連等をへて71年より3期83年まで北海道知事に就任。辞任後は84年堂垣内研究所所長、臨時教育審議会委員、北海学園理事、89年東日本学園大学理事長等のほか公職多数。87年北海道支部功労者表彰。

1990年度

むらかみ えいち
村上 永一 (1915~)



名誉会員 工博 勲二等 1939年東大土木卒。内務省土木試験所をへて46年国土局、50年建設省道路局、52年九州地建伊ノ浦橋工事事務所長、59年道路局地方道課長、一級国道課長を歴任し53年土木研究所長、68年日本道路公団理事、74年新日本製鐵(株)参与、80年川田建設(株)取締役社長、87年取締役相談役。土木学会では論文集編集、田中賞選考、構造工学などの委員長を歴任したほか委員歴多数。

ふくおか まさみ
福岡 正巳 (1917~)

1991年度



名誉会員 工博 勲二等 1941年東大土木卒。内務省土木試験所に入り、61年千葉支所長、67年土木研究所長、70年日本道路公団常任参与、71年東京大学教授、77年退官、同年東京理科大学教授。76年(社)土質工学会会長、77年国際土質基礎工学会会長等を歴任。土木ニュース編集委員をはじめ戦後の学会再建に尽力したほか常議員、理事、委員歴等多数。

いとう とみお
伊藤 雷雄 (1920~)

1992年度



名誉会員 工博 勲二等 1943年京大土木卒。大学院をへて48年大阪大学助教授、62年教授、71年工学部長、1978年から88年まで(11~13期)日本学術会議会員、幹事および第5部長。84年大阪大学定年退職(名誉教授)、同年大阪工業大学教授、87年学長、94年退職。学会では評議員3期、理事2期、副会長、関西支部長、各種委員会委員・委員長を歴任。

こんどう かずお
近藤 和夫 (1921~)

1993年度



名誉会員 勲三等 1943年京大土木卒。大阪市へ入り59年土木局道路部橋梁課長、64年土木局土木部長、70年土木局長、75年助役となり87年退官。同年関西電力監査役、大阪市街地開発相談役、(財)大阪市土木技術協会特別顧問に就任。学会歴としては評議員、理事、関西支部長、副会長、昭和52年度全国大会実行委員長、出版委員会委員長などを歴任。

さとう はじめ
佐藤 肇 (1913~)

1993年度



名誉会員 工博 勲二等 1937年北大土木卒。内務省、運輸通信省をへて58年運輸省港湾局機材課長、建設課長、62年第三港湾建設局長、64年港湾局長、67年退官。同年(社)日本港湾協会理事長、国際港湾協会本部事務局事務総長代理、74年同副会長、78年会長、84年名誉会長。この間多くの公職に就任。学会歴は理事、評議員ほか。

9.3 本部役員一覧 (1985~94年度)

頁数の関係から1984年度までは本部・支部とも各略史を参照。85年以降の支部役員は省略。支部長・幹事長は支部ごとに第6編へ掲載。

●1985年度

会 長	菊池 三男			
副 会 長	上田年比古	岡田 宏	後藤 績	
	高橋 裕	松本順一郎		
専務理事	八木 純一			
理 事	大崎 本一	大西 英雄	大原 資生	
	加藤 晃	川嶋登紀衛	岸田 璋八	
	小林 浩二	近藤 信昭	佐藤 幸甫	
	定井 喜明	首藤 伸夫	白石 成人	
	杉山 好信	関 厚	中瀬 明男	
	久武 啓祐	藤野 慎吾	堀内 義朗	
	本間 俊之	森 麟	山田 善一	
	渡辺 健	渡辺 昇		
	大久保忠良	片山 英吉		
監 事				
評 議 員				
北 海 道	猪俣 通	太田 利隆	奥村 惇一	
佐伯 浩	齐藤 省吾	野島 廣弘		
東 北	伊東 茂富	大橋 勝弘	加賀美 彰	
高橋 準一	荒木 由巳	福田 正		
関 東	高橋 英昭	石井 清	上原 忠	
小原 忠幸	神山 光男	金子 高利	川口 上郎	
北井 良吉	桐本 昌典	小館 繁夫	小林 一輔	
桜井 彰雄	笹木 胖	定道 成美	田中 信行	
田中 則男	田中 博三	高木 徹	仲西 茂夫	
布目 恵造	美藤 恭久	廣田 豊作	古橋 聡一	
井上 喬之	井畔 瑞人	泉 信也	和泉 四郎	
岩崎 敏男	遠藤 武夫	岡 義彦	岡田 朋	
岡本 堯生	荻原 能男	唐沢 昭雄	佐々木隆男	
志関 彰男	鮫川 登	田中 伸生	富田 功	
楢崎 元儀	則武 邦具	村田 清二	森口 幸雄	
福岡 祥光	藤川 寛之	柳沢 宏	山下生比古	
山寺 徳明	米沢 卓志			
中 部	内田 敏久	榎本 昭	大島 弘	
大橋 雄太	草間 孝志	小柳 洽	後藤 侃	
増田 裕	湯浅 馨	吉田 弥智	渡辺 晴朗	
関 西	井上 頼輝	今井 正一	上林 達郎	
岡 尚平	勝田 悦之	後藤 隆	佐藤 幸市	
塩谷 馨	下田 修司	鈴木 庄二	高棹 琢馬	
津垣 昭夫	時乘 浩	西 勝	畑中 俊吉	
前田 哲郎	卷上 安爾	松橋 数保	村上 郁雄	
室田 明	山佐 博			
中国 四国	糸賀 郁雄	上条俊一郎	金丸 昭治	
高橋 信夫	中西 秩	中西 弘	藤井 崇弘	
西 部	磯浦 克敏	興 信雄	喜田健一郎	
桜庭 晃	橋原 昭雄	平野 宗夫	光岡 毅	
山田 尚人	山本 茂樹			

●1986年度

会 長	久保慶三郎			
副 会 長	井上 章平	上田年比古	後藤 績	
	近藤 和夫	渡辺 昇		
専務理事	八木 純一			

理 事	稲垣 浩司	大崎 本一	大原 資生
	小林 浩二	小堀 為雄	首藤 伸夫
	白石 成人	豊国 永次	奈良部俊雄
	中瀬 明男	中村 雄二	永尾 勝義
	鍋山 晃	新谷 洋二	錦織 達郎
	久武 啓祐	藤野 慎吾	堀内 義朗
	本間 俊之	三宅 清士	宮腰 静馬
	山下 宣博	山田 善一	
	大久保忠良	森下 卓也	

監 事				
評 議 員				
北 海 道	伊藤 熊吉	猪俣 通	織田 紀雄	
太田 利隆	藤田 睦博			
東 北	伊東 茂富	加賀美 彰	高橋 準一	
福田 正	宮口 尹秀	宮原 克典		
関 東	井上 喬之	井畔 瑞人	泉 信也	
和泉 四郎	岩崎 敏男	遠藤 武夫	岡 義彦	
岡田 朋	岡本 堯生	荻原 能男	唐沢 昭雄	
佐々木隆男	志関 彰男	鮫川 登	田中 伸生	
富田 功	楢崎 元儀	則武 邦具	森口 幸雄	
福岡 祥光	藤川 寛之	柳沢 宏	山寺 徳明	
市川 義博	五十嵐 功	上村 宏之	梅原 靖文	
江崎 一博	江刺 靖行	加藤 直人	片野 正三	
佐藤 幸市	斉藤 俊平	桜井 正憲	下田 公一	
寺崗 勝二	内藤 和章	中山 覺博	長瀧 重義	
星野 鐘雄	牧瀬 満治	宮本 潔	森 満雄	
山田 清臣	和里田義雄			
中 部	磯部 節彦	植下 協	内田 敏久	
榎本 昭	杉江 道雄	草間 孝志	小柳 洽	
後藤 侃	増田 裕	湯浅 馨		
関 西	今井 正一	上林 達郎	上原 基也	
小林 昭一	佐藤 幸市	下田 修司	鈴木 庄二	
寺島 泰	時乘 浩	中井喜一郎	中野 坦	
西 勝	野村 正憲	深田 彰一	前田 哲郎	
三浦 恒久	三露 嘉郎	室田 明	山佐 博	
山本第四国	吉田喜七郎	渡部 成		
中国 四国	糸賀 郁雄	岩本 利彦	上条俊一郎	
金丸 昭治	澤田 健吉	高橋 信夫	中西 弘	
西 部	磯浦 克敏	興 信雄	酒井 哲夫	
桜庭 晃	楢原 昭雄	橋本 武	藤森 研一	
光岡 毅				

●1987年度

会 長	石川 六郎			
副 会 長	大原 資生	近藤 和夫	広瀬 利雄	
	堀川 清司	渡辺 昇		
専務理事	八木 純一			
理 事	粟谷 陽一	稲垣 浩司	茨木 龍雄	
	岡本 堯生	奥山 文雄	鎌田 文明	
	小堀 為雄	斉木 三郎	末石富太郎	
	杉山 孝雄	土岐 憲三	中村 雄二	
	永尾 勝義	鍋山 晃	新谷 洋二	
	錦織 達郎	布施 洋一	福田 邦雄	
	福田 正	藤井 浩	三宅 清士	
	山下 宣博	渡辺 基		
	森下 卓也	渡辺 重幸		
監 事				
評 議 員				
北 海 道	伊藤 蔵吉	織田 紀雄	小野寺 衛	

久保 宏	藤田 睦博	栗山 昭文	高橋 準一	片山 恒雄	小林 堯	後藤 英一	佐竹 潔
東 北	北松 治男	栗山 昭文	高橋 準一	佐藤 尚純	杉村 侑	田沢 大	田村 滋美
高橋 彦人	藤井 崇弘	宮原 克典	柳沢 栄司	出口 尚武	西岡 隆	西川 肇	羽鹿 昭士
吉越 治雄				藤本 成	古土井光昭	松井 家孝	松浦 先信
関 東	市川 義博	五十嵐 功	上村 宏之	三橋 晃司	溝口 忠	溝畑 靖雄	村橋 正武
梅原 靖文	江崎 一博	江刺 靖行	加藤 直人	山口 正記	山口 靖紀	渡辺 吉教	
片野 正三	佐藤 幸二	斉藤 俊平	桜井 正憲	中 部	内田 敏久	大石 廣志	大隈 正登
下田 公一	寺園 勝二	内藤 和章	中山 覺博	佐久間 啓	中川 建治	長尾 正志	堀 泰晴
長瀧 重義	星野 鐘雄	牧瀬 満治	宮本 潔	増田 裕	松川 匡利	吉田 博	
森 満雄	山田 清臣	井上 堯之	池田 尚治	関 裕	伊藤 博	岩佐 義朗	遠藤 武夫
稲垣 紘史	上野 康之	江口淳一郎	大泉 正夫	金馬 昭郎	小林 幸藏	小森 久信	近藤 信昭
金沢 紀一	工藤 智明	桑原 弥介	寒川 重臣	佐藤 幸市	鮫島 利隆	重光 世洋	下村 一誠
須賀 堯三	田村 達	高松 良晴	高柳 義隆	城島 誠之	鈴木 庄二	瀬尾 貞甚	高篠 香
辻 宣志	根上 義昭	橋本鋼太郎	原 恒雄	中川 博次	中村 五郎	福本 秀士	松下 照夫
福島 啓一	藤本 成	松浦 先信	三橋 晃司	村本 嘉雄	甕受 昌和	山本第四郎	
溝口 忠	山口 靖紀	渡辺 吉教	和里田義雄	中国 四国	大河原 満	河野伊一郎	柿沼 忠男
中 部	磯部 節彦	植下 協	内田 敏久	木倉 正美	大石 道定	田中 弘泰	戸田 寿彦
大隈 正登	佐久間 啓	長尾 正志	堀 泰晴	西林 新藏			
増田 裕	湯浅 馨	吉田 博		西 部	井上 保明	江本 昭彦	太田 俊昭
関 裕	伊藤 博	若佐 義朗	上原 基也	興 信雄	澤山 民季	橋原 昭雄	宮崎雄二郎
遠藤 武夫	金馬 昭郎	小林 幸藏	小林 昭一	渡辺 具能			
城島 誠之	鈴木 庄二	高篠 香	寺島 泰				
中井喜一郎	中野 坦	野村 正憲	深田 彰一				
福本 秀士	松下 照夫	三浦 恒久	三露 嘉郎				
山本第四郎	吉田喜七郎	渡部 威					
中国 四国	岩本 利彦	大河原 満	河野伊一郎				
木倉 正美	定道 成美	澤田 健吉	戸田 寿彦				
西林 新藏							
西 部	井上 保明	江本 昭彦	興 信雄				
橋原 昭雄	樗木 武	藤森 研一	光岡 毅				

●1988年度

会 長	内田 隆滋		
副 会 長	大原 資生	杉山 孝雄	鈴木 道雄
	中瀬 明男	藤井 敏夫	
専務理事	八木 純一		
理事	栗谷 陽一	糸林 芳彦	茨木 龍雄
	上野 晃司	内田 勝士	岡本 堯生
	奥山 文雄	加来 照俊	久保 宏
	斉木 三郎	末石富太郎	土岐 憲三
	中村 英夫	萩原 惟昭	福田 正
	藤井 浩	松浦 聖	三井 安
	甕 哲司	百島 祐信	山口 甚郎
監 事	吉田喜七郎	渡部 基	
評 議 員	畑中 昭吾	渡邊 重幸	
北 海 道	板倉 忠興	織田 紀雄	小野寺 衛
角田與史雄	久保 宏	島 泰	時川 和夫
渡辺 喬二			
東 北	北松 治男	栗山 昭文	高橋 彦人
藤井 崇弘	柳澤 栄司	矢野洋一郎	
関 東	井上 堯之	池田 尚治	稲垣 紘史
上野 康之	江口淳一郎	大泉 正夫	金沢 紀一
工藤 智明	桑原 弥介	寒川 重臣	須賀 堯三
田村 達	高松 良晴	高柳 義隆	辻 宣志
根上 義昭	橋本鋼太郎	原 恒雄	福島 啓一
足立格一郎	入江 功	入江 洋樹	上野 康之

●1989年度

会 長	堀川 清司		
副 会 長	鈴木 道雄	藤井 敏夫	松浦 聖
	土居 則夫	室田 明	
専務理事	八木 純一		
理事	足立 紀尚	糸林 芳彦	上野 晃司
	内田 勝士	内田 聰吉	加来 照俊
	久保 宏	堤 一	中村 英夫
	長尾 宏	長瀧 重義	成島 昭
	西林 新藏	橋本 固	福井 迪彦
	星野 晴彦	三井 宏	御巫 清泰
	甕 哲司	百島 祐信	森本 裕士
	柳澤 栄司	吉越 治雄	
	清野 茂次	畑中 昭吾	
監 事			
評 議 員			
北 海 道	板倉 忠興	小山田 博	織田 紀雄
角田與史雄	島 泰	時川 和夫	福井 敏行
渡辺 喬二			
東 北	川村 幸司	栗山 昭文	清水 孝一
藤井 崇弘	間所 貢	三浦 尚	宮原 和雄
矢野洋一郎			
関 東	足立格一郎	入江 功	入江 洋樹
上野 康之	片山 恒雄	小林 堯	後藤 英一
佐竹 潔	佐藤 尚純	杉村 侑	田沢 大
田村 滋美	出口 尚武	西岡 隆	西川 肇
羽鹿 昭士	古土井光昭	松井 家孝	溝畑 靖雄
飯田 俊博	今木甚一郎	岩下 嘉弘	瓜生喜久雄
常田 左門	川島 毅	川村 努	北川 久
柴田 正雄	関 晃	多賀 宗紀	高階 實雄
辻 秀紀	辻 靖三	西谷 隆亘	野沢 豊久
葉山 信利	古川 公毅	本間 勉	松村 保
松本洋之介	村橋 正武	山口 正記	山田 功
渡辺 啓行			
中 部	石井 晃一	岩田 邦彦	内田 敏久
大石 廣志	北尾 高嶺	佐久間 啓	高木 啓輔

長 尚 飛田 稔 中川 建治 松川 匡利
 増田 裕 和里田義雄
 関 西 天野 光三 飯塚 卓 梅原 利之
 大塚幸太郎 小森 久信 近藤 信昭 佐藤 幸市
 鮫島 利隆 重光 世洋 下村 一誠 瀬尾 貞基
 豊田 高司 中川 博次 中村 五郎 西村 昂
 堀川 勲 向井 文夫 村本 嘉雄 西村 昂
 輪田 朝雄 栢沼 忠男 桐本 昌典 斉藤 隆
 中国 四国 花市 穎悟 星畑 国松 松浦 仡
 田中 弘泰 井上 保明 稲富 敏泰 江本 昭彦
 西 部 井上 保明 藤本 順一 宮崎雄二郎
 太田 俊昭 澤山 民季
 山口 一弘 渡辺 具能

●1990 年度

会 長 浅井新一郎
 副 会 長 土居 則夫 近藤 信昭 多田 尚夫
 中村 英夫 長澤不二男
 専務理事 八木 純一
 理事 足立 紀尚 五十嵐日出夫 内田 勝士
 内田 聰吉 久保 宏 小出 崇
 佐々木 伸 志水 茂明 高木 不折
 谷本 守 玉田 博亮 津垣 昭夫
 堤 一 長尾 宏 津瀧 重義
 成島 昭 西林 新蔵 橋本 龍男
 星野 晴彦 御巫 清泰 八木 則男
 柳澤 栄司 吉越 治雄
 長田 新平 清野 茂次
 監 事 尾形 浩 小山田 博 時川 和夫
 評 議 員 尾形 浩 尾田 栄章 川村 幸司
 北海道 尾形 浩 尾田 栄章 川村 幸司
 福井 敏行 芳村 仁 三浦 尚 宮原 和雄
 東 北 大原 克己 今木甚一郎 岩下 嘉弘
 清水 孝一 間所 貢 常田 俊博 川島 毅 川村 努
 関 東 飯田 左門 関 晃 多賀 宗紀
 瓜生喜久雄 柴田 正雄 辻 靖三 西谷 隆亘
 北川 久 柴田 正雄 辻 靖三 西谷 隆亘
 高階 實雄 辻 秀紀 古川 公毅 本間 勉
 野澤 豊久 葉山 信利 山田 功 渡辺 啓行
 松村 保 松本洋之介 山田 功 尾澤 幸三
 足立 一郎 伊藤 喜栄 小澤 一郎 加藤 敏治
 大木 成明 大林 芳久 久保田 穰 桑原 洋
 城処 求行 岸本 貞男 佐藤 勝久 白砂 孝夫
 小岩井 実 津田 剛 早川 典生 藤井 友竝
 須田 征男 宮崎 正義 森地 重暉 山本 卓朗
 松尾 友矩 渡辺 具能
 中 部 石井 晃一 内田 敏久 川村 満紀
 北尾 高嶺 佐久間 啓 田村 伴次 長 尚
 飛田 稔 畑中 昭吾 原 俊夫 吉田 浩一
 渡邊 晴朗 和里田義雄
 関 西 天野 光三 飯塚 卓 井田 憲治
 梅原 利之 江見 晋 大西 一行 大塚幸太郎
 白石 成人 竹内 良夫 土屋 義人 豊田 高司
 西田 一彦 西村 昂 藤井 崇弘 布施 洋一
 堀川 勲 松岡 昂昭 宮井 宏 向井 文夫
 頼 千元 輪田 朝雄
 中国 四国 旭 一穂 金山 良治 河野 清

桐本 昌典 斉藤 隆 塚本 義昭 花市 顯悟
 針貝 武紀 星畑 国松 松浦 仡 溝口 忠
 西 部 相原 紀六 井上 保明 稲富 敏泰
 今村 瑞穂 江本 昭彦 坂本 修一 彦坂 熙
 藤本 順一 古土井光昭 山口 一弘

●1991 年度

会 長 岩佐 義朗
 副 会 長 尾坂 芳夫 近藤 信昭 長澤不二男
 藤野 慎吾 三谷 浩
 専務理事 八木 純一
 理事 五十嵐日出夫 岩崎 敏男 内田 勝士
 佐々木 伸 阪本 好史 志水 茂明
 高木 不折 高松 良晴 谷本 守
 津垣 昭夫 塚田 正弘 橋本 龍男
 廣田 良輔 深谷 一 藤田 賢二
 星野 英二 松井 保 門田 博知
 三浦 尚 八木 則男 山田 清臣
 横内 利治 渡邊 重幸
 荒川 利輝 長田 新平

監 事

評 議 員 瓜田 一郎 尾形 浩 金井拓一郎
 北海道 星 清 芳村 仁
 時川 和夫 入江 洋樹 大原 克己 尾田 栄章
 東 北 志賀 宣郎 野池 達也 間所 貢
 北松 治男 足立 一郎 伊藤 喜栄 小澤 一郎
 関 東 足立 一郎 伊藤 喜栄 加藤 昭
 尾澤 幸三 大木 成明 岸本 貞男 久保田 穰
 加藤 敏治 城処 求行 小寺 修二 佐藤 勝久
 桑原 洋 小岩井 実 津田 剛 早川 典生
 白砂 孝夫 須田 征男 宮崎 正義 森地 重暉
 藤井 友竝 松尾 友矩 大原重昭 大塚 昭夫
 会田 正 岩下 修 斉藤 顕次 斉藤 哲郎
 木村 泰三 久楽 勝行 富岡 亮一 中島 浩昭
 須賀 武 高橋 通夫 肥田木 修 渡辺 具能
 荻原 国宏 早川 勝一 山本 卓朗
 水川 憲和 内田 敏久 河上 省吾 川村 満紀
 中 部 内田 敏久 田村 伴次 德田 峯夫 畑中 昭吾
 鬼頭 徳就 原 俊夫 馬場 亮介 和里田義雄 松井 寛 吉田 浩一
 渡邊 晴朗 関 西 井田 憲治 江見 晋 大西 一行
 白石 成人 竹内 良夫 土屋 義人 芦見 忠志
 下口満喜衛 鈴木 伸彦 西田 一彦 西村 増雄
 播本 章一 藤井 崇弘 布施 洋一 藤田 賢二
 松岡 昂昭 三善 康平 宮井 宏 村岡 浩爾
 頼 千元 中国 四国 旭 一穂 榎並谷哲夫 金山 良治
 河野 清 斉藤 隆 高本 一裕 塚本 義昭
 野田 英明 針貝 武紀 溝口 忠 渡戸 健介
 西 部 稲富 敏泰 井上 靖武 今村 瑞穂
 木原 力 坂本 修一 彦坂 熙 藤本 順一
 古土井光昭 安原 宏紀

●1992 年度

会 長 藤井 敏夫
 副 会 長 尾坂 芳夫 岡村 甫 阪本 好史
 藤野 慎吾 三谷 浩
 専務理事 八木 純一

理事	池田 尚治 小林 芳夫 竹山 喬 戸田 隆志 廣田 良輔 松井 保 門田 博知 横内 利治 荒川 利輝	板倉 忠興 柴田 徹 長 尚 豊田 高司 深谷 一 三浦 尚 山田 清臣 渡邊 重幸 岩根 勇夫	片瀬 貴文 高松 良晴 塚田 正弘 野田 英明 星野 英二 南 旭 吉田 正吾	東 北 羽賀 隆 加藤 正進 藏持 慈男 霜島 稜一 津田 剛 橋口 誠之 磯島 茂男 久保田 莊一 須賀 武 藤井 友竝 門司 剛至 山崎 淳 中 部 宇野 尚雄 栗林 栄一 野村 志真 関 西 輕部 大藏 佐伯 彰一 中村 晃 松村 駿一郎 中国 四国 大久保 禎二 明神 証 西 部 河野 宏康	大原 克己 宮地 昭夫 今井 五郎 川原 睦人 桑原 章次 田村 勇 都丸 徳治 原田 邦彦 加藤 太重 軍司 昭二 竹内 幹雄 藤林 均 茂庭 竹生 山本 征彦 青山 俊樹 奥谷 巖 坂本 忠彦 部田 哲雄 今本 博健 紀陸 富信 樺木 亨 波田 凱夫 山本 第四郎 旭 勝臣 東川 昇 吉国 靖武 井上 修一	澤本 正樹 織田 直正 河田 博之 佐藤 明良 高山 明男 中村 浩幸 蛭間 豊春 木村 泰三 佐藤 陸 根本 洋 松郷 文人 森地 茂 渡辺 晃 大飼 隆一 河合 熙久 鳥居 久人	沼田 淳 加藤 敏治 北村 黎夫 佐藤 信秋 高山 知司 則武 晋 池村 雅司 北村 邦雄 進藤 昌明 野村 孝雄 三木 千壽 安岡 伸之 坂野 行雄 鬼頭 徳就 名川 叡助	小笹 太郎 近藤 豊太郎 竹澤 忠義 藤井 学 吉田 公憲 榎並 谷哲夫 新妻 俊三 江頭 素樹 三浦 英夫
監事	瓜田 一郎 星 清 大原 克己 間所 貢 会田 正 大塚 昭夫 木村 泰三 須賀 武 荻原 国宏 水川 憲和 北村 黎夫 佐藤 信秋 高山 知司 則武 晋 藤井 友竝	織田 紀雄 三浦 弘志 北松 治男 今井 五郎 織田 直正 久楽 勝行 高橋 通夫 早川 勝之 山形 耕一 藏持 慈男 霜島 稜一 津田 剛 橋口 誠之 茂庭 竹生	金井 拓一郎 志賀 宣郎 岩下 修 加藤 敏治 齊藤 顕次 富岡 亮一 肥田 木修 川原 睦人 桑原 章次 田村 勇 都丸 徳治 原田 邦彦 森地 茂	徳就 叡助 寛 伸彦 浩一 正秀 学 公憲 昇 東川 功 入江 宏紀 安原	●1994 年度 会 長 中村 英夫 副 会 長 河野 清 専 務 理 事 河野 治芳 理 事 河野 宏 網野 定三 片山 恒雄 小柳 洽 定道 成美 西村 昭三 平野 宗夫 南 旭 渡辺 英一 奥村 威俊	関 厚 芳村 仁 伊藤 達次 工藤 智明 坂井 順行 鮎川 登 野池 達也 北條 紘次 山本 卓朗 和里田 義雄 松浦 先信	中川 博次 大橋 雄六 栗原 和夫 斉藤 隆 清野 茂次 葉山 莞児 松橋 数保 吉越 治雄	織田 紀雄 田崎 忠行 池村 雅司 梅園 輝彦 北村 邦雄 進藤 昌明 野村 孝雄 門司 剛至 岡田 耕 近藤 秀明 高瀬 三郎
●1993 年度	竹内 良夫 岡村 甫 中川 博次 河野 宏 網野 定三 大橋 雄六 河野 清 鮎川 登 長 尚 野田 英明 南 旭 吉越 治雄 岩根 勇夫	近藤 徹 芳村 仁 池田 尚治 栗原 和夫 坂井 順行 清野 茂次 戸田 隆志 葉山 莞児 山本 卓朗 渡辺 英一 松浦 先信	小野 和日 小林 芳夫 柴田 徹 竹山 喬 野池 達也 牧野 成雄 吉田 正吾	堤 一 後藤 浩一 田村 正秀 藤井 学 吉田 公憲 東川 昇 入江 功 安原 宏紀	監 事 評 議 員 北 海 道 小 林 徳宏 東 北 澤 本 正樹 関 東 磯 島 茂男 岡 田 勝也 久 保 田 莊 一 須 賀 武 藤 林 均 山 崎 淳 奥 澤 靖司 塩 見 哲	瓜 田 一 郎 星 清 加 賀 田 晋 成 沼 田 淳 浅 野 光 行 井 上 聰 史 加 藤 太 重 軍 司 昭 二 竹 内 幹 雄 松 郷 文 人 山 本 征 彦 小 菅 正 道 篠 原 修	尾 形 浩 森 吉 昭 博 神 部 壽 行 羽 賀 肇 青 野 捷 人 池 田 駿 介 木 村 泰 三 佐 藤 陸 根 本 洋 三 木 千 壽 渡 辺 晃 小 林 正 樹 鈴 木 藤 一 郎	織 田 紀 雄 田 崎 忠 行 池 村 雅 司 梅 園 輝 彦 北 村 邦 雄 進 藤 昌 明 野 村 孝 雄 門 司 剛 至 岡 田 耕 近 藤 秀 明 高 瀬 三 郎

塚本 正雄	土屋 進	中村 靖	野嶋 弘孝	竹澤 忠義	松村駿一郎	山本第四郎	吉田喜七郎
藤本 貴也	三澤 邁策	宮川 孝仁	山下 清明	小林 昭一	佐々木茂範	土岐 憲三	早川 知夫
吉越 洋				向 正	山本 邦夫	遊川 健三	
中 部	青山 俊樹	犬飼 隆一	坂野 行雄	中国 四国	旭 勝臣	河村 正士	今田 光則
奥谷 巖	河合 熙久	北浦 勝	鬼頭 徳就	新妻 俊三	日月 俊昭	古川 恒雄	満下 直紀
栗林 栄一	名川 毅助	野村志真夫	馬場 亮介	道上 正規	明神 証	森高 伸二	
前橋 隆介				西 部	江頭 素樹	梶 太郎	楠田 哲也
関 西	飯田 邦夫	岩本 樹雄	小笹 太郎	坂本 修一	三浦 英夫	武富 一三	吉岡 和徳
岡村 宏一	片瀬 貴文	軽部 大蔵	紀陸 富信				

9.4 土木学会賞受賞者 注：論文名のあとのカッコ内は会誌・論文集（論文報告集）等の掲載誌の区分および巻号を示す。

年 度	賞 別	受 賞 者	題 目 お よ び 登 載 誌 巻 号
1920年	学 会 賞	物 部 長 穂	： 載荷せる構造物の震動並に其の耐震性に就て（会誌 6-4）
1921年	〃	日 比 忠 彦 高 橋 逸 夫	： 混凝土の弾性係数に関する実験（会誌 7-6）
1922年	〃	森 垣 亀一郎	： 神戸税関海陸運輸連絡設備概要（会誌 8-4）
1923年	〃	高 西 敬 義	： 繫船岸壁の構造及び之が築設に関する構造上の私見（会誌 9-4）
1924年	〃	井 口 鹿 象	： 矩形床版の撓度並に応力に就て（会誌 10-6）
1925年	〃	大 河 戸 宗 治	： 拱橋の設計に就て（会誌 11-5）
1926年	〃	草 間 偉	： 支線式無線電信柱（会誌 12-4）
1927年	〃	宮 本 武之輔	： {Verdrehungsversuche mit Unbewehrten und Bewehrten Betonkörpern.（会誌 13-1）
1928年	〃	山 口 昇	： {Thermal Flexure of a Thin Plate heated on one Surface Extensional Stresses taken into Account.（会誌 14-3）
1929年	〃	田 中 豊	： On Strength of Columns with Variable Cross Section.（会誌 15-3）
1930年	〃	新 井 栄 吉	： {C. Runge's Theorem に依る積分曲線を用いて種々なる Surge Tank の研究（会誌 16-7）
1931年	〃	三 浦 七 郎	： 単鉸拱模型試験，単鉸拱震動に関する考究（会誌 17-11, 12）
1932年	〃	鶴 見 一 之	： 沈降速度の理論及実験（会誌 18-10）
1933年	〃	福 田 武 雄	： Theorie der Roste und ihre Anwendungen.（会誌 17-5, 10, 18-6, 19-6, 7, 10）
1934年	〃	堀 越 一 三	： 軌条の挫屈について（会誌 20-10）
1935年	〃	鷹部屋 福 平	： 不静定構造の解法に応用したる撓角分配法（会誌 21-1）
	〃	池 田 篤三郎	： 鑄鉄管に於ける流量に就て（会誌 21-2）
1936年	〃	三 瀬 幸三郎	： 連続拱橋の解法（会誌 22-11）
1937年	〃	鮫 島 静 夫 黒 田 静 夫	： 清水港岸壁の復旧並に補強工事に就て（会誌 23-9）
1938年	〃	吉 町 太郎一	： 任意の数の集中荷重を担ふ可撓性索条に就て（会誌 24-7）
	〃	岩 崎 富 久	： 濾過阻止率の計算（会誌 24-8, 9）
1939年	〃	安 蔵 善之輔	： 一土圧公式と其の図式解法（会誌 25-5）
	〃	大 坪 喜久太郎	： 底面激変箇所における流体運動（会誌 25-12）
1940年	〃	吉 田 徳次郎	： 最高強度コンクリート製造方法に就て（会誌 26-11）
1941年	〃	内 海 清 温	： {玉石入り砂礫層の河川に設けたる取水堰基礎止水壁潜函工事の一例（会誌 27-11）
1942年	〃	安 芸 皎 一	： {河相論主として河相と河川工法との関連性についての研究（会誌 27-10, 11, 29-3, 4）
1943年	〃	最 上 武 雄	： 乾燥砂の運動機構に就て（会誌 28-5, 12, 29-6, 10）
	〃	横 道 英 雄	： 河西橋に関する報告及び研究（会誌 28-7, 8, 29-2, 7）
	〃	赤 沢 常 雄	： コンクリートの圧縮に依る内部応力を求める新試験法（会誌 29-11）
1944年	〃	水 野 高 明	： {砂地盤の支持力（会誌 28-11, 29-5） 凝集力を有する土の支持力（論 1）
	〃	本 間 仁	： 射流現象特に射流の流体抵抗に就て（会誌 28-5, 論 1）
1949年	〃	釘 宮 茂 繁 星 野 樹 二 加 納 俊 二	： 鉄道関門隧道工事に就て（会誌 32-1）
	〃	平 井 敦	： 吊橋の振り振動に対する安定性に就て（会誌 28-9, 論 1, 2）

1950年	学会賞	岡本舜三	素掘坑の強さに関する弾性学的考察(論3)
	〃	友永和夫	新しい青函連絡用可動橋に就て(会誌33-1)
	奨励賞	浜田徳一	河口不等波に於ける乱れ粘性係数の一例(論4)
1951年	学会賞	吉川秀夫	感潮河川の計算(論3)
	〃	谷藤正三	路盤の支持力に関する土質力学的研究(会誌35-6)
	奨励賞	國分正胤	新旧コンクリートの打継目に関する研究(論8)
1952年	学会賞	岩垣雄一	網代港埋没に関する飛砂の影響について(会誌35-6)
	〃	畑野正	重力ダムの動力学的研究(総合題目)(会誌36-10, 11, 論3, 5, 6)
	奨励賞	丸安隆和	地上写真の凶化方法と地籍測量への利用性について(会誌36-12)
1953年	学会賞	田中茂	急斜面の土壌浸蝕の実験的研究(論6)
	〃	林泰造	{ Mathematical Study of the Motion of Intumescences in Open Channels of Uniform Slope. (論11)
	奨励賞	小西一郎	突合せ溶接継手の許容応力について(会誌37-2)
1954年	学会賞	森田定市	三池炭鉱における人工島工事(会誌37-6, 8)
	〃	久保慶三郎	セメントモルタルの塑性とクリープ(論13)
	奨励賞	安部清孝	ランガー橋の振動に関する研究(論14)
1955年	学会賞	畑中元弘	土堰堤の振動に関する3次元考察(会誌37-10)
	〃	坂本貞雄	トンネルのコンクリート覆工から切取ったコアの圧縮強度試験(会誌38-1)
	奨励賞	猪股俊司	プレストレストコンクリート桁に関する研究(論17)
1956年	学会賞	水野俊一	現場コンクリートの品質を管理するに際して二、三の問題(論16)
	〃	赤井浩一	{ 堤体二次元圧密の研究(論16) 盛土の施工制御に関する考察(会誌38-9)
	奨励賞	樋口芳朗	工学材料の模型解析(会誌38-9)
1957年	学会賞	星楚和	土の力学における塑性の基本理論と三軸試験への適用(論21)
	〃	後藤尚男	橋脚地盤の基礎係数値分布に関する実験的研究(会誌39-6)
	奨励賞	森麟	土の水に対する安定性について(会誌39-10)
1958年	学会賞	仁杉巖	{ 支間30mのプレストレストコンクリート鉄道橋の設計施工およびこれに関連して行った実験研究の報告(論27)
	〃	吉越盛次	混和材としてのフライアッシュに関する研究(論31)
	奨励賞	椿東一郎	{ 砂漣をとまなう捷流作用について(会誌40-8) 浮流流砂が流れに及ぼす影響について(会誌48-9)
1959年	学会賞	米沢博	{ 直交異方性板理論の斜桁橋構造への適用に関する研究(会誌40-10) 直交異方性板理論の連続桁橋構造解析への適用に関する研究(会誌40-11)
	〃	熊川信之	上椎葉アーチダム工事について(会誌41-4, 5)
	奨励賞	村上永一	西海橋(伊ノ浦橋)工事概要(会誌41-4, 5)
1959年	学会賞	能町純雄	弾性基礎にある四辺四隅とも自由な矩形板の曲げについて(論32)
	〃	山内利彦	電気相似法による二、三の問題の実験解析(論38)
	奨励賞	扇田彦一	上水道送配水管路の設計上の諸問題(会誌42-6)
1959年	学会賞	木下良作	河床における砂礫堆の形成について(論42)
	〃	小坪清真	{ アーチダムに働く地震時動水圧(論44) アーチダムに働く動水圧の模型実験(論46) 不規則な地震動による動水圧(論47) 動水圧の減衰作用がダムの耐震性におよぼす影響について(第1回地震工学研究発表会講演概要)
	奨励賞	中ノ上住友 尾光信 土友彰	関門海底道路トンネル(会誌43-5)
1959年	学会賞	藤井松太郎	{ 大阪駅の沈下およびそれに伴う被害に関する研究並びにその対策について(論58)
	〃	佐藤志郎	小河内ダム工事報告(会誌43-12)
	奨励賞	岩佐義朗	{ 幅の漸変する水路における水流の遷移現象と境界特性との関連に関する理論的研究(論59・別冊3-1)
1959年	学会賞	山口柏樹	{ 拡張せるKötterの方程式に関する二、三の考察(論60) 摩擦塑性体のにりの幾何学(論61) 塑性流動における速度場の理論(論63) Kötterの方程式の理論土質力学への適用(論65)
	〃	奥村敏恵	高張力鋼におよぼす溶接熱量の影響(会誌44-11)

1960年	奨励賞	千秋信一保	揚水式サージタンクの水利計算について (第14回年次学術講演会概要)
	学会賞	小野木次郎	鉄道軌道変位の研究 (鉄道技術報告123)
	〃	永井莊七郎	{ 風と波を考慮した海岸堤防の形状と構造に関する研究 (第7回海岸工学講演会講演集) 混成防波堤の直立部の滑動と直立部底面に働く揚圧力について (第7回海岸工学講演会講演集)
1961年	奨励賞	樫木亨	漂砂の運動機構に関する基礎的研究 (第7回海岸工学講演会講演集)
	〃	室田明	開水路分水工の研究 (論71-1)
	〃	野沢太三	膨張性地山におけるずい道の土圧と施工法について (土と基礎8-5, 6)
	学会賞	君島博次	ダムコンクリートのクリープに関する研究 (論72, 電力中研技研所報10-5, 6)
	〃	大石重成	{ コンクリート造鉄道建造物に現れる欠陥とその補強法に関する研究 (鉄道技研報告168)
	奨励賞	日野幹雄	{ 開水部における乱流構造の基礎および水理学への応用に関する一連の研究 (電力中央研究所英文技術報告C6101, C6103)
1962年	〃	倉西茂	{ 水平横荷重を受けるアーチ橋について (論73) アーチ橋のねじれ座屈について (論75) 曲線格子桁の解法 (論76)
	吉田賞	三上通精 細谷浩正	(業績) フライアッシュをペーストとして使用する方式の確立 (論71)
	〃	和川仁口 菅原達輝 野田義夫	{ (論文) 小丸川PC鉄道橋の架替え工事ならびにこれに関連して行った実験的研究報告 (論76)
	学会賞	高野稔	アーチダムの基礎の安全性に対する実験的検討方法に関する研究 (論78)
	〃	永田年	ダムコンクリートの品質管理について (論84)
1963年	奨励賞	芳村仁	{ 曲線直交異方性扇形平板の曲げについて (論82) 曲線直交異方性変厚扇形平板の曲げについて (論86)
	〃	土屋義人	{ 滑面水路床の下流端における洗掘限界 (論80) 水門下流部における洗掘限界に関する研究 (論82)
	吉田賞	山崎寛司	{ 鉱物質微粉末がコンクリートのウォーカビリティーにおよぼす効果に関する基礎研究 (論84) 鉱物質微粉末がコンクリートの強度におよぼす効果に関する基礎研究 (論85)
	〃	石田一郎	{ 添え梁を用いるアンダー・ピンニング工法に関する研究 (鉄道技術研究報告300)
	〃	村田二郎	コンクリートの水密性の研究 (論77)
	学会賞	瀧山養	鉄道幹線輸送力増強方式の研究 (鉄道技術研究所報告342 施設編141号所載)
	〃	三笠正人	{ 粘土の圧密とセン断に関する一連の研究 (土と基礎11-3, 土質工学会関西支部講習会テキスト38年3月, 第18回年次学術講演会講演概要, 「軟弱粘土の圧密」鹿島研究所出版会刊行, 土質工学会秋季講演会38年11月)
1964年	奨励賞	林正夫	{ 不連続な節理性基盤の応力伝播と強度評価の基礎的研究 (総合題目) (第18回年次学術講演会講演概要, 電力中研技報(土木63007, 630011), 第2回岩盤力学に関するシンポジウム講演概要)
	〃	大長昭雄	アーチダムの基盤内の浸透流に関する実験的研究 (論97)
	〃	深沢泰晴	軸圧縮力を受ける円弧アーチの曲げねじれ座屈に関する研究 (論96)
	吉田賞	樋口芳朗	{ 微細な空けきてん充のためのセメント注入における混和材料に関する研究 (論81)
	〃	岩間滋	{ コンクリート舗装の構造設計に関する実験的研究 (土木研究所報告109, 112, 117)
	学会賞	毛利正光	駐車実態調査方式の研究 (論112)
1964年	〃	川崎偉志 藤川一夫 乙下浩哲 池田吉敏	{ 若戸大橋の調査, 設計施工に関する業績 (若戸大橋工事報告書(38年10月) 日本道路公団福岡支社編, 若戸大橋工事報告書(39年2月)土木学会発行)
	奨励賞	加藤昭吉	{ 土木工事におけるPEPT手法の導入と開発に関する業績 (新しい工事計画と管理の技法(38年10月) —PERT CPMの理論と使い方—経営工学協会発行, 会誌49-6)
	〃	島田静雄	{ 横荷重ねじれ, ならびに垂直荷重をうける吊橋の計算を電子計算機にかけるためのプログラム (論102) 吊橋ケーブルの水平反力簡易算定法 (論104)

1965年	吉田賞	藤田嘉夫	： {単純曲げを受ける鉄筋コンクリート桁およびプレストレストコンクリート桁の極限強さ設計法に関する研究 (北海道大学工学部研究報告 32)}
	功績賞	内海清温	鈴木雅次
	技術賞	日本国有鉄道	： 東海道新幹線の建設
	◇	関西電力(株)	： 黒部川第四発電所の建設
1966年	論文賞	林泰造	： {Thrusts Exerted upon Composite-Type Break-waters by the Action of Breaking Waves. Virtual Mass and the Damping Factor of the Break Water During Rocking and the Modification by their Effect of the Expression of the Thrusts Exerted upon Breakwaters by the Action of Breaking Waves. (Coastal Engineering in Japan Vol. 8, 1965)}
	論文奨励賞	久保浩一	： {垂直控え杭の横抵抗 (土と基礎 13-5/40年5月) 杭の横抵抗の新しい計算法 (港湾技術研究所報告 2-3/39年3月)}
	◇	石原研而	： {非可逆的線熱力学にもとづく熱の影響を考慮した圧密理論 (論 113) 粘弾性的物質の変形係数におよぼす荷重速度の影響 (論 117)}
	◇	中村英夫	： 航空写真と電子計算機による道路線の設計法 (論 106)
	◇	土岐憲三	： {Vibrational Characteristics and Aseismic Design of Sub-marged Bridge Piers. (京都大学工学部紀要 27-1/40年1月)}
	吉田賞	赤塚雄三	： {港湾工事におけるプレバドコンクリートの施工管理に関する基礎研究 (港湾技術研究所報告 4-6/40年7月)}
	功績賞	田淵寿郎	青木楠男
	技術賞	日本道路公団	： 名神高速道路の建設
	論文賞	小中松定夫 井 博	： 曲線桁橋の自由振動に関する研究 (英文) (論 136)
	論文奨励賞	佐藤吉彦	： {乗心地の立場から見た軌道高低狂いの整備限度 (鉄道技術研究報告 549/41年8月)}
◇	首藤伸夫	： 長波のうちあげ高 (第13回海岸工学講演会講演集/41年12月)	
◇	柴田 徹	： {Flow and Stress Relaxation of Clays (著者名 村山朔郎・柴田 徹) (Rheology and Soil Mechanics, 1966 International Union of Theoretical and Applied Mechanics.)}	
吉田賞	丸安隆和 小本一好 坂 輔史	： 高炉セメントコンクリートの研究 (東京大学生産技術研究所報告 15-4)	
◇	松本嘉司	： {鉄道橋としての鉄筋コンクリート斜角げたの設計に関する研究 (鉄道技術研究報告 481/40年6月)}	
田中賞	論文部門	平岡敦功 宮内利雄	： {On the Behavior of Suspension Bridge under Wind Action (Proc. of Symposium on Suspension Bridges/40年11月)}
1967年	作品部門	天門橋 (天草五橋のうち) (日本道路公団, 道路橋, 鋼トラス)	
	◇	目黒架道橋 (首都高速2号線) (首都高速道路公団, 道路橋, PC 箱桁)	
	功績賞	草間 偉	沼田 政矩
	技術賞	首都高速道路公団	： 首都高速道路の建設 (羽田線, 目黒線, 渋谷線, 代々木線, 環状線)
	論文賞	天野光三	： {交通施設整備の地域経済効果に関する研究 (運輸と経済 27-11/41年11月, 同 27-12/41年12月)}
	論文奨励賞	和田 明	： {入江内における冷却水取・放水の研究 (第13回海岸工学講演会講演集 41年12月, 第14回/同 42年10月)}
◇	合田良實	： {直柱に働く衝撃碎波力の研究, 有限振幅重複波ならびにその波圧に関する研究 (港湾技術研究所報告 5-6/41年4月, 同 5-10/41年6月)}	
吉田賞	岡村 甫	： {高張力異形鉄筋の使用に関する基礎的研究 (コンクリートジャーナル 4-2/41年2月, 同 4-6/41年6月)}	
田中賞	論文部門	伊藤 学	： {Respons of Suspension Bridges for Moving Vehicles (東京大学工学部紀要 29-1/42年3月)}
1968年	作品部門	名護屋大橋 (佐賀県, 道路橋, PC 箱桁)	
	◇	福島高架橋 (阪神高速道路大阪池田線) (阪神高速道路公団, 道路橋, 鋼箱桁)	
	功績賞	原口忠次郎	永田 年
技術賞	日本国有鉄道 帝都高速交通管団	： {過密都市における鉄道の整備計画および施工 (地下鉄5号線東陽町・中野間, 国鉄中野・荻窪間相互乗入工事)}	

1969年	論文賞	堀川清司	： { 漂砂の移動機構に関する基礎的研究 (総合題目) (Coastal Engineering in Japan. Vol. 10/42年12月, 第15回海岸工学講演会 講演集 (著者名:堀川清司・渡辺 晃)/43年12月)
	〃	岩佐義朗	： { Free Surface Flow Over a Wave Bed, Journal of the Hydraulics Division (Proc. ASCE (著者名:岩佐義朗・John F. Kennedy) 43年3月)
	〃	佐佐木 明神	網証] : 都市高速道路網における流入ランプ制御 (英文) (論160)
	論文奨励賞	西野文雄	： { Residual Stress and Torsional Buckling Strength of H and Cruciform Columns (論160 (著者名:西野文雄・Lambert Tall・奥村敏恵) 43年12月)
	吉田賞	尾坂芳夫	： { コンクリートの品質管理に関する基礎研究 (総合題目) (論158, コンクリー トライブラリー18/43年3月)
	田中賞		
	論文部門	小西一郎 山田善一 高岡寛善] : 長大つり橋の地震応答と耐震設計法に関する研究 (論159)
	作品部門	尾道大橋	(日本道路公団, 道路橋, 斜張橋)
	〃	浜名湖橋	(日本道路公団, 道路橋, 鋼箱桁)
	〃	第三綾瀬高架橋	(日本国有鉄道, 鉄道橋, 鋼・コンクリート合成ラーメン)
功績賞	久保田 豊	岡部 三郎	
技術賞	東京電力(株)	： 梓川筋の大容量揚水発電所の建設	
論文賞	後藤 尚 藤田 弘	男行] : 地震時における最大地動の確率論的研究 (論159)	
〃	市原 薫	： { 路面のすべり抵抗に関する研究 (建設省土木研究所報告135号の3/44年2 月)	
論文奨励賞	吉田 裕	： 任意形状の平板曲げの数値解析法 (論167)	
〃	木村 孟	： 二層地盤の力学性状に関する解析的研究 (論162)	
吉田賞	西林新蔵	： { 人工軽量骨材コンクリートに関する研究 (総合題目) (論146, 155, コンクリー トジャーナル第7巻1号/44年1月, コンクリートライブラリー第24号/44 年10月)	
田中賞			
論文部門	伊藤 文人	： 実働荷重による鉄道橋の疲労被害推定 (鉄道技術研究報告No.676/44年4月)	
〃	後藤 茂夫	： { 有限変形法による吊橋の解法 (論156) { 有限変形法による二, 三の考察 (論163)	
作品部門	オークランドハーバー橋	(拡幅部) (オークランド市, 道路橋, 鋼箱桁)	
〃	首都高速両国大橋	(首都高速道路公団, 道路橋, 鋼箱桁)	
〃	阪神高速新大和川大橋	(阪神高速道路公団, 道路橋, PC箱桁)	
1970年	功績賞	鮫島 茂	岡田 信次
技術賞	日本鉄道建設公団	： 京葉線羽田トンネル多摩川横断部沈埋トンネル工事	
〃	阪神高速道路公団	： 万国博覧会関連の都市高速道の建設	
論文賞	市原 松平	： { 平面ひずみ状態と軸対称ひずみ状態における乾燥砂のせん断特性, 壁変位中に おける土圧特性と裏込め砂せん断特性の関連 (論173, 176)	
〃	佐藤 裕 樋口 芳朗] : 道床部に着目した新軌道の研究 (論184)	
論文奨励賞	坂井 藤一	： 薄肉平板より成る立体的構造物の静力学的解析に関する一方法と応用 (論176)	
〃	星谷 勝	： { 確率論的手法にもとづく構造解析に関する一連の研究 (総合題目) (論180, 183, 184)	
吉田賞	山田 順治 寺塚 秀男 塚山 隆一] : 急速施工を目的とした特殊セメントの開発並びに実用化 (業績)	
田中賞			
論文部門	該当なし		
作品部門	神戸大橋	(神戸市, 道路橋, 鋼アーチ)	
〃	富士川水管橋	(静岡県, 水管橋, 鋼アーチ)	
〃	加古川橋りょう	(山陽新幹線) (日本国有鉄道, 鉄道橋, PC箱桁)	
1971年	功績賞	稲浦 鹿蔵	田中 茂美
技術賞	日本国有鉄道大阪新幹線工事局	： { 山陽新幹線六甲トンネルの建設一高圧湧水を伴う大断層破さ い帯突破工法一	
〃	大阪府土木部	： 大阪高潮対策事業としての安治川防潮水門	

	論文賞	原田 実	： {貨物輸送近代化に伴う最適輸送配分とネットワーク上の適正配置についての研究 (鉄道技術研究報告 777)}
	論文奨励賞	渡辺 啓行	： {フィルダムの地震応答解析法に関する一連の研究 (総合題目) (電研技術研究報告 680332, 68050, 71004, 71009)}
	〃	武内 等	： 確率モデルによる多孔体内の流れのシミュレーション (論 187)
	〃	太田 秀樹	： 異方圧密粘土の状態曲面について (英文) (論 196)
	吉田賞	後藤 幸正	： {鉄筋コンクリートの付着およびびびわれに関する研究 (総合題目) (Journal of the American Concrete Institute, April 1971, 4 Proceedings. 68, コンクリートライブラリー 2/37年12月, 同14/40年12月)}
	田中賞		
	論文部門	該当なし	
	作品部門	吉井川橋りょう (山陽新幹線) (日本国有鉄道, 鉄道橋, PC箱桁)	
	〃	京浜大橋 (東京都, 道路橋, 鋼箱桁)	
1972年	功績賞	富樫 凱一 福田 武雄	
	技術賞	日本石油 (株)	： 日本石油喜入原油貯蔵中継基地の建設
	論文賞	山村 和也	： {河川堤防の土質工学的研究 (総合題目) (建・土研研究 140-3, 142-2, 145-1, 2, 3)}
	論文奨励賞	村井 俊治	： {土木計画, 設計における地形情報処理システムに関する研究 (総合題目) (第12回国際写真測量学会論文 47年7月, 東大生研研究報告 1, 46年4月, 同2/46年5月, 同3/47年7月, 同4/47年7月, 会誌 55-10, 57-8, 13, 論 197)}
	吉田賞	長瀧 重義	： 膨張セメントコンクリートに関する研究 (論 206, 207)
	田中賞		
	論文部門	該当なし	
	作品部門	浦戸大橋 (日本道路公団, 道路橋, PC箱桁)	
	〃	生の浦大橋 (三重県, 道路橋, 鋼アーチ)	
	〃	境水道大橋 (日本道路公団, 道路橋, 鋼トラス)	
1973年	功績賞	藤井 松太郎 石原 藤次郎	
	技術賞	電源開発 (株)	： 新豊根, 沼原両揚水式発電所の建設
	〃	日本道路公団	： 関門橋の建設
	論文賞	岡村 宏一	： {連続体の弾性および弾塑性問題の解法に関する一連の研究 (総合題目) (論 190, 196, 206, 212)}
	論文奨励賞	玉井 信行	： {沿岸水域における拡散, 分散問題の統一的な研究 (英文) (東大工学部紀要 Vol.31, No.4)}
	〃	竹宮 宏和	： {非線形履歴構造物のランダム応答解析 (総合題目) (論 219, 第20回橋梁・構造工学研究発表会/48年11月)}
	吉田賞	藤井 敏夫	： {「堅岩基礎のグラウチング」ならびに「ダム基礎における岩盤計測とその設計, 施工への応用」(第2回岩の力学講演会 48年2月, 第5回ダム技術講演討論会/48年3月)}
	〃	松島 博	： ねじりをうける鉄筋コンクリート部材の設計法に関する研究 (論 218)
	田中賞		
	論文部門	奥村 敏恵 笹戸 本二 松河 井章 大好	： {80キロ級高張力鋼を使用した長大トラス橋の設計について (総合題目) (第19回橋梁・構造工学研究発表会 47年12月, 論 212, 橋梁と基礎 Vol.7, No.6, 7/48年6月, 7月)}
	〃	長谷川 一 菅原 七郎 田 康夫	： {吊橋補剛桁の架設工法について (総合題目) (横河橋梁技報 47年1月, 48年11月, 橋梁と基礎 Vol.4, No.4/45年4月)}
	作品部門	関門 橋 (日本道路公団, 道路橋, 吊橋)	
	〃	高島平高架橋 (首都高速道路公団, 道路橋, PC桁)	
	〃	広島大橋 (日本道路公団, 道路橋, 鋼箱桁)	
1974年	功績賞	安芸 皎一 米田 正文	
	技術賞	日本国有鉄道広島新幹線工務局	： {岩鼻架道橋の建設—プレストレストコンクリートトラス鉄道橋の設計・施工—}
	〃	鹿島建設 (株)	： 三菱重工工業株式会社長崎造船所香焼工場 100万トンドック建設工事
	〃	日本国有鉄道	： 山陽新幹線の建設
	〃	阪神高速道路公団	： 港大橋の建設
	論文賞	日野 幹雄	： 水流出出予測へのカルマン・フィルター理論の適用 (論 221)

	論文賞	横山 浩雄 : {鉄道シールドトンネルにおけるコンクリートセグメントの設計施工に関する研究 (鉄道技術研究所報告 No.934/49年10月)}
	論文奨励賞	家村 浩和 : 強震記録を利用した R.C. 建築物の劣化履歴復元力解析 (論 230)
	〃	竹内 邦良 : {大規模貯水池群の最適制御に関する研究 (総合題目) (論 222, 228, Water Resources Research Vol. 10 No. 3/49年6月)}
	〃	藤田 昌久 : 都市施設の長期的最適配置過程に関する研究 (論 222)
1975年	吉田賞 田中賞	該当なし
	論文部門	田中 征登 亀村 利彦 丸安 雄二 } : {橋梁の設計現図一貫電算システム (総合題目) (会誌 59-2, 橋梁 49年2月, 第11回日本道路会議一般論文集 48年11月)}
	〃	西村 昭 : 鋼部材摩擦接合の信頼度向上に関する研究 (総合題目) (論 180, 187, 188, 220)
	作品部門	山陽新幹線岩鼻架道橋 (日本国有鉄道, 鉄道橋, PCトラス)
	〃	ゴールデンホール橋 (石川島播磨重工業株式会社) (トルコ, 道路橋, 鋼桁)
	〃	外津 橋 (佐賀県, 道路橋, RCアーチ)
	〃	港大 橋 (阪神高速道路公団, 道路橋, 鋼トラス)
1975年	功績賞 技術賞	篠原 武司 柳沢 米吉 建設省中国地方建設局太田川工事事務所 : 中流部多目的堰流量制御システム—高瀬堰建設事業— 日本道路公団 : 恵那山トンネルの建設
	〃	日本鋼管(株) : 扇島海上製鉄所建設に関する土木工事
	〃	運輸省第二港湾建設局 : 鹿島港の建設
	論文賞	田村 重四郎 : {Dynamic Behavior of A Submerged Tunnel During Earthquake (東京大学生産技術研究所報告第24巻5号/50年3月)}
	〃	中川 博次 福津 家久 } : 開水路流の乱流構造に関する研究 (総合題目) (論 231, 241, 244)
	論文奨励賞	稲村 肇 : 地域住民の反応と路線選定 (論 239)
	〃	佐藤 道郎 : 不等流を遡る波の波高変化に関する基礎的研究 (論 242)
	〃	長谷川 彰夫 : {枠組および補剛材で補強された薄板集成構造の耐力 (総合題目) (論 232, 234, 235, 236)}
	〃	諸戸 靖史 : 砂のような粒状体のせん断変形に関する基礎的研究 (総合題目) (論 229, 239)
	〃	山口 正隆 : {円柱に作用する波圧・波力に及ぼす波の非線形効果に関する研究 (総合題目) (論 227, 229)}
	吉田賞 田中賞	百島 祐信 : {カンチレバー架設したプレストレストコンクリート橋の断面力および挙動の研究 (論 240)}
	論文部門	阿部 英彦 : {鉄道用合成桁のずれ止めに関する実験的研究 (鉄道技術研究所報告第961号施設編第434号/50年3月)}
	〃	小堀 為雄 梶川 康男 } : 道路橋の振動とその振動感覚に関する研究 (論 222, 230)
	作品部門	かもめ大橋 (大阪市土木局・港湾局, 道路橋, 斜張橋)
	〃	第二摩耶大橋 (神戸市, 道路橋, 鋼箱桁)
	〃	東北新幹線第二阿武隈川橋りょう (日本国有鉄道, 鉄道橋, PC桁)
1976年	功績賞 技術賞	堀 威夫 本間 仁 東京電力(株) : 高瀬川開発工事における地下発電所の設計施工
	〃	大阪府企業局 新日本製鐵(株) 東洋建設(株) } : プレハブ鋼矢板セル工法による産業廃棄物埋立護岸の急速施工
	技術賞	日本国有鉄道東京第一工事局 : 東海道本線東京・品川間地下新線の建設
	〃	首都高速道路公団 : 東京港トンネルの建設
	〃	運輸省第四港湾建設局 長崎県 } : 長崎空港の建設
	論文賞	田村 浩一 : {橋梁井筒基礎の耐震設計に関する基礎的研究 (鉄道技術研究所報告 No.1000/51年7月)}
	〃	合田 良實 : {不規則波に対する港湾構造物の設計法に関する研究 (総合題目) (論 253, 運輸省港湾技術研究所報告第12巻3号/48年9月, 同第13巻1号/49年3月, 同第14巻3号/50年9月, 同第14巻4号/50年12月, 同所資料 No.230/50年12月)}

	論文賞	村山 朔 郎 : 砂の構成式に関する研究 (総合題目) (論 236, 251)
	論文奨励賞	中山 隆 弘 : {材料強度のばらつきを考慮した定常不規則振動体初通過破壊確率の研究 (論 250)}
	〃	池田 駿 介 : {河川の二次流と河道形状に関する研究 (総合題目) (論 250, 251, 255, Proc. ASCE, Vol. 102, HY9/51年9月)}
	〃	川原 睦 人 : {連続体力学における有限要素法の適用に関する研究 (総合題目) (論 179, 194, 204, 247, 253, Int. Jour. for Numerical Methods in Eng. Vol. 10, No. 3/51年, Nuclear Eng. and Design Vol. 34, No. 2/50年11月)}
	〃	森 地 茂 : 通勤鉄道ネットワーク決定法に関する研究 (論 254)
	吉田賞	宮田 尚 彦 : {円状断面の部材を用いたコンクリート鉄道土木構造物特に橋台、橋脚の設計方法に関する研究 (鉄道技術研究所報告 No.934/51年2月)}
	田中賞	
	論文部門	小松 定 夫 : {トラスおよび補剛トラスを有する吊橋の立体的力学特性と実用設計法に関する研究 (総合題目) (論 236, 238, 248, Tech. Rep. of the Osaka Univ. Vol. 26/51年)}
	作品部門	旭江野橋 (大阪市, 歩道橋, PC固定ばり桁)
	〃	泉大津大橋 (大阪府, 道路橋, 単弦ローゼ桁)
	〃	大島大橋 (日本道路公団, 道路橋, 鋼トラス)
	〃	浜名大橋 (日本道路公団, 道路橋, PC箱桁)
	〃	平戸大橋 (日本道路公団, 道路橋, 斜張橋)
1977年	功績賞	黒田 静 夫 水野 高明 山本 三 郎
	技術賞	帝都高速度交通営団 : ルーフシールド式めがね形シールド駅の設計施工
	〃	電源開発(株) : 船明ダムの粘土系グラウト工事
	〃	神戸市道路公社 : 新神戸トンネルの建設
	〃	建設省近畿地方建設局真名川ダム工事事務所 : 真名川ダム建設事業
	〃	大阪府土木部 : 階層浄水場の建設
	論文賞	小高 坪 清 眞 彦 : 多柱基礎橋脚に対する水の付加質量の3次元解析 (論 259)
	〃	赤井 浩 一 : 浸透流解析の不飽和・非定常問題への拡張 (総合題目) (論 264, 268)
	〃	大西 西 有 三 誠
	論文奨励賞	阿井 正 博 : ケーブル構造に関する一理論解析 (論 260)
	〃	吉村 健 : インディシャル応答による橋梁断面のねじりフラッタの研究 (論 264)
	〃	沢井 健 二 : 粘着性流路の侵食と横断形状に関する研究 (論 266)
	〃	沢本 正 樹 : {振動流の乱流遷移と抵抗係数に関する研究 (論 237, 258, Journal of Fluid Mechanics, Vol. 75, Part 2/51年5月)}
	吉田賞	池田 尚 治 : コンクリート強度即時判定方法に関する研究 (総合題目) (論 255, 266)
	田中賞	
	論文部門	坂井 藤 一 : {鋼箱桁橋の中間ダイヤフラム設計法に関する研究 (総合題目) (論 261, 川崎技報 No.65/52年12月)}
	〃	長井 正 嗣
	〃	松浦 章 夫 : 高速鉄道における橋桁の動的挙動に関する研究 (論 256)
	作品部門	水郷大橋 (建設省関東地方建設局, 道路橋, 鋼箱桁・斜張橋)
	〃	蓮根歩道橋 (首都高速道路公団, 歩道橋, 立体鋼ラーメン箱桁)
	〃	速日峰橋 (宮崎県北方町, 歩道橋, PC吊床版)
	〃	六甲大橋 (神戸市港湾局, 道路橋, 斜張橋)
1978年	功績賞	岡本 舜 三 杉 戸 清
	技術賞	日本鉄道建設公団東京新幹線建設局 : {強引張性地山における吹付コンクリートとロックボルト(株)熊谷組} : {併用を主体とするトンネル工法の設計・施工}
	〃	福岡市高速鉄道建設局 : {新たに開発した泥水固化工法による土留工法の施工-福岡市高速日本プレスコンクリート(株)} : {鉄道建設工事-}
	〃	京浜外貿埠頭公団 : 海上コンテナ埠頭の建設
	〃	阪神外貿埠頭公団
	〃	新東京国際空港公団 : 新東京国際空港第一期建設工事
	〃	東京瓦斯(株) : LNG地下式貯槽の研究開発と建設
	〃	日本国有鉄道東京第三工事局 : 東北新幹線総合試験線の建設

	論文賞	片山恒雄 岩崎敏男 佐伯昭	： 地震動加速応答スペクトルの統計解析 (論 275)
	論文奨励賞	石原研而	： {不攪乱砂の室内試験にもとづく地震時の液状化解析 (総合題目) (Soils and Foundation Vol. 17, No. 3/52年9月, 同Vol. 18, No. 4/53年12月, Proc. of DMSR 77, Vol. 2/52年9月)}
	論文奨励賞	北田俊行	： {初期不整を有する圧縮板及び圧縮補剛板の極限強度特性に関する研究 (総合題目) (論 265, 270, 日本鋼構造協会第11回大会発表論文 53年6月)}
		浜田政則	： 大型地下タンクの地震時挙動の観測と解析 (論 273)
		石川忠晴	： {河川の流砂に関する基礎的研究 (総合題目) (論 257, 266, ASCE Vol. 1, 14, HY7, 東工大研究報告 No.24/53年6月)}
		小松利光	： {表面密度噴流における乱れおよび流れ特性に関する研究 (題目) (論 268, 273, 第22回水理講演会 53年2月)}
		西好一	： {弾・塑性論にもとづく地盤材料の力学的挙動に関する研究 (総合題目) (論 271, 280)}
		檜貝勇	： 鉄筋コンクリートはりのせん断破壊に関する基礎研究 (論 279)
	吉田賞 田中賞	町田篤彦	： コンクリートの圧裂試験に関する基礎研究 (論 279)
	論文部門	倉西茂哉 矢吹哲	： 側方荷重の影響を考慮した2ヒンジ鋼アーチの面内極限強度について (論 272)
	作品部門	吾妻川橋りょう	(日本鉄道建設公団, 鉄道橋, PC 桁)
		川崎橋	(大阪市, 歩道橋, 斜張橋)
		帝積橋	(中国自動車道) (日本道路公団, 道路橋, RC アーチ)
		松ヶ山橋	(神奈川県企業庁, 道路橋, PC 斜張橋)
1979年	功績賞 技術賞	佐藤寛政 渡部彌作	
		日本鉄道建設公団盛岡支社 鹿島建設(株)	： 小本川橋梁の建設—PC 鉄道斜張橋の設計—
		日本国有鉄道仙台新幹線工事局	： 風化地盤 (マサ土) における NATM の本格的施工
		本州四国連絡橋公団	： リブ中間を拘束した鋼2ヒンジアーチ橋の設計施工
		運輸省第二港湾建設局 川崎市港湾局	： 川崎港海底トンネルの建設
		神奈川県内広域水道企業団	： 広域水道の建設
		東京電力(株)	： 高瀬川における水力再開発
		建設省近畿地方建設局琵琶湖工事事務所	： 野州川放水路建設事業
	論文賞	久保慶三郎	： {ライフラインの耐震性ならびに震害予測に関する研究 (総合題目) (ASCE Vol. 105, TC 1, 2nd U.S.N at. Conf. on Earthq. Eng. 1979-8)}
		土岐憲三	： 井筒基礎の地震応答解析に関する研究 (論 281)
		松尾稔 上野誠	： {信頼性理論による地盤関連構造物の設計法と斜面の破壊予知に関する研究 (総合題目) (論 276, 281, 289)}
	論文奨励賞	中村秀治	： {薄肉構造要素に表われる線形常微分方程式境界値問題の数値解法に関する研究 (総合題目) (論 271, 285, 289)}
		辻本哲郎	： {掃流過程の確率論的研究 (総合題目) (論 290, 291, Bulletin. D.P.R.I. Kyoto Univ. Vol. 29, Part 1 No. 261/54年7月)}
		国生剛治	： 軟弱地盤の非線形震動特性についての模型振動実験と解析 (論 285)
		松下博通	： 生存確率を考慮したコンクリートの圧縮疲労強度に関する研究 (論 284)
	吉田賞 田中賞	三浦尚	： 極低温下における鉄筋コンクリート部材の性質に関する研究 (論 285)
	論文部門	西村俊夫 島川三淳 奥三木志寿	： レ形溶接縦方向継手を有する鋼部材の疲れ強さ (論 291)
	作品部門	大三島橋	(本州四国連絡橋公団, 道路橋, 2ヒンジアーチ)
		鏡川水道橋	(高知市水道局, 水道橋, 水管橋)
		赤谷川橋梁	(上越新幹線) (日本鉄道建設公団, 鉄道橋, RC 逆ランガーアーチ)
		辰巳高架線	(首都高速道路公団, 道路橋, 鋼床版箱桁)
1980年	功績賞 技術賞	高野務 瀧山養	
		建設省中国地方建設局島地川ダム工事事務所	： {RCDコンクリート工法による島地川ダムの堤体施工}

	技術賞	日本鉄道建設公団青函建設局 日本国有鉄道大阪工務局 大成建設(株)] : 新たに開発された吹付コンクリート工法のトンネル工事への応用
	〃	秋田県 : 新秋田空港の建設
	〃	運輸省第三港湾建設局 阪神外貿埠頭公団 神戸市] : 港湾都市(ポートアイランド)の建設
	〃	日本国有鉄道 日本鉄道建設公団] : 積雪地帯における新幹線の雪対策
	〃	電源開発(株) : 手取川の総合開発
	論文賞	栗林栄一 : 地震被害の推定法に関する研究(総合題目)(論292, 建設省土木研究所資料1106, 1256, 1297, 日米天然会議第9回合同部会議事録1977, 第5回日本地震工学シンポジウム論文集, Proc. 7th WCEE)
	〃	福岡捷二 福岡嶋祐介] : 貯水池密度流の解明と予測に関する研究(総合題目)(論293, 294, 302, 第22回水理講演会論文集, 2nd Int. Symp. on Stratified Flow 55年, 東京工業大学土木工学科研究報告26/55年)
	論文奨励賞	川島一彦 : 強震記録を用いた道路橋井筒ケーソン橋脚の地震応答解析(論293)
	〃	菊池昇 : 変分不等式によるはりの接触問題(論294)
	〃	宮永洋一 : 濁質粒度が貯水池濁水現象に及ぼす影響について(論296)
	〃	駒田廣也 : 燃料ガスおよび放射性核種などの地下貯蔵構造物周辺における浸透拡散現象に関する研究(総合題目)(論288, 300, 電力中央研究所報告380029号, 380031号/55年12月)
	〃	魚本健人 : 高炉水砕スラグ・排煙脱硫石こう系セメントを用いたコンクリートの圧縮強度(論302)
	吉田賞	広瀬利雄 : RCD工法の研究(業績)(論303, コンクリートライブラリー46, セメント(業績)コンクリート/52年7月) (建設省RCD工法研究会代表)
	田中賞	
	論文部門	前田幸雄 前林正] : 橋梁骨組構造の非線形解析法とアーチの実用計算法に関する研究(総合題目)(論253, 257, 299, 304, 第20回橋梁構造シンポジウム, 第11回マトリックス解析論文集, Trans. Research Record 664)
	作品部門	大阪南港東高架橋(大阪湾岸線)(阪神高速道路公団, 道路橋, 複床式単弦ローゼ, 鋼箱桁)
	〃	第三大川橋りょう(日本国有鉄道信濃川工務局, 鉄道橋, 上路鋼トラス)
	〃	東北新幹線第二孫屋敷架道橋(日本国有鉄道盛岡工務局, 鉄道橋, PC箱桁)
	〃	長柄橋(大阪市土木局, 道路橋, ニールセンローゼ・鋼箱桁)
1981年	功績賞	大石重成 中安米蔵
	技術賞	京都市交通局 日本国有鉄道大阪工務局] : 京都市高速鉄道烏丸線建設における大規模施設のアンダーピニング
	〃	広島県 : 事前圧密工法による太田川西部浄化センターの建設
	〃	四国電力(株) : 片岩地帯における高落差本川揚水発電所の設計と施工
	〃	大阪府土木部 : 都市河川寝屋川の改修一市街(大東市)における河川改修一
	〃	日本道路公団札幌建設局 : 泥炭地帯における北海道自動車道の計画・設計・施工について(札幌～岩見沢)
	〃	日本国有鉄道下関工務局 : 浮上式鉄道実験線の建設
	〃	電源開発(株) : 松島火力発電所の建設
	〃	東京都建設局 住宅・都市整備公団南多摩開発局] : 多摩ニュータウン三沢川分水路事業
	論文賞	中村英夫 林本良嗣 宮本和明] : 都内近郊地域の土地利用モデル(論309)
	〃	岡村市 : 鉄筋コンクリートばりのせん断に対する設計法に関する研究(総合題目)(論287, 300, 308)
	論文奨励賞	岡林隆敏 : 確率微分方程式による確率論的構造解析に関する研究(総合題目)(論286, 296, 308, 316)
	〃	藤野陽三 : 年最大風速記録による設計基本風速の算定に関する研究(論305)
	〃	角湯正剛 : 冷却水取水に伴う取り込まれる浮遊体および魚卵の取り込み確率に関する研究(総合題目)(第24回水理講演会論文集, Third International Symposium on Stochastic Hydraulics 1980, 第9回環境問題シンポジウム講演論文集)
	〃	山田正 : 山地小流域における降雨流出機構に関する研究(総合題目)(論306, 314)
	〃	吉川勝秀 : 都市化流域における洪水災害の把握と治水対策に関する研究(論313)

1982年	吉田賞	町田 富士夫	： 桁式コンクリート鉄道橋支承部の耐震設計に関する研究 (国鉄鉄道技術研究所報告 1175号)	
	〃	関 博	： 集中荷重を受ける鉄筋コンクリート固定スラブの設計法に関する研究 (論 315)	
	田中賞			
	論文部門	宇佐美 勉 福本 晴士 青木 徹彦	： 溶接箱桁断面柱の局部座屈と全体座屈の連成強度に関する実験研究 (論 308)	
	作品部門		七滝高架橋 (静岡県, 道路橋, 二重ループ)	
	〃		平林高架橋 (大阪湾岸線) (阪神高速道路公団, 道路橋, 鋼曲線箱桁)	
	〃		ベンジャミン・シアース・ブリッジ (シンガポール共和国公共事業庁, 道路橋, PC 桁)	
	〃		門前川橋りょう (日本国有鉄道下関工務局, 鉄道橋, 下路トラス)	
	功績賞		谷藤 正三 最上 武雄	
	技術賞		運輸省第二港湾建設局 運輸省港湾技術研究所	： 深層混合処理工法を用いた横浜港大黒埠頭大型岸壁の建設
	〃		埼玉県 飛鳥建設(株)・フジタ工業(株) 特別共同企業体	： {大口径・変断面型トンネル洪水吐 (有間ダム) の設計と施工 (破砕性古生層における)}
	〃		関西電力(株)	： 御坊発電所の人工島建設工事
	〃		大阪市下水道局	： 天王寺・弁天幹線の建設
	〃		日本国有鉄道 日本鉄道建設公団	： 東北・上越新幹線の建設
	〃		建設省近畿地方建設局淀川工事事務所	： 淀川大堰建設事業
	〃		電源開発(株)	： 下郷発電所鉄管路の TBM による斜坑掘削および水圧鉄管の設計, 施工
	論文賞		橋本 東一郎 末次 晴行 末 忠司	： 土石流における粒子間応力と流動特性 (論 317)
	〃		佐武 正雄	： {粒状体力学の構成に関する研究(総合題目) (Theoretical and Applied Mechanics, Vol. 26, Proc. U.S. -Japan Seminar on Continuum Mechanical and Statistical Approaches in the Mechanics of Granular Materials, Proc. IUTAM Conference on Deformation and Failure of Granular Materials)}
	論文奨励賞		磯山 龍二	： 大規模水道システムの地震時信頼度評価法 (論 321)
	〃		山口 宏樹	： ケーブルの動力学的特性に関する研究 (総合題目) (論 286, 308, 319)
〃		安田 孝志	： {ソリトンスペクトル理論とその海岸波浪への適用 (総合題目) (第 28 回, 第 29 回海岸工学講演会論文集)}	
〃		大津 宏康	： 有限要素法による不連続性体の応力・変形・浸透流解析 (論 322)	
〃		岡本 博	： 事故発生の偶然変動を考慮した道路区間の事故危険度の評価手法 (論 326)	
吉田賞		角田 典史雄	： RC スラブの疲労押抜きせん断強度に関する基礎的研究 (論 317)	
〃		泉 満明	： {ねじりと曲げの組合せモーメントを受けるコンクリート部材の設計法に関する研究 (総合題目) (論 305, 327)}	
田中賞				
論文部門		八十島 義之助 西岡 隆	： {長大吊橋上の鉄道車両の走行安定性に関する研究 (総合題目) (論 164, 167, 172, 296, 309, 313)}	
作品部門		興産大橋 (宇部興産(株), 道路橋, 下路トラス)		
〃		月夜野大橋 (建設省関東地方建設局, 道路橋, PC ラーメン)		
〃		東海道本線 富士川橋りょう (日本国有鉄道岐阜工務局, 鉄道橋, 下路トラス)		
〃		大和川橋梁 (阪神高速道路公団湾岸線) (阪神高速道路公団, 道路橋, 斜張橋)		
功績賞		飯吉 精一 尾之内 由紀夫		
技術賞		横浜市交通局	： 横浜市管地下鉄駅部大断面トンネルの建設	
〃		日本鉄道建設公団	： 青函トンネル先進導坑の建設	
〃		日本国有鉄道東京第一工務局	： 大断面シールドトンネル (第二上野トンネル) の設計と施工	
〃		日本国有鉄道岐阜工務局	： 塩嶺トンネルの建設	
〃		日本道路公団広島建設局	： 中国縦貫自動車道 千代田一鹿野間の建設	
〃		むつ小川原油備蓄(株)	： むつ小川原港における一点けい留パイプスおよび海底移送配管の建設	
〃		建設省関東地方建設局川治ダム工事事務所	： 利根川・川治ダム建設事業	
論文賞		丹羽 義次 小林 昭道 北原 直志 西村 直志	： {積分方程式法の動弾性問題への適用に関する研究 (総合題目) (Proc. 4th, 5th Int. Conf. Boundary Element Method, 1982, 1983, Proc. 4th Int. Conf. Numerical Method in Geomechanics, 1982)}	

論文賞	野池達也 藤銀朗 張恩	： { 嫌気性消化機構の解明と効率化に関する研究 (総合題目) (論 320, 325, 330, 333, 335, The Technology Reports of the Tohoku Univ. (Vol. 46, No. 2, 1972)
	青柳征夫 山田一夫	： 面内力を受ける鉄筋コンクリートシェル要素の耐力変形特性 (論 331)
論文奨励賞	野田茂	： { 断層震源モデルを適用した地盤振動の評価に関する研究 (総合題目) (論 323, 335)
	浅枝隆	： 熱的擾乱に起因する対流および混合現象に関する研究 (総合題目) (論 323, 336)
吉田賞	久武勝保	： { トンネルの合理的設計, 施工に関する基礎的研究 (総合題目) (論 332, Proc. Int. Symp. on Field Measurements in Geomechanics, 1983, Proc. 10th ICSMP, Vol. 1, 1981)
	宮城俊彦	： { 交通均衡理論に基づくネットワーク交通量の推計法に関する研究 (総合題目) (Proc. of World Conf. on Trans. Research. 1981, 交通工学 Vol.17, No.6, 1982, 土木計画学研究会発表会講演集, Vol.6, 1982)
田中賞	上田多門	： { 疲労荷重下の鉄筋コンクリートばりのせん断挙動 (東京大学工学部紀要 B, Vol.37, No.1, 1983)
	田辺忠顕 原口敏久 内田敏	： ダム嵩上げ時の温度応力の実測と温度応力検討手法についての一提案 (論 337)
論文部門	竹宮宏和	： { 地盤との相互作用における多径間連続の耐震解析・設計に関する研究 (総合題 目) (論 318, 328, 332, 338, Earthquake Engineering and Structural Dynamics, Vol. 9, 5, 1981, 橋梁と基礎, Vol.17, 10, 1983)
	崎元達郎	： { 鋼アーチ系橋梁の面外座屈耐荷力に関する研究 (総合題目) (論 252, 286, 292, 333, Proc. of ASCE, Vol. 103, No. ST 12, 1977, Vol. 108, No. ST 5, 1982, Vol. 109, No. ST 3, 1983)
作品部門	マタディ橋 (ザイル共和国運輸通信省バナナ・キンシャサ施設整備公社, 道路橋, 吊橋)	
	灘大橋 (神戸市港湾局, 道路橋, 鋼アーチ)	
技術開発賞	堀川筋高架橋 (首都高速道路公園, 道路橋, 鋼箱桁)	
	鶴乃橋 (住宅・都市整備公社, 歩道橋, PC)	
著作賞	竹下貞雄 河田博之 植野利之 森田泰之 伊藤泰勇	： 推進工法による線路下横断構造物の施工法 (URT 工法) の開発
	林本裕貴 長岡間沢良治 岡村正道 佐藤久人 佐藤真吉 大藤輝雄	： デスリップカーテン工法 (函渠推進工法における上載土移動完全防止工法)
学芸図書	吉見吉昭	： 砂地盤の液状化 (技報堂出版, 1980.4)
	芦田和男 高橋正保 道上正規	： 河川の土砂災害と対策 (森北出版, 1983.7)
功績賞	田村喜子	： 京都インクライン物語 (新潮社, 1982.9)
	中村良夫	： 風景学入門 (中公新書 650) (中央公論社, 1982.5)
技術賞	今岡鶴吉 平井敦	
	日本文洋建設(株) 五清水建設(株)	： 北極海向け移動式石油掘削用人工島の建造 (コンクリート構造部分)
論文賞	日本文洋建設(株) 本島建設(株)	： 日本鉱業(株)水島製油所における原油地中タンクの建設
	関西電力(株)	： 新愛本水力発電所4号(長大)導水路トンネルの急速施工
論文賞	日本国有鉄道	： 東北新幹線・上野一大宮間の建設
	東京都水道局	： 東京都水道局三郷浄水場の建設工事
論文賞	建設省関東地方建設局	： 鶴見川大規模浚渫工事
	福本勝士 伊藤義人	： 鋼構造部材の耐荷力の変動特性に関する研究 (総合題目) (論 335, 341, 344)
論文賞	渡辺見	： { 沿岸波浪場および海浜変形の数値解析手法に関する研究 (総合題目) (第 30, 31 回海岸工学講演会論文集)

論文奨励賞	井 嶋 克 志	： 鉄塔—送電線系の耐震設計に関する研究 (総合題目) (論 344)
〃	安 藤 義 久	： { 丘陵地の水循環機構と都市化によるその変化に関する研究 (総合題目) (Jour. of Hydrology 64, 1983, 68, 1984)
〃	野 村 由司彦	： { 曲線施工のできる小口径トンネル機械に関する研究 (総合題目) (論 338, 352, 電子通信学会論文誌 Vol.J 67-B, No. 6, 1984)
〃	屋 井 鉄 雄	： 非日常的交通への非集計行動モデルと選択別標本抽出法の適用性 (論 343)
〃	前 川 宏 一	： { コンクリートの変形特性と弾塑性破壊モデルを用いた構成方程式の定式化 (東京大学工学部紀要 B, Vol.37, No.1983)
吉 田 賞	佐藤 良一 青金 柳津 夫	： { 極低温下に置かれた鉄筋コンクリート部材の力学的性状に関する解析的研究 (総合題目) (論 329, 348)
〃	井畔 瑞人 塩屋 俊一 野尻 陽一	： { 等分布荷重下における大型鉄筋コンクリートはりのせん断強度に関する実験的研究 (論 384)
田 中 賞		
論文部門	中 井 博	： { 曲線プレート・ガーダーの終局強度に関する研究 (総合題目) (論 339, 340, 350)
作品部門	虹 の か け 橋	(豊田市, 歩道橋, 変形アーチ)
〃	名 港 西 大 橋	(日本道路公団, 道路橋, 斜張橋)
〃	東北新幹線・通勤別線第一武蔵野線線路橋	(日本国有鉄道東京第三工事局, 鉄道橋, H形鋼埋込み桁)
〃	浜松町駅構内二線人道橋	(日本国有鉄道東京第二工事局, 鉄道橋, フィレンディール)
技術開発賞	野田 節男 大隈 正登 山中 種清 姫荻 山路昭夫 野秀 秀	： 根入れ式鋼板セル工法の開発
〃	中竹 藤内 勇雄 遠峰 泰孝	： PBS 工法 (杭打連結ブロック工法) の開発
著作賞		
工学図書	松 尾 稔	： 地盤工学—信頼性設計の理念と実際 (技報堂出版, 1984.3)
一般図書	榊 晃 弘	： 眼鏡橋—榊晃弘写真集 (葦書房, 1983.3)
1985 年		
功績賞	國 分 正 胤	水 越 達 雄
技術賞	建設省北陸地方建設局阿賀川工事事務所	： 特定多目的ダム・大川ダムの建設
〃	本州四国連絡橋公団第一建設局	： 大鳴門橋の建設
〃	日本道路公団東京第二建設局	： 関越自動車道新潟線前橋～湯沢間の建設
論文賞	宇佐美 勉	： { 鋼圧縮部材の合理的設計基準の開発に関する研究 (総合題目) (論 326, 350, 362)
〃	木 下 良 作	： 航空写真による洪水流解析の現状と今後の課題 (論 345)
論文奨励賞	井 上 涼 介	： { 震央域強震記録における顕著な相に着目した 1979 年 Imperial 溪谷地震の多重震源性に関する解析 (論 344)
〃	磯 部 雅 彦	： { 不規則波浪場における方向スペクトルの推定法に関する研究 (総合題目) (第 30, 31 回海岸工学講演会論文集)
〃	小 池 俊 雄	： 積雪面積情報による融雪流出解析に関する研究 (総合題目) (論 357, 363)
〃	田 中 幸 久	： { 地震時液状化対策としてのグラベルパイルの設計法に関する研究 (総合題目) (論 352, 364, 第 40 回年次学術講演会概要集 (第三部))
〃	原 田 昇	： Nested Logit モデルの理論と適用に関する研究のレビュー (論 353)
〃	六 郷 恵 哲	： { コンクリートの靱性評価手法の確立と設計への靱性の導入 (総合題目) (論 348, 354)
吉 田 賞		
研究業績部門	青 柳 征 夫	： { 鉄筋コンクリート円筒シェルに関する研究 (鉄筋コンクリートの有限要素解析に関する日米セミナー, 1985 年 5 月)
論文部門	岩 崎 訓 明	： プレバックドコンクリートにおけるグラウトの注入状況の予測方法 (論 360)
田 中 賞		
論文部門	寺 田 博 昌	： { トラス弦材角溶接継手部のせん断応力分布および疲労強度改善に関する研究 (総合題目) (論 356)
作品部門	光明池大橋	(住宅・都市整備公団, 歩道橋, RC アーチ)
〃	秩 父 橋	(埼玉県, 道路橋, 斜張橋)
〃	桜 橋	(東京都台東区・墨田区, 歩道橋, 鋼曲線箱桁)

作品部門	関越自動車道高橋脚長大橋梁〔片品川橋（鋼トラス）、永井川橋（PC箱桁）〕（日本道路公団東京第二建設局，道路橋）
〃	大鳴門橋（本州四国連絡橋公団第一建設局，道路橋，吊橋）
技術開発賞	富澤稔夫 大黒俊一 遠藤貞孝 高橋順一 藤本幸一 生和生 尾秋一郎 波城了 富永真生 楠尾宏秋 松源修一 斎藤彰 島岡久 大北康彦
〃	：自重移し替え式シールド掘進機の開発
〃	：臨海杭打工法の開発
〃	：液状化防止対策としての砕石ドレーン工法の開発
著作賞	
工学図書	岡本舜三：Introduction to Earthquake Engineering, Second Edition（東大出版会，1984.6）
一般図書	片瀬貴文：国鉄マンのキンシャサ日記（交通協会の会，1980.4）
〃	樋口忠彦：日本の景観—ふるさとの原型（春秋社，1981.10）
1986年 功績賞	小西一郎 仁杉 巖 野瀬 正儀
技術賞	横浜市下水道局：〔横浜市北部第二下水処理場汚泥消化タンクの建設—PC卵形汚泥消化タンクの設計・施工—〕
〃	山梨県土木部：大門ダム・貯水池内の大規模火山性堆積物に対する遮水壁の設計と施工
〃	大阪府土木部：平野川街路下調節池（木津川平野線）建設事業
〃	大阪市土木局
〃	電源開発(株)：沖縄県における海外炭利用の石川石炭火力発電所の建設
論文賞	濱田政則 安機龍進 恵山克利
〃	：液状化による地盤の永久変位に関する研究（総合題目）（論376〔2編〕）
〃	池田駿介：沖積地河川の河道形状に関する研究（総合題目）（論369，375〔2編〕）
〃	河濑省吾 溝上章志
論文奨励賞	：〔分担需要変動型均衡交通需要予測法と最適バス輸送計画策定法の開発（総合題目）（論353，371）〕
〃	堀井秀之：クラック不安定発生時の力学：残留ひずみの影響（論374）
〃	道奥康治：〔停滞成層水域内の鉛直混合機構と水温構造の解析に関する研究（総合題目）（論357，369〔2編〕，375）〕
〃	灘岡和夫：〔浅海域における波浪変形と碎波に関する研究（総合題目）（第30，31回〔2編〕，32回〔3編〕）〕 海岸工学講演会論文集
〃	矢田部龍一：〔降雨による砂質土斜面の崩壊の機構と予測に関する研究（総合題目）（論330，376）〕
〃	宮本和明：非集計行動分析に基づく都市圏住宅需要モデル（論365）
〃	二羽淳一郎：異形鉄筋の疲労強度算定式（論354）
吉田賞	
研究業績部門	田辺忠顕：〔マスコンクリートの温度応力制御に関する研究（論337，343，Proc. of The First East Asia Conf. on Str. Eng. and Const., Proc. of Japan-US Science Seminar on Finite Element Analysis of Reinforced Concrete Structures）〕
論文部門	二羽淳一郎 山横田和夫 横村夫甫
〃	：せん断補強鉄筋を用いないRCはりのせん断強度式の再評価（論372）
〃	睦好史 町田宏 鶴田篤 岡本和 長瀬享 久義
〃	：〔ひずみ速度を考慮した鉄筋コンクリート部材の動的非線形地震応答解析（論366）〕
〃	：〔曲げ・せん断とねじりを同時に受ける鉄筋コンクリート部材の耐力と変形（論360）〕
田中賞	
論文部門	堀川浩甫 鈴木博之
〃	：〔静的荷重作用下にある鋼橋の溶接による補修・補強（総合題目）（論350，356，362，368）〕
〃	松井繁之：〔道路橋鉄筋コンクリート床版のひびわれ損傷と劣化度判定に関する研究（総合題目）（論348，374，土木学会合成構造の活用に関するシンポジウム講演論文集，第6回コンクリート工学年次講演会論文集，International Symposium on Theory of RC and PC, China Nanjing, Vol.2）〕

1987年	作品部門	岡谷高架橋（日本道路公団，道路橋，PCラーメン箱桁）	
	〃	かつしかハープ橋（首都高速道路公団，道路橋，曲線斜張橋）	
	〃	黄金こ線橋（名古屋高速道路公社，道路橋，鋼箱桁）	
	〃	ふれあい橋（豊田市，歩道橋，PC桁）	
	技術開発賞	神崎正 古川圭三 甲斐源太郎	： 海洋調査における情報処理システムの高度化
	〃	杉原正洋 桑原光男 原田隆三 大塚三進 皿田進	： 急カーブ掘進型シールド機械の開発
	〃	内藤誠 倉林一 相沢康 富尾健 尾木健	： アーム式水中掘削機の開発
	著作賞		
	工学図書	合田良實	： 港湾構造物の耐波設計—波浪工学への序説—（鹿島出版会，1977.10）
	〃	山口柏樹	： 土質力学（講義と演習）全改訂（技報堂出版，1984.2）
	一般図書	長尾義三	： 物語日本の土木史—大地を築いた男たち—（鹿島出版会，1984.1）
	〃	曾野綾子	： 湖水誕生（上・下）（中央公論社，1985.11）
	功績賞	米谷榮二	丸安隆和
	技術賞	青森県	： 新青森空港の建設—高含水比火山灰質土による高盛土の設計・施工—
	〃	大阪ガス(株)	： 姫路における最新鋭LNG基地の建設
	〃	日本鉄道建設公団	： 青函トンネルの建設
	〃	(株)新日本技術コンサルタント	： {インドネシアにおける二大水力発電所（サグリン・チラタ）に関する設計および工事監理
	〃	首都高速道路公団	： 高速中央環状線（葛西～江北）・高速川口線の建設
	論文賞	星谷勝	： {地震時構造系の非線形挙動特性の同定（総合題目）（論386）（第19回地震工学研究発表会講演概要）
	〃	木村孟	： {非排水強度が一樣でない粘土地盤の支持力，変形挙動に関する研究（総合題目）（論382）
	〃	村田二郎	： {フレッシュコンクリートの挙動に関する研究（総合題目）（論354，366，378，384）
	論文奨励賞	杉戸真太	： {強震記録に基づく地震動予測のための工学モデルに関する研究（総合題目）（論350，362）（構造工学論文集 第32A）
	〃	田中仁	： 波・流れ共存場での底面摩擦法則（総合題目）（論342，381）
	〃	山辺正	： 岩盤内亀裂を考慮した新たな数値解析法の提案（総合題目）（論382，388）
	〃	朝倉康夫	： OD需要の変動を内生化した最適道路網計画モデル（論383）
	〃	姫野賢治	： アスファルト舗装の疲労ひびわれ破壊に関する研究（総合題目）（論366，378）
	吉田賞		
	論文部門	吉田弘道 田辺忠顕	： {コンクリート部材のひびわれ界面における力学的挙動に関する解析的研究（論372）
	田中賞		
	論文部門	福井崇博 深沢博誠	： {かど溶接ルート部に発生する疲労亀裂検出に対する非破壊試験の適用性（論386）
	〃	山口宏樹 藤野陽三	： ケーブルのたわみ振動におけるモード減衰性状（論386）
	作品部門	RC多径間連続充腹式アーチ橋（樺坂高架橋，村木橋，石川橋）（日本道路公団，道路橋）	
〃	大島大橋（本州四国連絡橋公団，道路橋，吊橋）		
〃	高速葛飾川口線多径間連続高架橋（首都高速道路公団，道路橋，鋼箱桁）		
〃	新綾部大橋（京都府，道路橋，PC斜張橋）		
技術開発賞	藤原紀夫 島津久陽 山北原一	： 気泡シールド工法の開発	

1988年

技術開発賞	坂本光重 松田賢一 柳藤正和 横山田之夫 秋山	：	橋梁点検補修用作業車の開発
〃	戸田透 秋元輔 大安野平 孫子敏 森本精	：	鉄筋差し込み方式による鋼管矢板基礎頂版結合構造の開発
著作賞			
工学図書	久保慶三郎	：	地震と土木構造物（鹿島出版会，1981.9）
〃	天野光三 小野忠司 山谷通泰 中	：	歩車共存道路の計画・手法—快適な生活空間を求めて（都市文化社，1986.12）
一般図書	菅建彦	：	英雄時代の鉄道技師たち—技術の源流をイギリスにたどる（山海堂，1987.4）
特別賞	（株）山陽新聞社	：	ドキュメント瀬戸大橋（山陽新聞社，1987.12）
〃	黒沢典之	：	青函トンネル—夢と情熱の軌跡（日本放送出版協会，1983.1）
功績賞	上田稔 奥村敏恵		
技術賞	上五島石油備蓄（株）	：	上五島洋上石油備蓄基地における貯蔵船係留施設の建設
〃	東日本旅客鉄道（株） 東京工務所 （株）熊谷組 松本嘉司	：	{ 多円形断面シールドトンネル（MFS）工法による京葉線京橋トンネルの設計と施工
〃	運輸省第二港湾建設局	：	{ 東京国際空港沖合展開事業第一期工事—超軟弱で不均一な地盤における大規模急速施工—
〃	帝都高速度交通営団	：	{ 埼玉県西南部（和光市）～東京都東南部（江東区）間の都心を貫通する地下鉄有楽町線の建設
〃	本州四国連絡橋公団第二管理局	：	瀬戸大橋の建設
〃	大成建設（株）	：	中華人民共和国におけるルブゲ水力発電所の施工
〃	建設省中国地方建設局弥栄ダム工務事務所	：	特定多目的ダム，弥栄ダムの建設
〃	日本道路公団新潟建設局	：	北陸自動車道 上越～朝日間の建設
論文賞	長谷川 彰 夫	：	{ 薄肉断面部材の安定と非線形挙動に関する解析的研究（総合題目）（論 356, 374, 380, 386, 392）
〃	首藤伸夫 後藤智明	：	近地津波の高精度数値予報に関する研究（総合題目）（論 375, 393）
〃	宇野尚雄 森杉彬 杉井俊夫	：	被災事例に基づく河川堤防の安定性評価（論 400）
論文奨励賞	杉山俊幸	：	{ 長大吊橋における安全率の最適配分に関する考察（総合題目）（論 398），（構造工学論文集 Vol. 33 A）
〃	橋本典明	：	{ 海洋波浪の方向スペクトル推定法に関する研究（総合題目）（海岸工学講演会論文集 32, 34, 35）（Coastal Eng. in Japan 31-2）
〃	清水則一 松室圭介	：	計測変位に基づく地下空洞周辺地山に発生する塑性領域の推定法（論 394）
〃	川崎雅史	：	{ 言語的メディアイメージの分析による港湾観光地修景デザインの基礎研究（土木計画学研究・論文集，No.6）
〃	梅原秀哲	：	鋼材の付着状態を考慮した PC ラーメンの履歴挙動に関する研究（論 396）
〃	原田光男 背野康英	：	ファジィ理論のシールド掘進制御への応用（論 391）
吉田賞			
論文部門	氏家勲 長瀧重義	：	コンクリートの透気性の定量的評価に関する研究（論 396）
〃	鈴木木基 武山地行 尾坂春海 芳夫	：	宮城県沖地震による RC ラーメン高架橋被害の解析的研究（論 384）
〃	関田恵一郎 堀川都志雄	：	輪荷重の反復作用下での道路橋 RC 床版の低サイクル疲労特性（論 390）
田中賞			
論文部門	長谷川 彰 夫	：	{ 局部座屈を考慮した鋼圧縮部材の挙動と設計の最適化に関する研究（総合題目）（論 356, 374, 392）

	論文部門	川谷 充 郎 : { 道路橋の動的使用限界状態と衝撃係数に関する研究 (論 392, 398) (構造工学論文集, Vol.33 A)
	作品部門	山陰本線保津五線[第1(鋼アーチ), 第2(鋼アーチ), 第3(方杖ラーメン), 第4(鋼アーチ), 第5(鋼アーチ) 保津川橋梁] (JR西日本, 鉄道橋)
	◇	新 縦 木 吊 橋 (あやとりの橋) (熊本県泉村, 歩道橋, 吊床版)
	◇	瀬戸大橋[下津井瀬戸大橋 (吊橋), 櫃石島橋 (斜張橋), 岩黒島橋 (斜張橋), 与島橋 (鋼トラス), 北備讃瀬戸大橋 (吊橋), 南備讃瀬戸大橋 (吊橋)] (道路・鉄道併用橋)
	◇	東名阪高架橋 (日本道路公団, 道路橋, PC ラーメン)
	◇	呼 子 大 橋 (佐賀県, 道路橋, PC 斜張橋)
	技術開発賞	
	◇	下河内川 登三 稔 吉登三 大 敏 雄 坂島林 研 二 雄 小 三 研 二 雄 :] : 三次元計測システムによる土木計測法の開発
	◇	後藤下 藤 貞 雄 大根上 下 研 一 小野野 義 昭 木 村 克 定 彦] : { サンドプレカール工法 (液体窒素により冷却した細骨材を用いたプレカール工法) の開発
	◇	横堀田 田 高 良 宇野山 家 茂 一 片山邊 定 雄 田 次 三 郎] : テキスタイルフォーム工法の開発
	著 作 賞	
	工学図書	染谷 昭 夫 藤森 泰 明 森 繁 泉] : マリーナの計画 (鹿島出版会, 1988.3)
	一般図書	松 村 博 : 大阪の橋 (松籟社, 1987.5)
	◇	宮 村 忠 : 水害一治水と水防の知恵 (中公新書 768) (中央公論社, 1985.6)
	◇	加 藤 三 郎 : { 豊かな都市環境を求めて—環境公害対策二十年の足跡 (社・日本環境衛生センター, 1986.7)
1989 年	功 績 賞	河 上 房 義 八十島 義之助 山 内 一 郎
	技 術 賞	東日本旅客鉄道(株)信濃川工事事務所] : { ECL 工法 (Extruded Concrete Lining Method 直打ちコンクリートライニング) による信濃第二水路トンネル山本工区工事の設計と施工 鉄建・東急・大木 共同企業体
	◇	神戸市開発局] : 神戸市ベルトコンベヤ機械室用大地下空洞 (株)熊谷組
	◇	名古屋市交通局] : { 名古屋市高速度鉄道桜通線名古屋駅付近における大規模アンダーピニング 東海旅客鉄道(株) 大成建設(株)名古屋支店 鹿島建設(株)名古屋支店
	◇	日本道路公団福岡建設局 : 九州自動車道, 八代~入吉間の建設
	◇	日本鉄道建設公団] : 京葉湾岸地域と都心を直結する京葉線の建設 (東京~新木場~蘇我間) 東日本旅客鉄道(株)
	◇	電 源 開 発 (株) : 砂礫層をダム基礎とする低落差・大容量水力発電所の開発~只見発電所~
	◇	建設省東北地方建設局玉川ダム工事事務所 : 特定多目的ダム 玉川ダムの建設
	◇	運輸省第四港湾建設局] : 水俣湾公害防止対策事業—水銀汚泥の処理処分— 熊本県環境公害部
	◇	首都高速道路公団 : 横浜地域における都市高速道路の建設
	論 文 賞	
	◇	伯 野 元 彦 : { 個別要素法による構造物及び地盤を含む系の動的破壊過程に関する研究 (総合題目) (論 380, 398, 404, 410)
	◇	山 口 正 隆 : { 波浪推算モデルの開発と応用に関する研究 (総合題目) (論 369, 381, 387, 399, 405, 411)
	◇	軽 部 大 蔵 : 不飽和土の弾塑性特性に関する研究 (総合題目) (論 370, 406)
	◇	吉 川 弘 道 呉 智 深 田 辺 忠 頭] : { ひびわれを有する鉄筋コンクリートの非線形挙動に関する解析的研究 (総合題目) (論 366, 408, ASCE, ST, Vol.115, No.4, IABSE コロキウム)
	論文奨励賞	
	◇	鬼 頭 宏 明 : { 鋼板・コンクリート合成床版のスタッドに働くせん断力と押し抜きせん断耐力 (論 404)
	◇	鈴 木 正 人 : 2段階推移モデルによる相関分散分布流量を受ける貯水池理論 (論 411)
	◇	山 口 嘉 一 : ダム基礎の透水性とルジオン値 (論 412)

論文奨励賞	土井健司	： { 開発利益に関する還元制度の国際比較分析とその計測方法の開発 (総合題目) (論 407, 土木計画学研究 No.6, 9, 12)			
	橋本親典	： テーパー管を流動する可視化モデルコンクリートの乱れ計測システム (論 402)			
〃	木下雅敬	： 発破による鉄筋コンクリート構造物の解体に関する基礎的研究 (論 403)			
吉田賞					
論文部門	豊福俊泰	： データ解析によるコンクリートの品質変化とその要因に関する研究 (論 408)			
田中賞					
論文部門	松本白石	勝人通	： { 斜張橋ケーブルの rain vibration の発生機構の解明 (総合題目) (構造工学論文集 35 A, 京大防災研年報第 31 号 B-1, Journal of Wind Eng. No. 37, 第 10 回日本風工学シンポジウム論文集, Structural Design, Analysis & Testing Proceedings, Structural Congress '89, ASCE)		
〃	奈良敬	： { 面内力を受ける鋼板および補剛板の極限強度に関する研究 (総合題目) (論 386, 392)			
作品部門	森の橋・広場の橋 (松戸市, 道路橋, PC 箱桁)				
〃	銀河歩道橋および鶴間歩道橋 (建設省, 歩道橋, 鋼板桁, 鋼箱桁)				
〃	美装された都市内高架橋 (六本木, 上野駅前高架橋) (首都高速道路公団, 道路橋, 鋼箱桁)				
〃	別府明礬橋 (日本道路公団, 道路橋, RC アーチおよび PC 箱桁)				
〃	横浜ベイブリッジ (首都高速道路公団, 道路橋, 斜張橋)				
技術開発賞	岸野栗深	岡尻原沢	利陽宏栄	清道一武造	： 人工軟岩材料の開発
〃	山坂小	本野林	二郎	一男	： 都市型破砕剤「ガンサイザー」による低公害型破砕工法
〃	中平堀横笹	山沢家塚原	覺秀茂	博男一享六	： 連続線維緑化基盤工の開発
著作賞					
工学図書	松島浦谷	茂幸	樹宏		： 水辺空間の魅力と創造 (鹿島出版会, 1987.12)
〃	越沢	明			： { 満州国の首都計画—東京の現在と未来を問う (都市叢書) (日本経済評論社, 1988.12)
一般図書	かこ	さとし			： { ダムをつくったお父さんたち—国際協力でチラタ発電所ができるまで (借成社, 1988.10)
1990年	功績賞	内田隆滋	堂垣内尚弘	村上永一	
技術賞	東京都多摩都市整備本部 応用地質(株) 鹿島建設(株)・坂本工業(株)建設共同企業体 清水建設(株)・(株)清水組建設共同企業体		： { 都市域における著しく近接した大断面双設トンネルの設計と施工—多摩ニュータウン幹線小・山内裏トンネル—		
〃	大阪市交通局 : 大阪市地下鉄鶴見緑地線京橋~鶴見緑地間建設事業				
〃	東日本旅客鉄道(株) : 首都圏の鉄道電力を担う信濃川水力発電再開発の計画・設計・施工				
〃	水資源開発公団奈良俣ダム建設所 : 奈良俣ダムの建設				
〃	(株)熊谷組香港支店 : BOT 方式による香港海底トンネルプロジェクトの企画と施工				
〃	日本道路公団福岡建設局 : 若戸大橋の拡幅—重交通供用下での橋梁拡幅工事—				
論文賞	藤野陽三	： { 同調液体ダンパー (TLD) の特性の解明とモデル化 (総合題目) (論 398, 410, 構造工学論文集 Vol.35 A, 36 A)			
〃	江藤剛治	： { 降雨の確率特性に基づいた雨水貯留施設の機能評価 (総合題目) (論 345, 369, 375, 381, 423)			
〃	岡田勝也	： { 寒冷地トンネルにおける断熱つらら防止工法の設計法の確立に関する研究 (総合題目) (論 388, 400, 424)			
〃	桜井春輔	： トンネルにおける変位計測結果の逆解析に関する研究 (総合題目) (論 403, 418)			
〃	馬場俊介	： 歴史的石造アーチ橋の構造論的分類への試み (土木史研究 10)			
〃	長瀧重義	： { コンクリートの劣化の機構解明と進行予測に関する研究 (総合題目) (論 390, 414, 420)			
論文奨励賞	佐藤尚次	： { 超過確率を用いた構造信頼性理論の開発と設計法の提案 (総合題目) (構造工学論文集 Vol.34 A, 35 A)			

論文奨励賞	大山 巧	： { 数値波動水槽における開境界処理のための数値消波フィルターの開発 (海岸工. 学論文集 37)
	杉井 俊夫	： 空気圧制御による不飽和砂質土の透水試験法 (論 418)
	奥村 誠	： { イベント効果を考慮した地域整備投資に関する研究 (土木計画学研究・論文集, No.8)
	大賀 宏行	： { フライアッシュによるアルカリ骨材反応の膨張抑制効果とそのメカニズム (論 414)
	小沢 一雅	： { フレッシュコンクリートの流動途上における骨材粒子運動の評価 (総合題目) (論 408, 420)
吉田賞		
論文部門	近山 龍一	： 高炉スラグ微粉末の活性度の新しい評価方法 (論 414)
	鈴木 康範	： コンクリート中に存在するセメントの水和発熱過程の定量化 (論 414)
田中賞		
論文部門	川島 一彦	： 既設道路橋の耐震性判定法に関する研究 (論 416)
	運上 茂樹	： 既設道路橋の耐震性判定法に関する研究 (論 416)
作品部門	此花 大橋	(大阪市, 道路橋, 自碇式吊橋)
	サザンヤードカントリークラブ歩道橋	(株)サザンヤードカントリークラブ, 歩道橋, 吊床版橋
	天保山 大橋	(阪神高速道路公団, 道路橋, 鋼斜張橋)
	北総線「都計道 3.4.20 架道橋」	(日本鉄道建設公団, 鉄道橋, 合成桁)
	名神高速道路 蟬丸橋改良	(日本道路公団, 道路橋, プレースドアーチ)
	横 向 大 橋	(福島県, 道路橋, PC 箱桁)
	臨港道路 海田大橋	(広島県, 道路橋, 鋼床版箱桁ほか)
	西脇 芳文	： 拡大シールド工法
技術開発賞	宮崎 康一	： 市街地における鉄道線路直下地下切替工法の開発
	内松 隆史	： ポリマー含浸コンクリートによる高耐久性埋設型枠「PIC フォーム」
著作賞		
工学図書	丹保 憲仁	： 浄水の技術—安全な飲み水をつくるために— (技報堂出版, 1985.11)
	大淀 昇一	： 宮本武之輔と科学技術行政 (東海大学出版会, 1989.7)
一般図書	古川 勝三	： 台湾を愛した日本人—嘉南大圳の父・八田與一の生涯 (青葉図書, 1989.1)
	井上 ひさし	： 四千万歩の男 全 5 卷 (講談社, 1990.2~5)
功績賞	岡部 保福	岡 正 巳
技術賞	阪神高速道路公団	： 阪神高速道路の交通管制システム
	日本道路公団東京第一建設局	： 東名高速道路大井松田～御殿場間改築事業
	日本鉄道建設公団	： { 都心と千葉ニュータウンを直結する北総線の建設 [高砂～新鎌ヶ谷～小室北総開発鉄道(株)] : { 間 (千葉ニュータウン)}
	北海道開発局	： 美利河ダムの建設
	三井建設(株)	： 民営化方式によるクアラルンプール市内環状道路再整備の企画設計と施工
	佐藤 忠信	： 構造物の最適震動制御に関する研究 (総合題目) (論 416, 428)
	河田 恵昭	： { 漂砂量則とその計測法に関する研究 (総合題目) (海岸工学論文集 36 (2 編), 37, 38)
	森原 和夫	： { 泥水式シールドの泥水圧とその効果に関する研究 (総合題目) (論 397, 409, 430)
論文賞		

論文賞	飯田 恭 敬海	：	ネットワークの連続体近似による交通流解析 (総合題目) (論 425, 431)
〃	尾崎 坂本 芳夫 夫行 菱 基 錫 和	：	鉄筋コンクリート部材のせん断耐力評価と設計法に関する研究 (論 426, 433)
〃	橋丸 本 親 典 清 水 久 二	：	{可視化実験手法によるフレッシュコンクリートの変形性能の評価に関する研究 (総合題目) (論 402, 433)}
〃	花 安 繁 郎	：	{建設工事労働災害の統計学的分析と安全性評価に関する研究 (総合題目) (論 301, 379, 409, 土木史研究 10)}
論文奨励賞	目黒 公 郎 岩 下 和 義	：	{Fracture Analysis of Media Composed of Irregularly Shaped Regions by the Extended Distinct Element Method (論 437)}
〃	青 木 伸 一	：	港内係留船の波浪動揺の予測とその低減化 (論 438)
〃	大 橋 晶 良	：	平板上に形成される脱窒処理生物膜の生長過程 (衛生工学研究論文集 27)
〃	川 上 哲太朗	：	{準三次元荷重下における等方性・異方性岩盤内のトンネル掘削問題の逆解析 (総合題目) (論 436, 439 (2編))}
〃	清 水 英 範	：	{用途地域指定支援システムに関する研究 (総合題目) (論 425, 土木計画学研究・講演集, 14(1), Computers, Environment and Urban Systems, Vol. 15)}
〃	内 田 裕 市	：	曲げ試験に基づく引張軟化曲線の推定と計測 (論 426)
吉 田 賞			
論文部門	岩 崎 訓 明	：	{振動によるフレッシュコンクリートの液状化と内部振動機の作用領域に関する考察 (論 426)}
〃	池田 尚 治 山 口 裕 史 鶴 澤 哲	：	{Response of Reinforced Concrete Columns Subjected to Earthquake Forces with Relation to the Evaluation in Seismic Design (Concrete Library Inter. 18)}
田 中 賞			
論文部門	波 田 凱 夫 中 西 宏	：	{ケーブル構造の変形・形状解析と最適設計計算法に関する研究 (総合題目) (論 318, 432, 日本建築学会論文報告集 224, 238)}
〃	西 脇 威 夫 藤 田 夫 紀 黒 田 充 弘 鈴 木 康 弘	：	{高力ボルト引張接合長締め形式に関する研究 (総合題目) (論 416, 428, 437, 構造工学論文集, 35 A)}
〃	北 田 俊 行	：	{2方向面内力を受ける補剛鋼板の極限強度特性と合理的設計法 (総合題目) (論 428, 437, 構造工学論文集, 37 A)}
作品部門	生月大橋 [道路橋] (平戸市, 3 径間連続トラス橋)		
〃	生口橋 [道路橋] (因島市, 3 径間連続複合箱桁斜張橋)		
〃	関西国際空港連絡橋 [道路・鉄道併用橋] (泉佐野市, 3 径間連続鋼トラス, 鋼箱桁)		
〃	亀甲橋 [歩道橋] (久居市, PC 3 方向吊床版橋)		
〃	白屋橋 [歩道橋] (奈良県吉野郡川上村, 2 径間連続 PC 斜張橋)		
〃	東名高速道路 (改築) 東名足柄橋 [道路橋] { (静岡県駿東郡小山町, 3 径間連続 PC 斜張橋, 5 径間連続 PC ラーメン橋)		
〃	ナウアン橋 [道路橋] { (ミャンマー連邦, PC 3 径間連続中央ヒンジ付き箱桁ラーメン橋, PC 合成 I 形単純桁橋)		
技術開発賞	世 良 至 三 嶋 信 雄 伊 藤 正 祐 望 月 正 祐 斎 藤 博 昭	：	太陽熱を利用した盛土内蓄熱・融雪システム
〃	中 加 田 博 昭 大 根 藤 久 高 橋 秀 重 鹿 籠 雅 純	：	波力発電ケーソン防波堤の開発
〃	瀧 沢 正 道 剣 持 三 平 松 本 洋 之 介 原 三 隆 文 村 隆 一	：	ブレイニングによるトンネル掘削工法 (PASS 工法) の開発
〃	加 藤 修 吾 吉 川 博 紀 齊 藤 博 行 浜 本 志 美 高 山 弘 美	：	立体道路式路面補修装置 (ミニウェイ) の開発
出版文化賞	高 橋 裕	：	河川工学 (東大出版会, 1990.3)
〃	村 山 朔 郎	：	土の力学挙動の理論 (技報堂出版, 1990.10)

1992年	出版文化賞	絹田幸恵：荒川放水路物語（新草出版，1990.11）
	功績賞	伊藤富雄 高橋國一郎 高橋浩二
	技術賞	運輸省第四港湾建設局 熊本県土木部：有明干潟との共生を可能とした熊本新港の建設
	〃	建設省広島国道工事事務所：二連凹形断面シールド（DOT工法）による鯉城シールド工法の施工
	〃	東日本旅客鉄道㈱：奥羽本線福島・山形間新在来直通運転設備新設（山形新幹線建設）
	〃	関西電力㈱：大河内水力発電所の建設
	〃	㈱熊谷組豪州統括営業所：オーストラリア初の海底道路トンネルの設計・施工
	〃	建設省関東地方建設局 日本道路公団東京第一建設局：東京外かく環状道路（埼玉県内）の事業
	〃	水資源開発公団琵琶湖開発事業建設部：琵琶湖開発事業の建設
	論文賞	野村卓史：{ALE有限要素法に基づく流体・構造連成解析法の開発（総合題目）（論416, 455（3編））
〃		三木千寿：{溶接橋梁部材の疲労強度評価に関する研究（総合題目）（論368（2編）404, 416, 422, 450）
〃		安田孝志：{海の波の非線形的取り扱いに関する研究（総合題目）（水工学シリーズ91-B-9, Coastal Engineering in Japan, 34-2, 海岸工学論文集, 38, 39, 論429, 443）
〃		福岡捷明 二英：バーン工の設置された湾曲部の流れと河床形状の解析（論447）
〃		日下部治 前田良刀：{自然地盤の支持力機構に関する実験的研究（総合題目）（論397, 403, 430, 439, 448, 457）
〃		足立紀尚 三三生：地盤材料のひずみ軟化型非弾性構成式（総合題目）（論445, 454）
論文奨励賞		能島暢呂：{幹線・支線の階層性を考慮したライフライン系の最適震後復旧アルゴリズム（論450）
	〃	藤田光一：{洪水流の抵抗予測手法と河道設計・管理における予測手法の実用化に関する研究（総合題目）（論411, 429, 447）
	〃	三隅浩二：正規圧密粘土の降伏曲線および弾塑性パラメータの決定（論454）
	〃	秋山孝正：{ファジィ理論を用いた道路交通流解析（総合題目）（論395, 425, 449, 土木計画学研究・論文集8）
	〃	三島徹也：{鉄筋コンクリートの一般化離散ひびわれモデルの開発（総合題目）（論442（4編））
	〃	小島尚人：{衛星マルチスペクトルデータを用いた土地分級評価モデルの開発とその適用性に関する研究（総合題目）（論427, 453）
吉田賞	論文部門	丸屋剛 Somnuk Tangetermsirikul 松岡康調：コンクリート中の塩化物イオンの移動に関する解析的研究（論442）
	〃	清宮理 横田弘：鋼・コンクリートハイブリットはりの力学特性に関する研究（論451）
	〃	大塚浩司：{X線造影撮影による鉄筋コンクリート内部の微細ひびわれ検出に関する研究（論451）
	〃	三浦尚 橋洋房 新井哲三：エポキシ樹脂塗装鉄筋の許容塗膜損傷度に関する研究（論451）
田中賞	論文部門	酒造敏廣：繰り返し水平力を受ける鋼変断面片持ち柱の弾塑性挙動に関する研究（論446）
	〃	三上市蔵：{鋼橋の維持管理のためのエキスパートシステムに関する研究（論453, 構造工学論文集, 37 A, 38 A）
	〃	北沢正彦 石崎浩：{長大斜張橋の構造形式選定と耐震耐風設計技術の開発（Proc. Inter Seminar on Cable-Supported Bridges, 1991. 12.）
作品部門	青森ベイブリッジ〔道路橋〕（青森市，PC斜張橋）	
	〃	一般国道9号〔新江川橋〕〔道路橋〕（江津市，ダブルデッキトラス橋，箱桁橋）
	〃	木場公園大橋〔歩道橋〕（東京都江東区，PC斜張橋，PC単純箱桁橋）
	〃	上信越自動車道碓氷三橋〔道路橋〕 {群馬県碓氷郡，（碓氷橋）PC2径間連続斜張橋 （赤松沢橋）RC2径間連続ランガー橋 鋼単純逆ローゼ橋
	〃	灘浜大橋〔道路橋〕（神戸市，5径間連続V脚ラーメン橋）
	〃	羽田スカイアーチ〔道路橋〕（東京都大田区，主塔アーチ型鋼床版並列斜張橋）
	〃	阪神高速道路湾岸線 新浜寺大橋〔道路橋〕（堺市，バスケットハンドル型ニールセンローゼ橋）
	〃	

	技術開発賞	神西阿辻 正一昭道 崎澤部 修義宏 島野朗 史勉雄理博	建設分野における人工衛星 GPS 精密測位システムの実用化
〃		小中高清遠 島野橋宮藤 重 重	二重円筒ケーソン防波堤の開発
〃		青丸藤 木山岡 一三修一 藤 豊	場所打ち杭の新載荷試験法の開発
〃		横渡萩西遠 田辺原岳藤 一俊英 郎雄樹芝勝	MSD (メカニカル・シールド・ドッキング) 工法の開発
	出版文化賞	肥留間 博 [監修:伊藤好一]	玉川上水一親と子の歴史散歩— (財・たましん地域文化財団, 1991.10)
〃		James Edward Gordon (訳:石川廣三)	{構造の世界—なぜ物体は崩れ落ちないでいられるか— (原書名/Structures : or Why Things Don't Fall Down) (丸善, 1991.10)}
〃		若松 加寿江	日本の地盤液状化履歴図 (東海大学出版会, 1991.12)
1993年	功績賞	久保慶三郎 近藤和夫 佐藤肇	
	技術賞	運輸省第三港湾建設局 広島土木建築部空港建設局	降雨に弱いまさ土の超高盛土に挑んだ新広島空港建設工事
〃		志布志石油備蓄(株) 日石エンジニアリング(株) (株)日建設計	志布志石油備蓄基地におけるタンク基礎の建設
〃		日本地下石油備蓄(株) 電源島建設(株) 鹿成建設(株) 清水建設(株)	{日本初の大規模地下石油備蓄基地建設 (久慈・菊間・串木野基地) —水 封式岩盤タンク—
〃		日本鉄道建設公団東京支社 運輸省第二港湾建設局 東京モノレール(株)	{羽田空港沖合展開事業に伴うアクセス鉄道の建設 (整備場~羽田 (空港間) [東京モノレール羽田新線]
〃		阪神高速道路公団	阪神高速道路湾岸線の建設
	論文賞	小長井 一男 田村 重四郎	LAT (レーザー援用トモグラフィ) による粒状体構造変化の可視化 (論455)
〃		加藤 一正	{長周期波とそれによる海浜変形機構に関する実証的研究 (総合題目) (海岸工 学論文集 27, 31, 38, 40, 論452)
〃		柴田 徹夫 森堀 邦夫	地盤中への粉体注入現象に関する研究 (総合題目) (論481, 445)
〃		小林 潔司	{交通情報を用いた経路誘導システムに関する研究 (総合題目) (論458, 470 (2 編))
〃		前川 宏一	{コンクリートの塑性と損傷に関する三次元複合構成則の開発 (総合題目) (論 460 (3編) 論472 (2編))
〃		室深 達朗 川 良一	{履帯式建設車両の走行性能と掘削能力の向上に関する研究 (総合題目) (論444, 462, 468, 476, 480)
	論文奨励賞	東平 光生	{薄層要素—離散化波数法による成層弾性体の衝撃応答解析手法の開発 (総合題 目) (論459, 465)
〃		後藤 仁志	{砂粒子の運動機構を考慮した非定常流砂過程の数値モデルに関する研究 (総合 題目) (論473 (2編))
〃		小高 猛司	{複合地盤の支持力機構に関する塑性論的研究 (総合題目) (論448, 47回年講 3部 (2編))
〃		森川 高行	意識データを利用した交通行動モデル (総合題目) (論470, 476 (2編))
〃		中村 光	解析的研究に基づくRC部材の塑性変形能定量化 (総合題目) (論420, 442)
	吉田賞	檜 貝 勇	{等分布荷重を受け、曲げモーメントの反曲点をスパン内に持つRCはりのせん 断耐力 (論460)
〃	論文部門	睦谷喜町 好口多田 安裕達篤 史史夫彦	連続繊維補強材を用いたPC部材の曲げ靱性改善に関する研究 (論460)

論文部門	池田尚治] : (地震による鉄筋コンクリート柱の動的応答に関する映像シミュレーション (論山 山口隆裕] : (451)
田中賞	
研究業績部門	吉田 巖 : (長大吊橋下部構造の調査と計画 (総合題目) (Proc. IABSE Symposium 1986, C.E. Japan 1987, 論 390, 918 (ほか)
〃	野上邦栄] : 吊形式橋梁の塔の座屈設計に関する一考察 (論 446) 成田 信]
作品部門	センチュリー大橋 [歩道橋] (兵庫県三田市)
〃	秩父公園橋 [道路橋] (秩父市, 3 径間 PC ラーメン + 2 径間連続 PC 斜張橋)
〃	長池見附橋 [道路橋] (多摩市, 旧四谷見附橋)
〃	阪神高速道路湾岸線 東神戸大橋 [道路橋] (神戸市, 斜張橋)
〃	Bridge of R [歩道橋] (兵庫県小野市, 片面吊り 2 径間 PC 斜張橋)
〃	桃介橋 (復元) [歩道橋] (長野県南木曾町)
〃	レインボーブリッジ [道路橋] (東京港芝浦～台場地区)
技術開発賞	鈴木英世] : 球体シールド工法の開発 貝沼憲男] 別所俊一] 金子研幸] 藤本幸一]
〃	中川幹雄] 今川克勉] 河本敏正] 佐久間幸夫] 加藤幸夫]
〃	宇源多高明] 田波修一郎] 佐藤中藤正博] 堀田中藤正博] 佐藤哲]
〃	佐藤勝久] 早田修一] 片山好忠] 八谷晴高] 犬飼晴雄]
出版文化賞	日野幹雄 : 流体力学 (朝倉書店, 1992.12)
〃	伯野元彦] : 被害から学ぶ地震工学—現象を率直に見つめて (鹿島出版会, 1992.12)
〃	三宅雅子 : 乱流—オランダ水理工師デレーケ (東都書房・講談社発売, 1992.12)
〃	菊岡俱也 : 建設業を興した人びと—いま創業の時代に学ぶ (彰国社, 1993.1)
国際貢献賞	西野文雄 山口正史 Lynn S. Beedle
技術功労賞	奥園誠達 佐々木 恵一 菅原 一 晃 玉木 稔 二階堂 武昌

注：功績賞受賞者の略歴は会長に関しては6～14頁，その他は308～311頁に掲載した。



写真 9.1 土木学会賞の賞牌展示風景

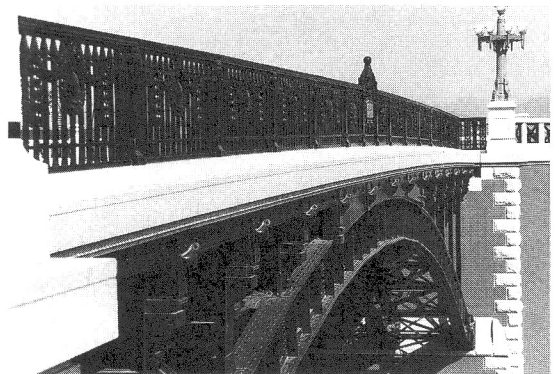


写真 9.2 93年度田中賞作品部門をうけた長池見附橋 (旧四谷見附橋)

付・吉田研究奨励金被授与者一覧

9.5 映画コンクール入賞作品一覧

年度	氏名
1984	林 洋介 高橋 義裕 岩瀬 裕之 内田 明 橋本 親典 島 弘
1985	井上 晋 河野 広隆 石井 良実 氏家 勲 高津 和義 山田 淳 大崎 弘 梅原 秀哲 関 雅樹 宮内 政信 牛島 栄 八重樫明彦 藤原 幹男 大作 淳 古内 仁 ●IABSE '86 シンポジウム(1986.9.4~6.9)への参加
1986	鳥居 和之 菅原 隆 古沢 誠司 渡部 直人 入江 正明 下山 善秀 久保田信雄 長谷川和夫 池内 武文 ●示方書英文化小委員会へ補助
1987	桜井 宏 小沢 一雅 小池 信男 吉川 博 鈴木 和夫 丹野 弘 森浜 和正 戸井田 克 李 宝 緑 鬼頭 宏明 ●コンクリートの耐久処理に関する調査
1988	福手 勤 浜田 秀則 河合 研至 小笠原政文 平林 泰明 桜井 宏 椿 龍 哉 天野 玲子 山口 隆裕 白木 亮司 渡部 正 ●コンクリート構造物の耐久設計指針試案の英訳 ●コンクリートの耐久処理に関する調査研究
1989	江本 幸雄 西沢 辰男 河合 研至 田中 茂義 ●コンクリートの耐久処理に関する調査研究 ●コンクリート委調査企画小委への調査研究費補助
1990	綾野 克紀 五十嵐心一 下村 匠 堀 宗 朗 渡辺 博志 高橋 弘人 宇治 公隆 河合 研至 児玉 浩一 西村 次男 橋本 親典 松本 信之 ●コンクリート委調査企画小委への調査研究費補助
1991	大庭 光商 大槻 茂雄 荒神 敏郎 亀ヶ谷 勲 寺島 善宏 内田 裕市 佐藤 靖彦 中島 良光 渡部 正 石田 知子 嶋田 久俊 古内 仁 山口 隆裕 山本 武志 六郷 恵哲* 辻 幸和* 上田 多門* 大津 政康* 魚本 健人* ●コンクリート委調査小委への調査研究費補助
1992	山田 昌郎 タンゾ・ウイリアム 武田 宣典 三浦 律彦 平田 隆祥 古沢 靖彦 ジェネイド・クレシ 宇治 公隆 馬庭 秀士 (吉田研究奨励賞援助金)と改名
1993	久田 真 勝木 太 チャヤイディ・ヨン・ヘルマン ●ISO 9000 とコンクリート構造物(コンクリート小委)

* 国際会議への派遣者

回数 年	賞名	作品名	企画	製作
1 1964	最優秀 優秀	銀座の地下を掘る 羽田海底トンネル	交通営団 首都公団	日映新社 理研科学 画映 C B C テレ レ ビ
	準優秀 "	横山ダム工事	中部地建	日映新社 新潟映画 毎日放送 画映
	準優秀 "	大阪環状線一西成編一 外洋にいでむ	国鉄大阪工 鹿島建設	日映新社 新潟映画 毎日放送 画映
	準優秀 "	海を渡る砂	臨海土木	日映新社 新潟映画 毎日放送 画映
2 1966	最優秀 優秀	よみがえる川 砂防	群馬県 平和国議 計画会議	三井プロ 旭映画
	準優秀 "	高潮に挑む 海の新土	関東地建 中部地建	松崎プロ C B C テレ レ ビ
	準優秀 "	えい知の結晶	神奈川 神奈川 ニュー ス	川奈 電通映 画
	準優秀 "	第三の道路(第二部)	道路公団	電通映 画
3 1968	最優秀 優秀 準優秀	礎(いしずえ) 青函トンネル(第一部) 利根川河口堰 梓川開発の記録	東京電力 鉄建公団 水資源公団 鹿島建設	岩波映画 理研映画 松崎プロ 本 技 術 映 画 本 シ ネ セル
	準優秀 "	江東の地下を掘る 一東西線シールド工事 記録一	交通営団	日 シ ネ セル
	準優秀 "	尾道大橋	道路公団	山陽映画
4 1970	最優秀 優秀 準優秀	東名高速道路 北上川 くっさく 蛇紋岩トンネル掘さく の記録	道路公団 東北地建 交通営団 鉄建公団 札幌	日映新社 松崎プロ 日映新社 北海道放送
	準優秀 "	青函トンネル(第二部)	鉄建公団 鉄建公団 東京	理研映画 日映新社
	準優秀 "	多摩川をわたる沈埋ト ンネル	鉄建公団 東京	日映新社
5 1972	最優秀 優秀 準優秀	松原・下笠ダム建設 記録一総集編一 みんなの下水道 土石流 水道橋架道橋拡幅	九州地建 大阪府 北陸地建 国鉄東三工	松崎プロ NET朝日 松崎プロ 理研 科学映 画
	準優秀 "	新しい海底トンネル 一多摩川沈埋函工事記 録一	鹿島建設	鹿島映画
	準優秀 "	主塔	石川島播磨	鹿島映画
6 1974	最優秀 優秀 準優秀	関門橋 渡良瀬遊水池 波と闘う人々 東京港海底トンネル	道路公団 関東地建 中国地建 湾岸線沈埋 工事企業体	RKB映画 松崎プロ 中国弘済会 鹿島映画
	準優秀 "	本四架橋の設計調査	本四公団	日映新社 理研 科学映 画
	準優秀 "	東京地下駅の建設	国鉄東一工	理研 科学映 画
7 1976	最優秀 優秀 準優秀	恵那山トンネル アルプスの地下にきず く一新高瀬川発電所一 有楽町線 掘進10 900 m うず潮の海に架ける	道路公団 鹿島建設 交通営団 道路公団	松崎プロ 鹿島映画 日映新社 山陽映画

回数 年	賞名	作品名	企画	製作
7 1976	準優秀 "	世界の都市交通一政策編 北北大塚の建設	トヨタ交通環境東北地建	鹿島映画 松崎プロ
8 1978	最優秀 優 秀 "	青函トンネル一本州側工事の記録 都市化が水害を招く 六方沢橋	鹿島・熊谷・鉄建青函ずい道工事JV 関東地建 栃木県道路公社・清水建設・川田工業	鹿島映画 日科学映画 シ・エ・シ
	準優秀 "	水で掘る一泥水シールド工法 よみがえる水一下水処理を中心に 空に伸びる浄水場一村野階層浄水場建設の記録	戸田建設 鹿島建設 大阪府	読売映画 鹿島映画 読売映画大阪
9 1980	最優秀 優 秀 "	川とともに一岩木川水系改良復旧事業 大三島橋一本四国連絡道路 黎明のとき	青森県 本四公団 国鉄下関工	日科学映画 岩波映画 理科学映画
	準優秀 "	赤谷川橋りょうRC逆ランガーアーチ橋 噴泥に挑む LNG地下タンク	鉄建公団東京新幹線 国鉄東一工 鹿島建設	理科学映画 鹿島映画
10 1982	最優秀 優 秀 "	新たなる挑戦一超大型泥水シールド工法 上総掘り 斜坑に挑むTBM一下郷発電所・水圧管路工事	交通営団 袖ヶ浦町 電源開発	青銅プロ モロオカプロ 鹿島映画
	準優秀 "	雪にいとむ一東北新幹線雪対策試験 RCD工法一島地川ダム 変貌する東京駅	国鉄盛岡工 中国地建 国鉄東一工	春秋映画 中国弘済会 理科学映画
11 1984	最優秀 優 秀 "	本四連絡橋 長大橋の基礎を築く(第三部) 日本の河川一治水の歴史とその背景 人工島を築く一御坊発電所建設工事記録	瀬戸大橋下部工南工区・鹿島・間・五洋JV 中部地建 関西電力	鹿島映画 日科学映画 毎日映画社
	準優秀 "	ザイールに架ける一長大吊橋建設記録 上野地下駅一東北新幹線上野地下駅北部工事 軟弱地盤に築く一霞ヶ浦開発事業の堤防工事	石川島播磨・三菱重工・川崎重工 飛鳥建設 水資源公団	日シネセル 大峠プロ テレビ朝日
12 1986	最優秀 優 秀 "	青函トンネル うず潮に架ける一本四橋大鳴門橋 川と街一みんなで考える都市河川	鉄建公団青函建設局 本四公団建 日本経済教育センター	北海道放送 日シネセル 鹿島映画

準優秀	田野畑に架ける一思惟大橋の建設	東北地建三陸国道事務所	旭映画
"	東北新幹線一上野・大宮間の主な建設工事の記録	国鉄東一工 国鉄東二工 国鉄東三工	理科学映画
"	蘇った秋田港	第一港建秋田港工事事務所	秋田テレビ
13 1986	最優秀	本四四国連絡橋一児島・坂出ルート	本四公団第二管理局 海洋架橋調査会・山陽映画
優 秀	木曾三川一水と人間の歴史(第一部・水とのたたかい)	中部地建	C B C テレビ
"	横浜ベイブリッジの礎一横浜港横断橋下部工事記録	鹿島・大林・東亜JV	カビジョン
準優秀	黎明のキリマンジャロ	鴻池組	総合映画所 製作所 カビジョン
"	かつしかハープ橋	川崎重工・桜田機械・東京鉄骨橋梁	
"	ジェット化をめざす青森空港(飛行場施設編)	青森県空港建設局	新芸映画
14 1990	最優秀	海中基礎にいとむ一明石海峡大橋ケーソン設置	本四公団建 海洋架橋調査会
優 秀	「時を越えて」一名橋・万代橋	北陸地建・映画「万代橋」委員会	中央映画社 北陸建設会
"	横浜ベイブリッジ一21世紀に架ける	首都公団	神奈川 ユ画協 宝塚映画
準優秀	関西国際空港建設記録一連絡橋第2工区下部工	大林組	
"	京葉都心線一その新しい技術	鉄建公団東京支社	理科学映画
"	「大深度地下に築く駅」一京葉線・東京地下駅の記録	JR東日本東京工事部	"
15 1992	最優秀	ある碑一巨大吊橋を支える	明石海峡大橋IA下部工工事・大林・清水・飛鳥・東亜・不動JV 山陽映画
優 秀	郷土の宝一大河津分水	北陸地建	映画「大河津分水」委員会 中央映画社
"	潮流と洗掘一明石海峡大橋水理実験	本四公団建	海洋架橋調査会
準優秀	朝日小川ダムの建設一RCD工法を中心として	富山県土木部	カビジョン
"	若戸大橋新たな技術の確立一4車線拡幅工事の記録	道路公団福岡建設局	RKB映画
"	直上高架切替工法一東急東横線大倉山・菊名間立体交差化工事	横浜市道路局・東京急行電鉄	教育映画
"	都市を支える下水道一大田幹線工事記録・総集編	都下水道局	日本映画社

注：佳作は省略。第6回より選定映画が応募資格となる。

9.6 土木学会運営に関する規程

[平成6年4月22日 理事会]

(総則)

第1条 土木学会の運営については、別に定めるものを除き、この規程の定めるところによる。

(理事会報告)

第2条 専務理事は、別に定めのあるものを除き、次の事項について理事会に報告しなければならない。

(1) 理事会決定にかかる主要事項処理状況

(2) その他重要事項

(専務理事の報酬)

第3条 定款第17条(理事、監事の報酬)に定める専務理事に対する給与、退職手当等については総務担当理事の意見をもとに会長が決定する。

(学会誌等の基本事項等)

第4条 土木学会誌および土木学会論文集の基本事項、発行条件その他重要事項については、理事会が決定する。

第5条 出版物の刊行に係る行政官庁等に対する補助金交付の申請の可否は、理事会が決定する。ただし数年度にわたるもの(同一出版物について毎年度に定期的に申請するものを含む。)の第2年度以降に係るものについては、専務理事が決定する。

(海外調査、海外研修等)

第6条 学会運営もしくは学会活動(委員会活動を含む。)等の必要上行う海外調査団の派遣、海外研修旅行の実施等については、理事会が決定する。

(行政官庁等に対する建議等)

第7条 定款第5条(事業)第5号に係る行政官庁その他に対する土木工学、土木事業等に関する建議、諮問に対する答申等については、理事会が決定する。

(各種候補者の推薦)

第8条 土木学会以外の機関等に係る会員、委員、代表者、受賞者等の候補者の土木学会推薦については、次の各号の区分により、それぞれ決定する。

(1) 理事会が決定する候補者

ア. 日本学術会議会員

イ. 日本学士院会員

ウ. 文部省科学研究費補助金の配分に係る審査委員

エ. 日本学術会議から派遣を希望する国際会議代表

(2) 会務担当理事が決定する候補者

ア. 日本学術会議研究連絡委員会委員

イ. 各種の賞(研究助成等を含む。)等の受賞者

(事務局関係)

第9条 事務局職員(嘱託を含む。)の採用、登用、休職および退職の決定、承認等ならびに職階の格付けについては、次の各号の区分により、それぞれ行う。

(1) 事務局長 理事会

(2) 課長職(室長および課長補佐を含む) 会長

(3) その他の職 専務理事

2. 事務局職員(嘱託を含む。)の給与ベース改訂、期末手当の支給、その他給与関係については、次の各号の区分により、それぞれ決定する。

(1) 課長職(室長および課長補佐を含む)以上 会長

(2) その他の職 専務理事

3. 前2項に定めるもののほか、事務局に関する事項の決定、処理については、次の各号の区分により、それぞれ行う。

(1) 重要な事項 理事会

(2) 軽微な事項 事務局長

(支部連絡会議)

第10条 本部・支部間および支部相互の連絡を密にすることを目的として支部連絡会議を設置する。

2. 支部連絡会議は、会員・支部部門担当者理事および支部幹事長をもって組織し、会長が招集する。

3. 支部連絡会議では、上記目的を達するため必要な事項について審議を行う。

付則(平成6年4月22日 理事会議決)

この規定は、「土木学会・定款等の運用等に係る暫定措置に関する規定」53.5.12・理事会、54.1.26・一部変更、54.5.11・一部変更、55.12.16・一部変更、56.6.24・一部変更、60.6.27・一部変更を改正したもので、この規程の変更に係る土木学会規則の一部変更について評議員会の議決があった日(平成6年5月20日)から施行する。

9.7 支部規程

(1) 北海道支部規程

[昭和39年4月30日 一部改正 昭和57年5月21日 一部改正]
[昭和47年4月28日 〃 昭和62年5月26日 〃]

(名称所在範囲)

第1条 この支部は土木学会北海道支部と称し札幌市に事務局をおく。

第2条 土木学会北海道支部は北海道在住の会員をもって組織する。

(役員)

第3条 支部につきの役員をおく。

支部長 1名 商議員 若干名 監査 2名

幹事長 1名 副幹事長 1名 幹事 若干名

(役員の選任および委嘱)

第4条 支部長、商議員および監査は、支部正会員の中から商議員会が候補者を推せんし、総会の承認をうけて会長に報告する。

2. 理事および評議員は、選任された日から商議員となる。

3. 幹事長は、評議員の中から支部長が委嘱する。

4. 副幹事長・幹事は、支部長が委嘱する。

5. 支部役員は、所属支部を変えたときただちに支部長に報告し、その任を辞さなければならない。この場合、その補充は支部長の委嘱による。新役員の任期は残任期間とする。

(役員の任期)

第5条 役員の任期はつぎのとおりとする。

支部長 1年

商議員 2年 原則として毎年半数交替

監査 2年 原則として毎年半数交替

幹事長 1年

副幹事長 1年

幹事 2年 原則として毎年半数交替

2. 任期の始期は支部総会の翌日とする。

ただし、任期満了後でも後任者が就任するまでは、その任務を行わなければならない。

(役員の報酬)

第6条 役員は名誉職とする。

(役員の職務)

第7条 支部長は支部を代表し、支部の会務を総理する。

2. 支部長に事故あるときは、支部長の指名した商議員がこれを代行する。

3. 商議員は、商議員会において第8条第2項に定める事項を議決する。

4. 監査は、支部の会計を監査する。

5. 幹事長・副幹事長は、商議員会の議決に基づき会務を処

理する。

6. 幹事は、幹事長・副幹事長を補佐し会務を処理する。
(商議員会)

第 8 条 商議員会は、商議員をもって組織し、支部長が招集し議長となる。

2. 商議員会はつぎの事項を議決する。

- イ 事業計画および予算
- ロ 規程、内規の制定および変更
- ハ 総会提出議案
- ニ その他支部運営の基本事項

3. 商議員会は、商議員現在数の過半数をもって成立し、出席者の過半数で決する。議事につきあらかじめ書面をもって意見を表明したものは出席者とみなす。

ただし、規程の変更については第 15 条による。

4. 商議員会において議決された事項は、これを総会に報告する。

(総会)

第 9 条 支部長は毎年 5 月に通常総会を、また必要に応じて臨時支部総会を招集する。

2. 総会の議長は支部長がこれにあたる。

3. 総会はつぎの事項を議決する。

- イ 事業および決算に関する事項
- ロ 規程の変更
- ハ その他支部に関する重要事項

4. 議事は出席者の過半数で決する。

(事業)

第 10 条 支部は、土木工学に関する研究発表会・講演会・講習会・研究会・見学会および土木工学に関する研究調査その他を行うことができる。

第 11 条 支部は、土木工学に関する図書、印刷物を刊行することができる。

(委員会)

第 12 条 支部長は、研究調査・支部の運営その他必要あるときは委員会を設けることができる。

(会計)

第 13 条 支部の経費は、交付金・行事参加費・広告料その他をあてる。

2. 支部の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終る。

(職員)

第 14 条 支部長は、会務を執行するため必要に応じてつぎの有給職員をおくことができる。

事務局長 1 名 書記 若干名

(規程の変更)

第 15 条 この規程は、商議員会において商議員の 3 分の 2 以上が出席し、出席者の 3 分の 2 以上の議決を経、支部総会の議決をうけなければ変更することができない。

(付則)

1. 支部長は、支部役員の数その他会務運営上必要な事項に関する内規を作成しなければならない。

2. この規程は昭和 62 年 5 月 26 日から実施する。

(2) 東北支部規程

昭和 12 年 11 月 19 日 制定	昭和 45 年 5 月 12 日 一部改正
〃 32 年 5 月 15 日 一部改正	〃 46 年 5 月 1 日 〃
〃 39 年 6 月 29 日 〃	

(支部の名称および所在地)

第 1 条 仙台市に支部をおき、土木学会東北支部という。

(支部役員)

第 2 条 支部に次の役員をおく。

- 1. 支部長
- 2. 商議員
- 3. 監査役
- 4. 幹事長
- 5. 幹事

(支部役員の委嘱)

第 3 条 支部長は、支部正会員の中から商議員が選出する。支部所属の評議員および理事は、選任されたときから商議員となるものとし、その他の商議員および監査役については商議員会の推薦により支部長が委嘱する。

幹事長および幹事は支部長が委嘱する。

(支部役員任期)

第 4 条 役員任期は次のとおりとする。ただし、再任を妨げない。

- 1. 支部長 1 年
- 2. 商議員および監査役 2 年 原則として毎年半数改選
- 3. 幹事長・幹事 1 年

第 5 条 役員に欠員を生じたことにより補選委嘱された役員の任期は、前任者の残任期間とする。

第 6 条 任期の始期は、支部総会の翌日とする。ただし任期満了後でも後任者が就任するまではその残務を行うものとする。

(支部役員報酬)

第 7 条 役員は名誉職とする。

(支部役員職務)

第 8 条 支部役員は次の職務を行う。

- 1. 支部長 支部は代表し支部会務を総理する。
- 2. 商議員
 - イ 事業計画および収支予算の議決
 - ロ 規程の制定および改訂
 - ハ その他支部運営の基本的事項の決定
- 3. 監査役 支部の会計を監査する。
- 4. 幹事長 支部長を補佐し、支部長に事故あるときはその職務を代行する。
- 5. 幹事 支部会務の処理

(顧問)

第 9 条 学会あるいは本支部の運営に関し、功績顕著な者を顧問とすることができる。

顧問は、各種会議に出席し支部運営に関し意見を述べることができる。

(支部総会)

第 10 条 支部長は、毎年年度終了後 2 ヶ月以内に総会を開催する。総会は次の事項を審議する。

- 1. 事業報告および収支決算報告
- 2. 商議員会における重要議決事項の報告
- 3. 顧問の推挙

(支部の行事)

第 11 条 支部長は土木工学に関する研究発表会、講演会、講習会、見学会、映画会等を行うことができる。

(図書の刊行)

第 12 条 支部長は土木工学に関する図書、印刷物を刊行することができる。

(支部委員会)

第 13 条 支部長は調査研究をするため必要があるときは支部委員会を設けることができる。

(支部職員)

第 14 条 支部長は会務を執行するため必要があるときは有給職員をおくことができる。

(会計)

第 15 条 会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

2. 支部の経費は交付金、行事参加費、広告料、その他をあてる。

3. 支部会計は監査役の監査を受けなければならない。
(事業計画および予算)

第 16 条 支部長は翌年度の事業計画およびこれに伴う収支予算を決定後、ただちに会長に提出するものとする。
(事業および決算報告)

第 17 条 支部長は年度終了後すみやかに事業および収支決算報告を会長に提出するものとする。
(報告)

第 18 条 支部長は第 10 条ないし第 12 条の事項を実施したときは、そのつど、会長に報告するものとする。

(付 則)

この規程は昭和 46 年 5 月 1 日から実施する。

(3) 関東支部規程

[昭和 39 年 4 月 30 日 制 定]
[〃 52 年 4 月 28 日 一部改正]

(目 的)

第 1 条 この規程は、土木学会の定款および規則に定めるもののほか、支部の組織および支部における会務運営についての基準を定めることを目的とする。

(名称および事務所の所在地)

第 2 条 この支部の名称は土木学会関東支部といい、事務局を東京都におく。

(役 員)

第 3 条 支部につきの役員をおく。

1. 支部長 1 名
2. 商議員 若干名
3. 幹事長 1 名
4. 幹 事 若干名

(役員の選出および委嘱)

第 4 条 ① 支部長は、支部に所属する正会員の中から役員会が選出する。

② 商議員は、支部長の推薦により、支部総会の承認を得て支部長が委嘱する。

③ 幹事長および幹事は、支部長が委嘱する。

(役員任期)

第 5 条 ① 役員任期は、原則としてつぎのとおりとする。

1. 支部長 1 年
2. 商議員 2 年 原則として半数交代
3. 幹事長 1 年
4. 幹 事 2 年 原則として半数交代

② 役員は、任期満了後でも後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(役員報酬)

第 6 条 役員は、名誉職とする。

(役員職務)

第 7 条 役員は、つぎの職務を行う。

1. 支部長 支部を代表し、支部会務を総理する。
2. 商議員 つぎの事項を議決する。
イ 事業計画および予算
ロ 規程の制定および改訂
ハ その他支部運営の基本的事項
3. 幹事長 支部長を補佐し、支部長に事故あるときは、その職務を代行する。
4. 幹 事 幹事長を補佐し、会務を処理する。

(顧 問)

第 8 条 支部に顧問をおくことができる。顧問は、支部長の諮問に応じ、また支部運営について意見を述べることができる。

(総 会)

第 9 条 ① 支部長は毎年通常総会を、また必要に応じて臨時総会を開催する。

② 総会はずぎの事項を審議する。

1. 事業報告および決算報告
2. 商議員会の議決事項の報告
3. その他支部に関する重要事項

(行 事)

第 10 条 支部は、土木工学に関する研究発表会、講演会、講習会、映画会、見学会、視察会等の行事を行うことができる。(図書刊行)

第 11 条 支部は、土木工学に関する図書、印刷物を刊行することができる。

(委員会)

第 12 条 支部長は、調査研究をするため、必要があるときは、支部委員会を設けることができる。

(職 員)

第 13 条 支部長は、会務を執行するため必要があるときは、つぎの有給職員をおくことができる。

事務局長 1 名 書記 若干名

(会 計)

第 14 条 ① 支部の経費は、交付金、行事参加費、広告料その他をあてる。

② 会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終る。

③ 支部会計は、商議員会が委嘱した 2 名の会計監査員の監査を受けなければならない。

(事業計画および予算)

第 15 条 支部長は、毎年度の事業計画およびこれに伴う予算を、決定後ただちに会長に提出するものとする。

(事業報告および決算報告)

第 16 条 支部長は、年度終了後、すみやかに事業報告および決算報告を会長に提出するものとする。

(報 告)

第 17 条 支部長は、第 10 条および第 11 条の事項を実施したときは、そのつど、会長に報告するものとする。

(付 則)

① この規程は、昭和 39 年 4 月 30 日から実施する。

② 設立当初の商議員および幹事の任期は、推薦によって半数は 1 年とする。

(4) 中部支部規程

[昭和 38 年 11 月 1 日 制 定]

(目 的)

第 1 条 この規程は、定款および規則に定めるもののほか、支部の組織および支部における会務運営についての基準を定めることを目的とする。

(支部の名称および所在地)

第 2 条 名古屋市に支部をおき、土木学会中部支部という。

(支部役員)

第 3 条 支部につきの役員を置く。

1. 支部長 1 名
2. 商議員 若干名
3. 幹事長 1 名
4. 幹 事 若干名

(支部役員委嘱)

第 4 条 支部長は、支部正会員の中から支部所属の評議員の選出により会長が委嘱する。

商議員は、支部長の推薦により、支部総会の承認を得て支部長が委嘱する。

幹事長および幹事は、支部長が委嘱する。

(支部役員任期)

第 5 条 役員任期は、原則としてつぎのとおりとする。

1. 支部長 1 年
2. 商議員 1 年

3. 幹事長および幹事 1年

ただし、任期満了後も後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(支部役員報酬)

第6条 役員は、名誉職とする。

(支部役員職務)

第7条 支部役員は、つぎの職務を行う。

1. 支部長 支部を代表し、支部会務を総理する。

2. 商議員

イ 事業計画および予算の議決

ロ 規程の制定および改訂

ハ その他支部運営の基本的事項

3. 幹事長 支部長を補佐し、支部長に事故あるときは、その職務を代行する。

4. 幹事 幹事長を補佐し、会務を処理する。

(顧問)

第8条 支部に顧問をおくことができる。顧問は、支部長の諮問に応じ、また支部運営について意見を述べることができる。

(支部総会)

第9条 支部長は、毎年総会を開催する。総会は、つぎの事項を審議する。

1. 事業報告および決算報告

2. 商議員の議決事項の報告

3. 顧問の推挙

(支部の行事)

第10条 支部長は、土木工学に関する研究発表会、講演会、講習会、および見学、視察等を行うことができる。

(図書刊行)

第11条 支部長は、土木工学に関する図書、印刷物を刊行することができる。

(支部委員会)

第12条 支部長は、調査研究をするため、必要があるときは、支部委員会を設けることができる。

(支部職員)

第13条 支部長は、会務を執行するため必要があるときは有給職員をおくことができる。

(事業計画および予算)

第14条 支部長は、翌年度の事業計画およびこれに伴う予算を決定後、ただちに会長に提出するものとする。

(事業および決算報告)

第15条 支部長は、年度終了後、すみやかに事業および決算報告を会長に提出するものとする。

(報告)

第16条 支部長は、第9条ないし第11条の事項を実施したときは、そのつど、会長に報告するものとする。

(付則)

この規程は、昭和38年11月1日から実施する。

(5) 関西支部規程

昭和39年5月8日	制定	昭和58年5月11日	一部改正
昭和47年5月17日	一部改正	昭和63年5月9日	〃
昭和49年5月8日	〃	平成元年5月10日	〃
昭和57年5月7日	〃		

(目的)

第1条 この規程は、定款および規則に定めるもののほか、支部の組織および支部における会務運営についての基準を定めることを目的とする。

(支部の名称および所在地)

第2条 大阪市に支部をおき、土木学会関西支部（以下支部

という）という。

(支部役員)

第3条 支部に次の役員をおく。

(1) 支部長 1名 (4) 幹事長 1名

(2) 副支部長 2名 (5) 幹事 若干名

(3) 商議員 若干名 (6) 特定事業幹事 若干名

(支部役員選出、委嘱および辞任)

第4条 支部長、副支部長および商議員は、関西支部に所属する正会員の中から学生会員を除く会員が選出する。

2. 幹事長、幹事および特定事業幹事は、支部長が委嘱する。

3. 支部役員は、所属支部を変えたときただちに支部長に報告しその任を辞さなければならない。

(支部役員任期)

第5条 役員任期は、次のとおりとする。

(1) 支部長 1年

(2) 副支部長 1年

(3) 商議員 2年 原則として半数交代

(4) 幹事長 1年

(5) 幹事 1年

(6) 特定事業幹事 1年

2. 任期の始期は、支部総会の翌日とする。ただし、任期満了後も後任者が就任するまではその職務を行わなければならない。

(支部役員報酬)

第6条 役員は、名誉職とする。

(支部役員職務)

第7条 支部長は、支部を代表し支部会務を総理する。

2. 副支部長は、支部長を補佐し、支部長に事故あるときはその職務を代行する。

3. 商議員は、商議員会において第9条第3項に定める事項を審議決する。

4. 幹事長は、支部長を補佐し、会務を処理する。

5. 幹事は、幹事会において第10条第3項に定める事項を決定するとともに幹事長を補佐し、会務を処理する。

6. 特定事業幹事は、幹事会で特定された事業に関し、担当幹事を補佐するものとする。

(支部総会)

第8条 支部長は、毎年5月に通常支部総会を、また、必要に応じて臨時支部総会を開催する。

2. 総会の議長は、支部長がこれにあたる。

3. 総会は、次の事項を審議する。

(1) 事業および予算、決算に関する事項。

(2) 商議員会の議決事項。

(3) その他支部に関する重要事項。

(支部商議員会)

第9条 商議員会は、商議員をもって組織し、議長は互選により選出する。

2. 商議員会は、原則として毎年6月、10月および翌年総会前に支部長が招集する。

3. 商議員会は、次の事項を議決する。

(1) 事業計画および予算、決算。

(2) 規定等の制定および改訂。

(3) その他支部運営の基本事項。

4. 商議員会は、この規程において別に定めるところを除いて商議員現在数の過半数をもって成立し、出席者の過半数で決する。ただし、議事につき書面をもってあらかじめ意思を表明したものは出席者とみなす。

(支部幹事会)

第10条 幹事会は、支部長、副支部長、幹事長および幹事を

をもって組織し、議長は支部長がこれにあたる。

2. 幹事会は、原則として毎月1回支部長が招集する。

3. 幹事は、商議委員会に提出する議案およびその他会務運営に関する事項を決定する。

(支部職場班)

第 11 条 支部と会員との関係を深め、支部運営を円滑にするため、支部に支部職場班をおく。

(支部事業)

第 12 条 支部は次の事業を行う。

- (1) 土木工学に関する研究発表会、講演会、講習会等の開催および見学視察等の実施。
- (2) 土木工学に関する研究、調査。
- (3) 土木工学に関する図書、印刷物の刊行。
- (4) 土木工学、土木事業または支部の目的遂行に関して著しい貢献をしたものの表彰。
- (5) 土木工学に関する諸活動の奨励、援助。
- (6) 土木工学、土木事業に関する建議、ならびに諮問に対する答申。
- (7) 土木工学、土木事業に関する広報活動。
- (8) その他必要なこと。

(支部委員会等)

第 13 条 支部は、前条の事業を行うため必要あるときは委員会等を設けることができる。

(支部会計)

第 14 条 支部の経費は、交付金、事業から生ずる収入、資産から生ずる果実、寄付金その他をあてる。

2. 支部の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

3. 支部会計は、商議委員会が委嘱した 2 名の会計監査委員の監査を受けなければならない。

(支部職員)

第 15 条 支部は、会務を執行するために必要に応じて有給職員をおくことができる。

(規程の改正と変更)

第 16 条 この規程は、商議委員会において商議員の半数以上が出席し、出席者の 4 分の 3 以上の議決を経、支部総会の承認を経て改正または変更することができる。

(付 則)

第 17 条 支部長は、会務運営上必要な事項に関する規程、内規等を作成しなければならない。

2. この規程は、平成元年 5 月 10 日から改正実施する。

(6) 中国四国支部規程

[昭和 39 年 4 月 1 日 制 定]

(目 的)

第 1 条 この規程は、定款および規則に定めるもののほか、支部の組織および支部における会務運営についての基準を定めることを目的とする。

(支部の名称および所在地)

第 2 条 広島市に支部をおき、土木学会中国四国支部という。

(支部役員)

第 3 条 支部につきの役員をおく。

1. 支部長 1 名
2. 商議員 若干名
3. 監査役 1 名
4. 幹事長 1 名
5. 幹 事 若干名

(支部役員の委嘱)

第 4 条 支部長は、支部正会員の中から支部所属の評議員の選出により会長が委嘱する。

商議員は、支部長が委嘱し、支部総会に報告する。幹事長および幹事は、支部長が委嘱する。

(支部役員の任期)

第 5 条 役員は、原則として、つぎのとおりとする。

1. 支部長 1 年
2. 商議員 1 年
3. 監査役 1 年
4. 幹事長および幹事 1 年

ただし、任期終了後でも後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(支部役員報酬)

第 6 条 役員は、名誉職とする。

(支部役員職務)

第 7 条 支部役員は、つぎの職務を行う。

1. 支部長 支部を代表し、支部会務を総理する。
2. 商議員

イ 事業計画および予算の議決

ロ 規程の制定および改訂

ハ 顧問の推挙

ニ その他支部運営の基本的事項

3. 監査役 監査役は、会計に関する書類を監査し、商議委員会にその意見を報告する。

監査は必要に応じてこれを行うことができる。

4. 幹事長 支部長を補佐し、支部長に事故あるときは、その職務を代行する。

5. 幹 事 幹事長を補佐し、会務を処理する。

(顧 問)

第 8 条 支部に顧問をおくことができる。顧問は、支部長の諮問に応じ、また支部運営について意見を述べることができる。

(商議委員会)

第 9 条 商議委員会は商議員をもって構成し、第 7 条 2 項に関する職務を行う。

2. 支部長は、その必要を認めるとき、商議委員会を招集し議長をつとめる。

(支部総会)

第 10 条 支部長は、毎年総会を開催し、つぎの事項を報告する。

1. 事業および決算
2. 商議員の議決事項

(支部の行事)

第 11 条 支部長は、土木工学に関する研究発表会、講演会、講習会および見学、視察等を行うことができる。

(図書の刊行)

第 12 条 支部長は、土木工学に関する図書、印刷物を刊行することができる。

(支部委員会)

第 13 条 支部長は、調査研究をするため、必要があるときは、支部委員会を設けることができる。

(支部職員)

第 14 条 支部長は、会務を執行するため必要があるときは有給職員をおくことができる。

(事業計画および予算)

第 15 条 支部長は、翌年度の事業計画およびこれに伴う予算を決定後ただちに会長に提出するものとする。

(事業および決算報告)

第 16 条 支部長は、年度終了後、すみやかに事業および決算報告を会長に提出するものとする。

(報 告)

第 17 条 支部長は、第 9 条ないし第 12 条の事項を実施のときは、そのつど、会長に報告するものとする。

(付 則)

この規程は、昭和 39 年 4 月 1 日から実施する。

(7) 西部支部規程

昭和13年7月 日 制 定	昭和43年3月1日 一部改正
〃 36年5月 日 一部改正	〃 49年4月24日 〃
〃 39年2月1日 〃	平成5年5月24日 〃

(名称, 所在地)

第1条 本支部は、土木学会西部支部と称し、事務局を原則として支部長所属機関内におく。

(目的)

第2条 支部は、土木工学の進歩と土木事業の発展を目指し、併せて会員相互の親睦を図ることを目的とする。

(支部長)

第3条 支部に支部長をおき、地区評議員の推薦によって会長が委嘱する。

2. 支部長の任期は1カ年とする。ただし、任期中異動があった場合には、原則として支部長の属する機関内から新支部長を推薦するものとし、任期は前任者の残期間とする。

3. 支部長は、支部に関する一般事務ならびに第2条の目的に沿ってつぎの事業を行う。

講習会、講演会、見学会、研究発表会、国際交流会、技術発表会

その他土木に関する調査、研究

4. 支部長は、前3項の事業を行うため必要あるときは、委員会を設ける。

5. 支部長は、総会の議決事項、役員の変動、支部の活動状況等をその都度会長に報告しなければならない。

(役員)

第4条 支部につぎの役員をおく。

商議員 若干名 幹事 若干名

幹事長 1名 監査 2名

2. 商議員を除く各役員の任期は、1カ年とする。ただし、任期中異動があった場合には、同一機関内から前任者の推薦する者に支部長が委嘱する。

(総会)

第5条 総会は、定期および臨時に支部長が会員を招集して行う。

2. 定期総会は、年1回開催し、つぎの事項を審議する。

(1) 当年度の事業報告および収支報告

(2) 次年度の事業計画

(3) 規程改正

3. 臨時総会は、会員の要望に基づくほか、支部長が必要と認めた場合に招集する。

(役員会)

第6条 役員会は、商議員および幹事をもって構成し、支部長が招集する。

2. 役員会は、つぎの事項を審議する。

(1) 事業計画および予算の承認

(2) その他支部運営に関する重要な事項

(商議員)

第7条 商議員は、支部地区内の代表的な機関の長から支部長が委嘱する。

2. 評議員は、評議員として選出された日から商議員に委嘱されたものとする。

(幹事会)

第8条 幹事は役員で定めた機関から各1名を支部長が委嘱する。ただし、事務局を置く機関から幹事長および幹事2名を委嘱する。

2. 幹事会は、役員会で承認された事業の計画、実施について事務局を補佐する。

3. 幹事会は幹事長が招集する。

4. 幹事長は支部長を補佐し、支部長に事故あるときはその職務を代行する。

(監査)

第9条 監査は、商議員の中から支部長が委嘱する。

2. 総会に提出する決算報告はあらかじめ監査をうけ、その承認を得ておかなければならない。

(賛助会)

第10条 支部の事業を円滑に運営するため、賛助会を設けることができる。

2. 支部の事業援助のため賛助会費を納入したる者を賛助会員とする。

3. 賛助会員の社内従業者は、支部主催の各種行事に参加することができる。

(支部職員)

第11条 支部長は、必要に応じて、つぎの職員をおくことができる。

主事 1名 書記 若干名

(内規)

第12条 支部職員の採用および支部旅費については、役員会の承認を得て別に内規を設ける。

(付則)

この規程を改正せんとするときは、総会の承認を得なければならない。

9.8 委員会規程

昭和42年4月28日 理事会
〃 46年8月27日 一部改正
〃 53年9月29日 〃

(総則)

第1条 この規程は、土木学会規則第32条に基づき、通常の会務執行のために常置する運営に関する委員会および調査研究に関する委員会ならびに臨時の目的のために設置する特別委員会の基準について定める。ただし、委託研究のために設置する委員会等は、この規程によらないことができる。(設置または廃止)

第2条 委員会の設置または廃止は、理事会で決める。ただし、設置のときは、その目的、事業、存続期間、必要経費、構成等が明らかでなければならない。

(構成)

第3条 委員会の委員は、その目的にそつた学識経験者および関係者とし、委員の数はなるべく少数にするものとする。

② 委員会に、委員長をおく。必要に応じて、副委員長および幹事等をおくことができる。

(委嘱)

第4条 委員長は、理事会にはかつて、会長が委嘱し、副委員長、委員、幹事等は、原則として、委員長の推薦によって、会長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は、つぎによる。

1. 常置する委員会の委員は、原則として2年として、毎年半数交代とする。ただし、重任を妨げない。任期の区切りは、通常総会とする。

2. 特別委員会の委員は、原則として、その委員会の存続期間とする。

(開催)

第6条 委員会は、委員長が招集する。

② 委員長は、必要に応じて、文書をもって委員の意見を徴し委員会の開催にかえることができる。この場合は、その結果を委員に通知しなければならない。

(小委員会等)

第7条 委員会は、必要に応じて、会務担当理事の承認を得

て、小委員会、部会等（以下「小委員会等」という）を設けることができる。

② 小委員会等の委員長、委員、幹事等は、原則として当該小委員会等を設置する委員会の委員長の推薦によって会長が委嘱する。

（内 規）

第 8 条 委員会は、目的、事業、存続期間、構成および運営に関する事項を含む内規を定め、理事会の承認を得なければならない。

（成果の報告）

第 9 条 委員会は、その事業の成果を得たときは、理事会に報告するものとする。

（事業計画および予算）

第 10 条 委員長は、毎年 1 月中に翌年度の事業計画および予算（小委員会等のものを含む）を会長に提出しなければならない。

② 特定の目的をもった賛助金によって調査研究を行う必要がある場合は、理事会の承認を経て、これを受け入れることができる。

（旅費等）

第 11 条 委員会の運営に必要な旅費等の経費の支出については、別に定める基準による。

② 前条第 2 項に定める賛助金に係る旅費等の支出については、理事会の承認を経て、土木学会委託研究取扱規程第 6 条 ② を準用することができる。

（事業報告）

第 12 条 委員長は、毎年 4 月上旬までに前年度の事業経過（小委員会等のものを含む）の概要を会長に報告しなければならない。

附 則

（施行期日）

① この規程は、昭和 42 年 6 月 1 日から施行する。

（委員会の区分）

② 委員会の常置、特別の区分は、理事会で決める。

（規程の変更）

③ この規程は、理事会で変更することができる。

附 則（昭和 46 年 8 月 27 日 理事会議決）

この変更規程は、昭和 46 年 8 月 27 日から施行する。

附 則（昭和 53 年 9 月 29 日 理事会議決）

この変更規程は、昭和 53 年 9 月 29 日から施行する。

9.9 表彰規程

昭和 40 年 7 月 23 日	理 事 会	昭和 61 年 9 月 26 日	一部改正
〳 53 年 5 月 12 日	一部改正	平成 元年 9 月 22 日	〳
〳 57 年 4 月 27 日	〳	〳 2 年 9 月 28 日	〳
〳 58 年 9 月 21 日	〳	〳 3 年 9 月 27 日	〳
〳 59 年 11 月 22 日	〳	〳 5 年 11 月 26 日	〳
〳 60 年 9 月 27 日	〳		

（総 則）

第 1 条 土木学会規則第 34 条による表彰は、この規程による。

（賞の種類）

第 2 条 表彰は、次の土木学会賞（総称）を授与して行う。

1. 功 績 賞
2. 技 術 賞
3. 論 文 賞
4. 吉 田 賞
5. 田 中 賞
6. 技術開発賞
7. 出版文化賞
8. 国際貢献賞
9. 技術功労賞

（功績賞）

第 3 条 功績賞は、本会会員であって、土木工学の進歩、土木事業の発達、土木学会の運営に顕著な貢献をなしたと認め

られたものに授与する。

（技術賞）

第 4 条 技術賞は、土木事業の計画、施工等に関し、土木技術の進展に顕著な貢献をなしたと認められた画期的な業績に授与する。

（論文賞）

第 5 条 論文賞は、本会会員であって、原則として土木学会誌、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩発展に独創的な業績をあげ、顕著な貢献をなしたと認められたものに授与する。

② 論文奨励賞は、本会会員であって、原則として土木学会誌、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案等に関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術に関する進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むものと認められ、受賞者の年齢が原則として、受賞時において満 36 才未満であるものに授与する。

（吉田賞）

第 6 条 吉田賞は、次の 2 部門に分けて授与する。

（1）研究業績部門：コンクリートに関する技術の進歩、発展に顕著な業績を挙げたと認められる者を対象とし、各種刊行物に発表された論文、設計・施行・計画・考案などの報告の中から選ばれる。受賞候補者は本会会員の個人とする。

（2）論文部門：土木学会の刊行物に発表されたコンクリートに関する論文、報告等の中から選ばれる。受賞候補者は本会会員の個人またはその複数とする。

（田中賞）

第 7 条 田中賞は、次の 3 部門に分けて授与する。

（1）研究業績部門

橋梁に関する技術の進歩、発展に顕著な業績を挙げたと認められる者を対象とする。受賞候補者は本会会員の個人とする。

（2）論文部門

土木学会刊行物に発表された論文、報告の中で、計画、設計、製作・施行、維持管理、考案、歴史などに関連して橋梁工学の発展に大きく貢献したと認められる論文を対象とする。受賞候補者は本会会員で、個人またはその複数とする。

（3）作品部門

橋梁およびそれに類する構造物で、計画、設計、製作、施行などの面において特色を有する作品を対象とする。対象となるのは原則として 1 作品とする。なお、規模の大小を問わない。

（技術開発賞）

第 8 条 技術開発賞は設計、施工または維持管理等において創意工夫に富むと認められる技術を開発、実用化し、土木技術の発展を通じて、社会に貢献したと認められる者に授与する。

（出版文化賞）

第 9 条 出版文化賞は、土木に関連する出版物で、土木工学・土木技術の発展に貢献し、あるいは読者に感銘を与えることにより、土木文化活動の一環となりうると認められた出版物の著者を対象とする。

（国際貢献賞）

第 10 条 国際貢献賞は海外において土木工学の進歩発展あるいは社会資本整備に貢献し、現地で高く評価された日本人、並びに日本の土木工学の発展に貢献したと認められた外国人に授与する。

（技術功労賞）

第 11 条 技術功労賞は本会会員であって、地道な実務の積み

重ねを通じて土木工学の進歩発展に功労があった者に授与する。

(委員会)

第12条 土木学会賞を選考するため次の委員会をおく。

1. 表彰委員会
2. 論文賞選考委員会
3. 吉田賞選考委員会
4. 田中賞選考委員会
5. 技術開発賞選考委員会
6. 出版文化賞選考委員会
7. 国際貢献賞選考委員会
8. 技術功労賞選考委員会

(2) 表彰委員会は、功績賞および技術賞の受賞候補の選考をなし、論文賞、吉田賞、田中賞、技術開発賞、出版文化賞、国際貢献賞および技術功労賞各選考委員会の具申を受けて、必要に応じて各賞間の調整を行い、土木学会賞受賞候補を決定する。

(3) 論文賞選考委員会は、論文賞候補の選考を行う。

(4) 吉田賞選考委員会は、吉田賞候補の選考を行う。

(5) 田中賞選考委員会は、田中賞候補の選考を行う。

(6) 技術開発賞選考委員会は、技術開発賞候補の選考を行う。

(7) 出版文化賞選考委員会は、出版文化賞候補の選考を行う。

(8) 国際貢献賞選考委員会は、国際貢献賞候補の選考を行う。

(9) 技術功労賞選考委員会は、技術功労賞候補の選考を行う。

(10) 前記各委員会の構成、運営、その他については、別に内規で定める。

(報告)

第12条の2 専務理事は、前条に規定する各委員会の構成等について、理事会に報告しなければならない。

(賞の決定、表彰の時期・方法)

第13条 土木学会賞は理事会において決定し、表彰は原則として毎年1回通常総会において賞牌・賞状等を授与して行う。

ただし、国際貢献賞および技術功労賞の表彰は隔年に行う。

附 則

この規程は、理事会の議決により変更することができる。

附 則 (昭和53年5月12日 理事会議決)

この変更規程は、昭和53年5月12日から施行する。

附 則 (昭和57年4月27日 理事会議決)

この変更規程は、昭和57年4月27日から施行する。

附 則 (昭和58年9月21日 理事会議決)

この変更規程は、昭和58年9月21日から施行する。

附 則 (昭和59年11月22日 理事会議決)

この変更規程(第5条)は、昭和60年度から施行する。

附 則 (昭和60年9月27日 理事会議決)

この変更規程は、昭和60年9月27日から施行する。

附 則 (昭和61年9月26日 理事会議決)

この変更規程は、昭和61年9月26日から施行する。

附 則 (平成元年9月22日 理事会議決)

この変更規程は、平成元年9月22日から施行する。

附 則 (平成2年9月28日 理事会議決)

この変更規程は、平成2年9月28日から施行する。

附 則 (平成3年9月27日 理事会議決)

この変更規程は、平成3年9月27日から施行する。

付 則 (平成5年11月26日 理事会議決)

この変更規程(第2条、第7条、第10条、第11条、第12条および第13条)は、平成5年度から施行する。

9.10 土木図書館規程

昭和38年10月14日	理事会	昭和54年1月26日	一部改正
◇ 48年7月27日	一部改正	◇ 63年4月22日	◇
◇ 50年3月8日	◇	平成2年11月30日	◇
◇ 51年7月23日	◇	◇ 4年5月8日	◇
◇ 53年5月12日	◇	◇ 5年5月14日	◇

(総 則)

第1条 土木図書館(以下図書館という)は、土木工学、土木技術に関する図書、文献、資料等を招集、処理、保存して、本会会員および一般の利用に供することを目的とする。

第2条 図書館の運営については、この規程の定めるところによる。

第3条 図書館は、第1条に規定する目的を達するに必要な事項を処理する。

(館 長)

第4条 図書館に館長を置き、会長がその任にあたる。

② 館長は、図書館を代表し、理事会の議を経て館務を総括する。

(副館長)

第5条 図書館に副館長を置き、専務理事がその任にあたる。

② 副館長は、館長を補佐し日常の館務を処理する。

(図書館職員)

第6条 図書館に司書その他必要な職員を置く。

② 職員は土木学会職員とする。

(開館日)

第7条 図書館は、次の各号に掲げる日を除き、毎日開館する。ただし、やむを得ない事情があるときは、臨時に休館することがある。

1. 土曜日
2. 日曜日
3. 国民の祝日
4. 国民の祝日が日曜日にあたるときのその翌日
5. 年末年始(12月25日から1月5日まで)
6. 毎月第2水曜日(ただし、当日が国民の祝日にあたるときは、その翌日)

(利用者)

第8条 図書を閲覧しようとするものは、本会発行の閲覧証を所持する者および特に館長の許可を得た者に限る。

(閲覧証)

第9条 閲覧証は、利用者の申請によって、つぎの者に交付する。

1. 本会会員
 2. 館長の承認を得、土木図書館利用規程に定める利用料を納付した者
- ② 閲覧証の有効期間は、別に利用規程に定める。

(利用規程)

第10条 図書館利用の細目は、土木図書館利用規程に定める。

附 則

1. この規程は、昭和40年1月から施行する。
2. この規程は、理事会の承認を得て、変更することができる。

附 則 (昭和48年7月27日 理事会議決)

この変更規程は、昭和48年7月27日から施行する。

附 則 (昭和50年3月28日 理事会議決)

この変更規程は、昭和50年3月28日から施行する。

附 則 (昭和51年7月23日 理事会議決)

この変更規程は、昭和51年9月1日から施行する。

附 則 (昭和53年5月12日 理事会議決)

この変更規程は、昭和53年5月12日から施行する。

附 則 (昭和54年1月26日 理事会議決)

この変更規程は、昭和54年4月1日から施行する。

附 則 (昭和63年4月22日 理事会議決)

この変更規程は、昭和63年6月1日から施行する。

附 則 (平成2年11月30日 理事会議決)

この変更規程は、平成2年11月30日から施行する。

附 則 (平成4年5月8日 理事会議決)

この変更規程は、平成4年6月1日から施行する。

附 則 (平成5年5月14日 理事会議決)

この変更規程は、平成5年6月1日から施行する。

(1) 土木図書館利用規程

昭和39年10月14日	理 事 会
〃 48年7月27日	一部改正
〃 50年3月28日	〃
〃 53年5月12日	〃
〃 63年4月22日	〃
平成4年5月8日	〃

(総 則)

第 1 条 この規程は、土木図書館規程（以下規程という）第10条に基づいて、図書館利用についての細目を定めるものである。

(閲覧証の交付)

第 2 条 図書館を利用しようとする者は、受付において所定の申請書に利用料を添え閲覧証の交付を受けなければならない。ただし、本会会員については、利用料を免除する。

② 特に館長の許可を得た者および職務上の必要によって閲覧する本会職員はこの限りではない。

(利用料)

第 3 条 規程第9条に定める利用料は、つぎのとおりとする。
1日 200円

(閲覧証の有効期間)

第 4 条 規程第9条第2項にいう閲覧証の有効期間は、つぎのとおりとする。

1. 会員閲覧証 発行した日の属する会計年度の末日まで
2. 当日閲覧証 発行した当日限り

第 5 条 閲覧者は閲覧証を図書の出借係に提出し、これと引換えに図書の貸し出しを受けるものとする。

② 閲覧者は、閉館時刻時に必ず貸し出しを受けた図書を出借係へ返納し、閲覧証の返還を受ける。

③ 閲覧者は、退館の際、閲覧証を受付に提出しその保管を受けるものとする。

(図書の持出し禁止)

第 6 条 図書の館外持出しは禁止する。

(損害の弁償)

第 7 条 図書、設備、備品等を汚損、毀損または紛失して図書館に損害を与えたときは、弁償しなくてはならない。

(閲覧時間)

第 8 条 図書館の利用は、つぎの時間とする。ただし、やむを得ない場合は臨時に変更することがある。

午前9時30分から午後5時まで

(複 写)

第 9 条 図書の複写は、すべて実費を添えて所定の申込書によって申し込むものとする。

(閲覧者の心得)

第 10 条 閲覧者は、別に定める「閲覧者心得」に従わなければならない。

② 規程およびこの利用規程に従わない者に対しては、退館を求め、館長はこの者の閲覧証の行使を停止することができる。

附 則

この規程は、理事会の承認を得て、変更することができる。

附 則 (昭和48年7月27日 理事会議決)

この変更規程は、昭和48年8月1日から施行する。

附 則 (昭和50年3月28日 理事会議決)

この変更規程は、昭和50年3月28日から施行する。

附 則 (昭和53年5月12日 理事会議決)

この変更規程は、昭和53年5月12日から施行する。

附 則 (昭和63年4月22日 理事会議決)

この変更規程は、昭和63年6月1日から施行する。

附 則 (平成4年5月8日 理事会議決)

この変更規程は、平成4年6月1日から施行する。

(2) 土木図書館フィルムライブラリー フィルム貸出規程

昭和40年12月17日	理 事 会
〃 53年5月12日	一部改正

1. 貸出を希望される方は所定の申込書（様式1）を土木図書館あてに提出して、館の承認を受けていただきます。
2. 貸出に当っては所定の借用書（様式2）を土木図書館あて提出していただきます。
3. 1回に貸出するフィルムは原則として3種類以内とします。
4. 貸出の期間は原則として3日以内とします。ただし、遠隔地による特別の事情がある場合は別途考慮します。
なお、貸出の期間にはフィルムをお渡しする日およびフィルムをお返しいただく日を算入します。
5. フィルム保存のため別に定める維持費をいただきます。
6. 輸送機関に委託して貸出する場合の諸掛り（荷造料、保険料、送料など）については、原則として往復路とも借受者側の負担とします。
なお、発送は原則として航空便の着払いといたします。
7. 貸出フィルムを損傷したり紛失した場合には、フィルムの補修費または新フィルム購入のための実費をいただきます。
8. フィルムを利用された方は返納の際必ず上映報告書（様式3）をご提出下さい。

附 則

この規程は、理事会の承認を得て、変更することができる。

附 則 (昭和53年5月12日 理事会議決)

この変更規程は、昭和53年5月12日から施行する。

9.11 委託研究取扱規程

昭和45年7月24日	理 事 会	昭和51年2月27日	一部改正
昭和46年8月27日	一部改正	平成6年3月18日	〃

(総 則)

第 1 条 土木学会が、部外からの委託申し出によって、研究、調査、試験等（以下「委託研究」という）を受託する場合は、この規程に準拠するものとする。

(委託研究の要件)

第 2 条 委託研究は、土木工学および土木技術の進展に寄与し、かつ、高度の学識経験を要すると認められるものでなければならない。

(受託の諾否)

第 3 条 委託研究受託の諾否は、理事会で決める。ただし、軽微なものについては、会長が決めることができる。

(契 約)

第 4 条 委託研究を受託したときは、委託契約書を作成し、委託者、受託者おのおのその1通を保有するものとする。

② 契約書には、つぎの事項を記載しなければならない。

1. 委託研究の名称

2. 委託研究の目的および細目
3. 委託研究の実施期間
4. 委託研究に要する予定経費
5. 前号の経費の支払条件および精算に関する事項
6. 契約の変更にに関する事項
7. 報告書に関する事項
8. その他必要と認める事項

(委員会)

第5条 本会は、委託研究を処理するため、必要に応じて、特別委員会等を設ける。

(受託費)

第6条 委託研究に要する予定経費(以下「受託費」という)は、これをわけて直接費と管理費とする。

直接費とは委託研究のために直接必要とする経費をいい、管理費とは、人件費、借地料、減価償却費、光熱水道費、通信費、事務用品等で、事務局の一般経費と区分が困難な経費をいう。

② 直接費のうち、謝金、旅費、交通費等は、別に定める基準による。

(管理費)

③ 管理費は、受託費の20%とし、入金のとど納入する。ただし、委託者に管理費について別に定めのある場合は、両者協議のうえ決定するものとする。

(成果)

第7条 委託研究が完了したとき、または中間において必要が生じたときは、成果を委託者に提出するものとする。

② 成果を公表する場合は、予め委託者と協議するものとする。

(前納金)

第8条 受託費は、原則として一括または分割、前納とする。

(精算)

第9条 委託研究が完了し、第7条による成果を提出したときは、すみやかに前納金の精算を行うものとする。

(帳簿)

第10条 本会は、委託研究ごとに帳簿を備え付け、受託、契約等の年月日および受託費納入の年月日、金額、その他必要事項を記録するものとする。

附則

第1 この規程は、昭和45年8月1日から施行する。

第2 この規程は、理事会で変更することができる。

附則(昭和46年8月27日 理事会議決)

この変更規程は、昭和46年8月27日から施行する。

附則(昭和51年2月27日 理事会議決)

この変更規程は、昭和51年4月1日から施行する。

附則(平成6年3月18日 理事会議決)

この変更規程は、平成6年4月1日から施行する。

委託研究費のうち謝金等算出基準

項目	名称	単位	単価(円)	摘要
謝金	委員長	人・回	5,000以上	
	委員・幹事	人・回	4,000以上	
交通費	都内及近地(50km以内)	人・回	1,500	日当を含む
旅費	50km以上	式	実費	会議・委員会等の旅費規程に準ずる
原稿料	原稿料	枚	600	400字詰

注：委託者側の職員または幹事として委派した場合は、その者の謝金、交通費、旅費については、上表を適用しない。

9.12 会議、委員会等の旅費規程

昭和48年8月24日	理事会	昭和57年3月24日	◇
◇ 51年2月27日	一部改正	平成4年3月19日	◇
◇ 53年7月28日	一部改正	◇ 6年3月18日	◇

(適用範囲)

第1条 本会の役員、委員等が、本会の会議、委員会(委託の場合を除く)等のため国内を旅行する場合の旅費については、原則として、この規程による。

(旅費の種類)

第2条 旅費の種類は、鉄道賃、船賃、日当および宿泊料とする。

2. 鉄道賃は、旅客運賃のほか、急行料金およびグリーン料金とする。

3. 船賃は、旅客運賃のほか、グリーン料金とする。

(旅費の支給)

第3条 旅客運賃は、順路により、路程に応じて支給する。

2. 日当、宿泊料およびグリーン料金は、支給を受ける者の区分により、別表-1に定めるところにより支給する。

3. 急行料金は、急行列車を運行する路線による旅行で次の各号の1に該当する場合に支給する。

(1) 普通急行料金 片道100kmをこえるとき

(2) 特別急行料金(次号の場合を除く)

片道300km以上のとき

(3) 新幹線特別急行料金 片道150km以上のとき

(近地交通費)

第4条 片道100km以内の近地に旅行する場合は、前2条に規定する旅費に代え、別表-2に定めるところにより、近地交通費を支給する。

別表-1 会議、委員会等の旅費

区分	日当	宿泊料		グリーン料金	備考
		一般	車船中		
会長、副会長	1,800	9,000	6,000	支給	
理事、監事	1,800	9,000	6,000		
評議員	1,800	9,000	6,000		
支部長、支部幹事長	1,800	9,000	6,000		
委員会の委員、幹事		9,000	6,000		

別表-2 会議、委員会等の近地交通費

理事会、評議員会、委員会等	備考
無し (30kmまでの場合)	1 開催地である東京都区内またはその他の市内は、一律に「30kmまでの場合」とみなす。 2 会議が深夜にわたったため特別の交通機関を利用した場合は、その料金を支給する。
実費 { (45kmまでの場合) (70kmまでの場合) (100kmまでの場合)	

(注) 距離の算定は、勤務先または住所のうち近い距離をとるものとする。

附則

1. この規程は、昭和48年9月1日から実施する。

2. この規程は、理事会で変更することができる。

附則(昭和51年2月27日 理事会議決)

この変更規程は、昭和51年4月1日から施行する。

附則(昭和53年7月28日 理事会議決)

この変更規程は、昭和53年7月8日から適用する。

附 則 (昭和 57 年 3 月 24 日 理事会議決)

この変更規程は、昭和 57 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 4 年 3 月 19 日 理事会議決)

この変更規程は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 6 年 3 月 18 日 理事会議決)

この変更規程は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

9.13 選定映画制度等に関する規程

[昭和 40 年 5 月 27 日 理事会]
[昭和 53 年 5 月 12 日 一部改正]

(目的)

第 1 条 この規程は、土木工学に関して作られた映画が、有効かつ適切に利用されるように選定映画を決めること、および映画コンクールを実施することについて規定し、もって土木学会定款第 2 章 (目的および事業) の趣旨達成に資することを目的とする。

(選定映画の決定)

第 2 条 選定映画の決定は、視聴覚教育委員会が行う。

(選定映画の取扱い)

第 3 条 選定された映画については、利用者の便をはかるため、委員会が利用指針を作成する。利用指針は、土木学会誌へ掲載する。

(選定の取消し)

第 4 条 選定された映画に関して、他の著作権、特許権の侵害等にふれた場合は選定を取り消す。

(映画コンクールの実施)

第 5 条 映画コンクールは、原則として 2 年に 1 回実施するものとし、その細目については土木学会誌等をもって公告する。

(映画コンクール入賞作品の決定)

第 6 条 映画コンクール入賞作品の決定は、映画審査委員会の議を経て、理事会が行う。

附 則

この規程は、理事会の承認を得て、変更することができる。

附 則 (昭和 53 年 5 月 12 日 理事会議決)

この変更内規は、昭和 53 年 5 月 12 日から施行する。

9.14 出版規程

[昭和 45 年 11 月 27 日 理事会 昭和 47 年 12 月 20 日 一部改正]
[昭和 53 年 5 月 12 日 一部改正 昭和 60 年 9 月 27 日 一部変更]

(総 則)

第 1 条 この規程は、土木学会の出版物の出版に関する事項について定める。

(出版物)

第 2 条 この規程において出版物とは、土木工学および土木技術の進展に寄与する著作物をいう。

(出版委員会)

第 3 条 本会に、出版物の企画・調整および管理を目的とした出版委員会を設ける。

第 4 条 本会の出版物については、出版委員会の議を経て、理事会の承認を得るものとする。

ただし、研究発表会要集など特定者を対象として頒布するものおよび軽微なものについては、この限りでない。

第 5 条 出版委員会は、その運営にあたり、常に出版の採算性について考慮を払わねばならない。

(著作権の行使)

第 6 条 土木学会誌、土木学会論文集はじめ、学会が編集・出版した著作物の著作権の行使は、これを学会に委任するものとする。

② 当該著作者自身が自らこれを行使する場合は、これを妨げない。ただしこの場合、著作者はその行使を学会へ連絡

し、承認を得るものとする。

(複製権)

第 7 条 委員会等の研究成果または本会の委嘱により著作した著作物を複製する権利 (出版権を含め複製権という。以下同じ) は、本会に属するものとする。ただし、委託研究によるものについては、この限りではない。

(出版権および複製権の譲渡)

第 8 条 本会が出版権を特定の出版社に設定する場合および複製権の使用を他社に許諾する場合は、本会と当該出版社との間に出版契約または複製契約を締結するものとする。

(報酬)

第 9 条 出版物の著作、校閲、監修などで著作物の完成に寄与した者に対しては、別に定める内規によつて報酬を支払うものとする。

(合著者の代表)

第 10 条 2 人以上の合著作の場合の著作物の著作者は、その代表者を選出するものとし、その代表者は、当該著作者の著作権の行使につき著作者を代表するものとする。

(著作者の責任)

第 11 条 著作者は、自己の著作物に対して責任を負うものとし、著作物の内容に関し、他の著作権の侵害、名誉毀損等を生じたときは、著作者の責任とする。

(頒 価)

第 12 条 出版物の頒価は、原則として次による。

1. 定 価：印刷製本費、編集経費、報酬、一般管理費 (印刷製本費および編集経費の合計額の 70% を標準とする額) 等の総支出に対して、3 年間の販売予定部数を勘案して決める。
2. 会 員 特 価：定価の 85% を基準とした価格
3. 教 材 特 価：学校が教材として 20 部以上一括して購入した場合、定価の 85% を基準とした価格
4. その他の価格：予約出版または特売期間の特別の価格

(頒価の変更)

第 13 条 出版後 3 年以上を経過した出版物については、出版委員会を承認を得て頒価を改訂することができる。

(複製権の使用に関する許諾)

第 14 条 本会が複製権を有する出版物の一部の使用につき、外部から許諾を求められたときは、事務局長が、当該出版物の著作者と協議のうえその諾否を決める。

② 前項により許諾をする場合、その使用が収益を伴うと認められたときは、使用者に対して適当な対価を請求する。

(改訂・廃版)

第 15 条 出版物を改訂あるいは廃版する場合は、その可否について著作者の意見を聞くものとする。

(監修出版物)

第 16 条 本会が監修する出版物については、第 2 条、第 4 条および第 11 条を準用し、本会と当該出版社との間に監修に関する契約を締結するものとする。

(契約当事者)

第 16 条の 2 第 8 条および前条に規程する契約における本会の契約当事者は、原則として会長とする。

(頒布報告)

第 16 条の 3 事務局長は、理事会に出版物の頒布状況について、報告しなければならない。

(規程外の事項)

第 17 条 この規程に定めのない事項またはこの規程に疑義を生じた事項については、本会と関係者が協議のうえ定める。

附 則

1 この規程は、昭和 45 年 12 月 1 日から施行する。

2 この規程は、理事会の承認を得て、変更することができる。

附 則 (昭和47年12月20日 理事会議決)

この変更規程は、昭和48年3月1日から施行する。

附 則 (昭和53年5月12日 理事会議決)

この変更規程は、昭和53年5月12日から施行する。

附 則 (昭和60年9月27日 理事会議決)

この変更規程は、昭和60年9月27日から施行する。

9.15 経理規程

[昭和48年11月21日 理事会 昭和53年9月29日 一部変更]
[昭和53年9月29日 一部変更]

第1章 総 則

(目的)

第1条 この規程は、社団法人土木学会（以下学会という）の財政および事業を、正確かつ明瞭に把握し、財政の健全化と運営能率の増進をはかることを目的とする。

(経理事務の任務)

第2条 学会の経理事務は、この規程の定めるところにより、また定めのないものについては一般に公正妥当と認められる会計基準により、複式簿記によってすべての取引（資産、負債、利益、損失の増減）を正確に処理しなければならない。

(会計年度)

第3条 学会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。（定款第37条）

(規程の変更)

第4条 この規程を変更しようとするときは、理事会の議を経なければならない。

(細 則)

第5条 この規程の実施に必要な細則は別に定めるものとする。

第2章 会計区分

(会計区分)

第6条 学会の会計区分は、次のとおりとする。

1. 普通会計
2. 出版会計
3. 委託研究会計
4. 特別会計（その目的ごとに区分する）

第3章 帳簿・勘定科目・伝票

(帳 簿)

第7条 学会の経理事務を処理するための会計帳簿は、次のとおりとする。

1. 現金出納帳
2. 金銭勘定総合日計帳
3. 総勘定元帳
4. 各勘定内訳帳（補助簿）
5. 銀行勘定帳
6. 固定資産台帳（カード式）

(勘定科目)

第8条 勘定科目およびその分類は、細則に定めるところによる。

(会計伝票)

第9条 金銭の収入・支出は会計伝票によって処理し、会計帳簿の記帳は会計伝票から転記して行う。

② 会計伝票には、取引の正当、計算の正確なことを証する証憑書類を添付するものとする。

(帳簿・伝票の保存)

第10条 会計帳簿・会計伝票および証憑書類は10年間保存しなければならない。（商法第36条）

第4章 金銭会計

(金銭の範囲)

第11条 この規程で金銭とは、通貨、預金、小切手、郵便為替証書、郵便振替証書、郵便切手、国庫金支払通知書等を行う。

② 手形、有価証券、ユネスコクーポン券、外国銀行小切手、外国通貨等は金銭に準じて取扱う。

(金銭出納・保管等)

第12条 金銭の出納保管は経理課出納担当者が行い、経理課長が統括する。

② 金銭の出納保管は、厳正かつ確実に行うものとし、その在高は常に当該帳簿と照合しなければならない。

③ 有価証券の取得および処分は、原則として理事会の承認を得て行うものとする。

(金銭機関との取引)

第13条 銀行その他の金融機関との取引の開始および廃止は、専務理事の承認を得て行うものとし、取引名義人は専務理事、その代理人は事務局長とする。

(取 入)

第14条 金銭を収入したとき、または銀行から入金通知があったときは、会計伝票および所定の領収書を発行するものとする。ただし、銀行振込、郵便振替、現金書留送金等の場合は領収書の発行を省略することができる。

② 郵便振替受払通知票による収入、支出の記帳は、当該月分をまとめて当該月末日附で行うことができる。

(支 払)

第15条 金銭支払いに際しては、証憑書類を確認し、会計伝票に基づいて、適正な領収書と引換えに正当な受領者に支払わねばならない。

② 遠隔地への支払いには、金銭機関（銀行・郵便局）の証憑書類を領収書として処理することができる。

(小切手の発行)

第16条 小切手の発行は、事務局長の承認を得て経理課長が行う。

(仮 払)

第17条 緊急に必要な場合は、仮払を行うことができる。この場合、当該仮払請求者は、仮払領収書に金額、内容を明記し、所属課長および経理課長の認印を受けなければならない。ただし、第2項に規定する旅費の場合を除き、1件10万円を超え100万円未満の場合は予め事務局長の、1件100万円以上の場合は予め専務理事の、それぞれ承認を受けるものとする。

② 委員会および会議等の出席者に支払う旅費は、事前に「委員会および会議出席者旅費支出計算書」に内容を明記し、所属課長および経理課長の認印を得て、仮払を行うものとする。

③ 仮払金の精算は、事後すみやかに行わなければならない。

(立替金等)

第17条の2 土木学会以外の機関との共催等に係る行事の費用の一部にあてるために、当該機関から立替金等の支出の要請があった場合は、理事会の承認を受けて立替金等の支出を行うことができる。

第5章 固定資産会計

(固定資産の範囲)

第18条 固定資産とは、不動産、その他の有形固定資産および無形固定資産をいう。

② 不動産とは、土地および建物、構築物ならびに建設中のこれらのものをいう。

③ その他の有形固定資産とは、機械装置、車両運搬具、工具器具、備品等であって、耐用年数1年以上であつて取得額が税法決定額以上のものをいう。

④ 無形固定資産とは、特許権、実用新案権、借地権、電話

加入権等で有償で取得したものをいう。

(固定資産の取得)

第 19 条 不動産および 1 件 100 万円以上のその他の固定資産の取得は理事会、その他のものは専務理事の承認を得て行うものとする。

(固定資産の取得価額)

第 20 条 固定資産の取得価額は、購入代価のほか掘付費その他その固定資産をその用途に供するために直接要した一切の費用を含むものとする。

② 改良により、その固定資産の価額を増加させ、または耐用年数を延長させる費用は、取得価額に加算するものとする。ただし、維持復元の修理費は経費とする。

③ 寄贈により取得した固定資産は、適正な評価額をもって取得価額とする。

(建設仮勘定)

第 21 条 固定資産のうち、建設中のものは、建設仮勘定をもって処理し、建設が完了したとき、それぞれの固定資産の勘定に組み入れなければならない。

(固定資産の記録)

第 22 条 経理課長は、固定資産台帳を備えて、固定資産の記録を行わなければならない。

(減価償却)

第 23 条 固定資産については、毎期、定額法によって減価償却を行わなければならない。

② 耐用年数は大蔵省令の定めるところによる。

(固定資産の処分)

第 24 条 不動産の処分については、理事会の議決を得なければならない。

② その他の有形固定資産および無形固定資産の処分については、専務理事の承認を得て行うものとする。

第 6 章 予 算

(予算の目的)

第 25 条 予算は、当該会計年度における事業活動の範囲、内容をきめ、事業の適正かつ能率的な運営に資することを目的とする。

(予算の手続)

第 26 条 予算は、理事会において編成し、評議員会の議決を得て決定するものとする。(定款第 28 条および規則第 36 条)

(予算の種類)

第 27 条 予算の種類は、次のとおりとする。

1. 普通会計予算
2. 出版会計予算
3. 委託研究会計予算
4. 特別会計予算(その目的ごとに区分する)

(予算原案の作成)

第 28 条 予算原案の作成は、理事会の指示により、事務局が行う。

(予算の執行)

第 29 条 予算の執行は、専務理事の統括のもとに、事務局が行う。

第 6 章の 2 契 約

(契 約)

第 29 条の 2 事務局長は、予算の範囲内において、経常的な事項に係る購入、工事、役務等について、部外者と契約することができる。

2. 前項の経常的な事項の範囲については、別に定める。
3. 事務局長は、その権限に属する事項以外の部外者との契約については、別に定めのある場合を除き、予め専務理事の承認を得なければならない。

第 7 章 収支報告

(月次収支報告)

第 30 条 事務局長は、第 6 条に定める会計区分ごとに、専務理事に毎月の収支状況を報告するとともに、月次収支報告書を作成して理事会に提出しなければならない。

第 8 章 決 算

(決算の目的)

第 31 条 決算は、当該年度の事業成績と、年度末現在の財政状態を明らかにすることを目的とする。

(決算の手続)

第 32 条 理事会は、毎会計年度終了後、すみやかに決算を行い、細則の定めるところにしたがって財務諸表を作成し、監事の監査を受け、評議員会の議を経て総会の承認を受けなければならない。

第 9 章 税 務

(税務の処理)

第 33 条 税務の処理については、細則の定めるところにより行う。

附 則

この規程は、昭和 48 年 11 月 21 日から施行する。

附 則 (昭和 53 年 5 月 12 日 理事会議決)

この変更規程は、昭和 53 年 5 月 12 日から施行する。

附 則 (昭和 53 年 9 月 29 日 理事会議決)

この変更規程は、昭和 53 年 9 月 29 日から施行する。

9.16 土木振興基金規程

[昭和 57 年 11 月 26 日 理事会]

第 1 条 名称は「土木振興基金」(以下「基金」という)と称し、社団法人土木学会事務局内に置く。

第 2 条 この基金は、土木学会賞の充実、学術の奨励等有意義な事業を行い、もって土木振興の実を上げることが目的とする。

第 3 条 この基金は、本会会員および関係者の寄附をもって充当する。

② この基金に組み入れる寄附金の額は、原則として 30 万円以上とする。ただし、この場合、寄附者の意志を尊重したうえで組み入れるものとする。

第 4 条 この基金は、その果実をもって、主として学会賞および学術奨励等の経費に充てる。

第 5 条 この基金の運用について必要に応じ内規を定めることができる。

第 6 条 この基金は、特別会計とし、銀行等に預金する。

② この基金の管理は、会長が行う。

附 則：この規程は、理事会の承認を得て、変更することができる。

9.17 フェロー制度に関する規程

[平成 6 年 3 月 18 日 理事会]

(目 的)

第 1 条 見識に優れ、責任ある立場で、長年にわたり指導的役割を果たしてきた正会員に対し、フェローの称号を認め、もって学会の一層の活性化をはかり、あわせて会員の国際的活動等をより円滑にすることを目的とする。

(申請資格)

第 2 条 フェロー申請の資格は、原則として、次の各号のすべてに該当する者とする。ただし、土木学会長が特に必要と認め推薦する場合はこの限りではない。

- (1) 土木分野において責任ある立場で活躍してきた者
- (2) 正会員としての経歴が 15 年以上の者
- (3) 40 歳以上の者

(審 査)

第 3 条 フェローを選考するために、フェロー審査委員会を置く。フェロー審査委員会は、本人の申請または土木学会長

の推薦に基づいて審査し、その結果を理事会に報告する。
(認定)

ローを認定し、土木学会フェロー認定証を交付する。
附 則

第 4 条 理事会は、フェロー審査委員会の報告を受けてフェ

この規程は、理事会の承認によって変更することができる。

9.18 全国大会主要行事一覧

注：総合講演・研究討論会テーマなどは 9.19 参照のこと

年度・支部	開催場所	開催期日	特別講演題目・講演者など	年講演回数・題数	懇親会場	その他の特別行事・備考
昭 43 中 部 (1968)	名古屋大	10.11~13	・わが国の水問題について 石原藤次郎* ・エネルギーの長期展望と動力炉の開発 井上 五郎 ・未来学の意義と方法 林 雄二郎 (部門講演 4, 見学 5, 映画 17)	第 23 回 755 題	豊田ビル	●市民対象●「RP 講演会」都市計画の問題点(杉戸 清)国民生活と土木(鈴木雅次)[中電ホール]
昭 44 関 東 (1969)	砂防、麴町、都市センター等 5 会場	9.26~28	・土木技術者の使命 柳沢 米吉* ・地中における地震動 岡本 舜三 ・建設機械化の推移と今後の動向 伊丹 康夫 (部門講演 4, 見学 3, 映画 7)	第 24 回 593 題	ホテル・ニュージャパン	学園紛争のため大学が使用できず民間 5 会場で分散開催。
昭 45 関 西 (1970)	日生研修センター・科学技術センター(大阪)	11.6~8	・東海道新幹線が生れるまで 大石 重成* ・古代の土木 坪井 清足 ・土木と環境変革 小松 左京 (研究討論 2, 見学 8, 映画 30)	第 25 回 785 題	新大阪ホテル	●市民対象●「PR 展示会」(科学技術センター 8 F), 学園紛争のため大学が使用できず民間 2 会場で分散開催, V 部門新設, 半日コースの現場見学会新設
昭 46 東 北 (1971)	東北工大	10.1~3	・道路の歴史と展望 高野 務* ・日本史上の東と西 高橋 富雄 ・人類と文明 今西 錦司 (研究討論 10, 見学 3, 映画 28)	第 26 回 849 題	仙台グラウンドホテル	
昭 47 西 部 (1972)	九州大	10.20~22	・耐震工学の現況 岡本 舜三* ・九州経済の動向 浜 正雄 ・筑紫路の太宰府 筑紫 豊 (研究討論 8, 見学 2, 映画 30)	第 27 回 1 026 題	西鉄グラウンドホテル	講演数 1 000 題を突破
昭 48 北 海 道 (1973)	自治会館 北海道大	10.1~3	・建設産業の海外進出 飯田房太郎* ・北海道開発の現状と将来展望 堂垣内尚弘 ・生命の凍結 朝比奈三郎 (研究討論 7, 見学会中止, 映画 24)	第 28 回 1 029 題	札幌ビール園	年講の実施要領の大幅な変更を実施(申込料, 連名制限, 頁数制限, 追加料など). 特別講演会場をクラーク会館から前々日に自治会館に変更(知事特別講演妨害対策のため)
昭 49 中国四国 (1974)	広島工大	10.8~10	・鉄道の社会的使命と土木技術発展への役割 瀧山 養* ・建設業の今後 小山内了介 ・安芸の宮島 野坂 元定 (研究討論 8, 見学 1, 映画 27)	第 29 回 1 165 題	羽田別荘	
昭 50 中 部 (1975)	名古屋工大	10.16~18	・公共工事の最近の諸問題について 尾之内由紀夫* ・サルとヒトのあいだ 近藤 次郎 ・正倉院三彩とガラスの話 山崎 一郎 (部門・研究討論 7, 見学 1, 映画 25)	第 30 回 1 253 題	名古屋市公会堂	特別講演者 小山富士夫氏(日本のやきもの)急逝のため山崎一郎氏に急きょ変更
昭 51 関 東 (1976)	東京工大	10.8~10	・学校における土木技術者教育 最上 武雄* ・お雇い外国人と日本の土木技術 村松貞次郎 (部門・研究討論 7, 見学 1, 映画 21)	第 31 回 1 286 題	東工大新職員食堂	開催地支部による年講プログラム編成が行きつまり本年度より行事企画委員会で編成。会場で年講に関するアンケートを実施。座長制を採用。
昭 52 関 西 (1977)	神戸大	10.14~16	・電力の現状と土木技術の課題 水越 達雄* ・言語と脳 須田 勇 (部門・研究討論 10, 見学 2, 映画 16)	第 32 回 1 448 題	東 明 閣	IV 部門の研究討論会「都市づくりと文化開発」に里井達三良, 末次摂子, 山崎正和氏らの文化人に話題提供を依頼(初)

昭53 東北 (1978)	東北学院大	9.19~21	・鉄道の使命と運営について 仁杉 巖* ・東北の古代文化 伊東 信雄 ・最近の地震学からみた入力地震波の予測 鈴木 次郎 (部門・研究討論7, 見学2, 映画26)	第33回 1532題	仙台ホテル	
昭54 西部 (1979)	九州大	10.16~18	・コンクリート技術における省エネルギーおよび省資源 国分 正胤* ・考古学上よりみた九州の古代文化 岡崎 敬 (部門・研究討論6, 見学2, 映画24)	第34回 1386題	西鉄グランドホテル	
昭55 北海道 (1980)	自治会館 北海道大	9.13~15	・高速道路と地域開発 高橋国一郎* ・流水の話 田畑 忠司 (部門・研究討論7, 見学2, 映画23)	第35回 1499題	サッポロビール園	Energy and the Sea (Le Méhauté) 始めて外人講師による部門講演が行われる。
昭56 中国四国 (1981)	中国新聞社 広島大	10.6~8	・日本の総合交通体系 八十島義之助* ・古代シュメール文明のはなし 吉川 守 (研究討論6, 見学2, 映画21)	第36回 1667題	新八丁堀会館	日本土木史研究委員会主催「戦前における土木の名著100選」展示会。年講のあり方を討論し問題点を公表, 部門別講演を廃止, 研究討論会一本となる。
昭57 中部 (1982)	名古屋大	10.12~14	・水力発電と海外技術協力 野瀬 正儀* ・これからの日本経済 飯田 経夫 (研究討論7, 見学2, 映画24)	第37回 1641題	郵便貯金会館	年講に座長・副座長制度を導入, 講演方法も改善。
昭58 関東 (1983)	関東学院大 (横浜)	9.28~30	・鉄道高速化のゆくえ 高橋 浩二* ・アメリカにおける土木工事の失敗例 John. Wiedeman ・歴史の中の自然 司馬遼太郎 (研究討論7, 見学3, 映画25)	第38回 1651題	ホテル・ホリディン横浜	横浜市の土木事業展「都市をつくる」, 関東学院大同窓会主催の「日産自動車工場見学会」を開催。「ASCE 会長, 司馬氏の特別講演」, 劇映画「よみがえる大地」(石原プロ)の上映, ビデオ特別タイムなど市民行事のきっかけを作る。
昭59 関西 (1984)	京都大	10.1~3	・成熟の時代を迎えた港湾 岡部 保* ・大阪21世紀計画について 磯村 隆文 ・人材育成論 広中 平祐 (研究討論5, 見学4, 映画ビデオ7)	第39回 1867題	琵琶湖ホテル・遊覧船ミシガン	ナイト・エキスカージョン, 無料の現地見学会の実施, コーヒーブレイク, 遊覧船による琵琶湖周遊など多彩。研究討論会のあり方を検討, 在日外人5名を招き「外国人から見た日本の土木」を開催。アンケートを実施。
昭60 東北 (1985)	東北学院大	9.11~13	・有料道路の歩みと将来の展望 菊池 三男* ・半導体工学の進歩とその応用 西沢 潤一 (研究討論6, 見学4, 映画ビデオ33)	第40回 2013題	仙台東急ホテル	●市民対象●8.26~31 仙台市役所ロビーに「展示コーナー」を設置。青函トンネルの貫通石を配布。年講に第VI部門を新設。レディースコースを新設。
昭61 西部 (1986)	福岡大	11.23~25	・予測とその信頼性 久保慶三郎* ・バイオテクノロジーの現状と将来 大村 浩久 (研究討論8, 見学5, 映画ビデオ33)	第41回 2113題	ホテル・ニューオータニ博多	●市民対象●11.13~19 まで博多駅筑紫口コンコースに展示コーナー「くらしと土木」を設置, アンケートを実施。第VI部門に関するアンケートを実施。レディースコース, 現地見学会を実施。
昭62 北海道 「21世紀への飛躍」 (1987)	北海道大	9.26~28	・世界の中の日本—土木界の役割 石川 六郎* ・貿易摩擦と日本農業 黒柳 俊雄 (研究討論9, 見学4, 映画22)	第42回 2202題 (PS76)	サッポロビール園	ポスターセッションを試行的に導入, アンケートを実施。 ●市民対象●「土木技術展」(地下鉄大通駅), 「土木試験所公開」, 「記念講演会」(高橋 裕, 田村喜子)〔道新ホール〕, 「映画会」, 劇映画「海峡」ほか〔角

						川シアター),「論文・映画コンクール」など
昭63 中国四国 「新世紀 夢づくり」 (1988)	広島工大 土木で拓く	10.3~5	・日本の社会資本(とくに交通の充実) 内田 隆滋* ・古代・中世の瀬戸内海 坂本 賢三 (研究討論5,見学6,映画16)	第43回 2435題 (PS110)	広島ター ミナルホ テル	●本四関連記念事業〔市民対象を含む〕●「先端建設機械展」(中央公園),「未来をひらく土木技術展・中国四国土木史展」(広島そごう),「特別連続記念講義」(14名3日間),「シンポジウム」2テーマ(一般と学生)[広島大],「記念講演会」(曾野綾子)[厚生年金会館]など
平1 中 部 「土木とデザイン」—デ ザインと土木がひらく 新時代— (1989)	名工大	10.16~18	・国際化時代における土木学会 堀川 清司* ・行政とデザイン 西尾 武喜 ・ASCEの活動の現状 John. A Focht, Jr (研究討論8,見学5,映画21)	第44回 2496題 (PS164)	愛知県厚 生年金会 館	●市民対象●「中部のプロジェクト展」,「子供の目でみる土木」,「デザインでみる土木」,「模型でみる土木」(以上市内各所),「土木100年のあゆみ展」(博物館明治村)
平2 関 東 「土木と地域づくり」 —ふれあい土木ゆたかな 地域まちづくり— (1990)	新潟大	9.30~ 10.2	・日本の道路—土木技術への期待 浅井新一郎* ・日本が熱帯であった頃 津田 禾粒 (研究討論11,見学4,映画22)	第45回 2693題 (PS93)	新潟グラ ンドホテ ル	参加費1000円/人を初徴収(平6から2000円/人) ●市民対象●「おもしろDOBO-KU展」(大和デパート),「記念シンポ・女性からの提言」,「シックファッションショー」,「パネルディスカッション」,「記念講演会」(田村喜子・草柳大蔵)[県民会館]新潟会主催 「学生懇親会」9.30新潟大第3学生食堂
平3 関 西 大 「シビルコスモス(土木 学)—地球にやさしい アーティスト (1991)	関西大	9.17~19	・土木:過去・現在・未来 岩佐 義朗* ・政治はいかにあるべきか 森嶋 通夫 (研究討論11,見学4,映画38)	第46回 2768題 (PS70)	関西大 100周年 記念館	●市民対象●ガイアート展(京阪神8駅),記念講演会(ユッタ・クライバウム・田原総一郎)[御堂会館]高校生現場見学会,学術振興基金受賞作「コンベ・土木に夢をください」作品展,国際シンポ:9.18「土木工学における自然災害の防止」(基調2,9テーマ43),「学生懇談会」9.17関大生協食堂
平4 国際センター 東北 東北 大 「国際化土木」—世界へ の貢献をめざして— (1992)	国際センター 東北 東北 大	9.28~30	・新しい時代のシビルエンジニア 藤井 敏夫* ・発見と開発の時代 渡邊 信夫 —17世紀初頭の東北を考える— (研究討論11,見学4,映画34)	第47回 3263題 PS62 英語S57	国際セン ター	共通セッション(7テーマ)を 新設(109件) ●市民対象●展示会(9.26~30) 〔仙台駅2Fコンコース〕 「学生懇談会」9.28東北大教養部
平5 西 部 九州産大 「地球・人間そして土 木」—豊かな生活環境 をめざして— (1993)	九州産大 九州造形短大	9.8~10	・土木学を求めて 竹内 良夫* ・雲仙普賢岳の火山活動と災害 太田 一也 (研究討論11,見学3,映画38)	第48回 3409題 (PS39) 英語S91	ホテル・ ニューオ ータニ博 多	●市民対象●シンポジウム「考古学における土木技術史・縄文~江戸時代」・河原純之,「考古学における土木技術史・都市形成と土木技術」(高島忠平ほか4名)[大手前会館ホール],「映画会」[福岡タワーCホール],「建設機械展」(9.8~11)[福岡市中央公園],「学術振興基金第2回受賞作品展示会」(9.10)[福岡タワーホール] 「学生懇談会」9.8九産大1号館食堂

* 会長講演 PS ポスターセッション 英語S 英語セッション

9.19 年次学術講演会における総合講演・部門講演・研究討論会等のテーマ

回・開催期日	テーマ
昭35(15) 1960.5.28 ~29 早 大	【部門総合講演】 1. 日本の高速道路 (齊藤義治), 2. 最近の道路橋 (村上永一), 3. 衛生工学の諸問題 (左合正雄), 4. 土質工学の二, 三の話題 (最上武雄), 5. 最近の水理学 (田中清), 6. 日本におけるPC使用の現状 (猪股俊司).
昭36(16) 1961.5.27 ~28 名 工 大	【総合講演】 1. 伊勢湾台風の被害および復旧工事の概要 (渡辺豊), 2. 名古屋の都市計画 (今城栄四郎), 3. 東海道新幹線について (杉巖), 4. コンサルタント10年の歩み (河野康雄), 5. コンクリート工学における最近の話題 (国分正胤), 6. 世界におけるダムのすう勢 (畑野正), 7. 交通工学最近の諸問題 (米谷栄二).
昭37(17) 1962.5.27 ~28 早 大	【総合講演】 1. 土木教育の現状 (石原藤次郎), 2. 海外における建設技術協力の現状と将来 (柳沢米吉), 3. 明日への土木建設業と土木建設技術者 (飯吉精一), 4. 首都高速道路の施工上の問題点 (中島武), 5. 臨海工業地帯の土地造成事業の変せん (岡部三郎), 6. 地下鉄とともに10年間 (水谷当起), 7. 最近における基礎の諸問題 (星整和).
昭38(18) 1963.5.27 ~28 京 大	【総合講演】 1. 名神高速道路の建設 (高橋敏五郎), 2. 神戸港の埋立と宅地造成事業 (宗宮義正), 3. 全国総合開発計画 (大来左武郎), 4. 揚水式発電 (吉田登), 5. 淀川水系の水質保全 (岩井重久), 6. 史跡保存と建設工事 (坪井清足).
昭39(19) 1964.5.30 ~31 東 北 大	【総合講演】 1. 河川と30年* (山本三郎), 2. 最近の地震工学 (岡本舜三), 3. 東北開発と交通政策 (今野源八郎), 4. 伊達政宗の土木計画 (三原良吉), 5. 青函トンネル (粕谷逸男).
昭40(20) 1965.5.29 ~30 九 大	【総合講演】 1. 橋梁事故物語* (福田武雄), 2. 豊太閤と博多 (鏡山猛), 3. 九州の総合開発 (浜正雄), 4. 新潟地震をかえりみて (高橋龍太郎).
昭41(21) 1966.5.28 ~29 北 大	【総合講演】 1. 日本港湾の特異性と臨海工業地帯造成の推移* (岡部三郎), 2. 北海道100年のあゆみ (高倉新一郎), 3. 北海道開発の現況 (遊佐志治磨).
昭42(22) 1967.5.27 ~28 広 島 大	【総合講演】 1. 鉄道の現状と将来* (篠原武司), 2. 古代の国土計画 (米倉二郎), 3. 本州四国連絡橋技術調査委員会における技術的問題点 (青木楠男).
●全国大会として秋季開催●	9.18 参照
昭43(23) 1968.10.1 ~15 名 大	【部門講演】 1. 構造力学の最近の進歩 (成岡昌夫), 2. 水理学研究の最近の進歩と現況 (林泰造), 3. 土の動的性質 (市原松平), 4. 交通計画の最近の問題 (米谷栄二).
昭44(24) 1969.9.26 ~30 東 京	【部門講演】 1. 最近の鋼材とその問題点 (奥村敏恵), 2. 下水汚泥の処理・処分と現況 (寺島重雄), 3. 土質力学とレオロジー (山口柏樹), 4. 近代写真測量の発展とその土木工学における役割 (丸安隆和).

昭45(25) 1970.11.6 ~8 大 阪	【合同部門研究討論会】 1. 土木工学における不規則現象とその評価 (後藤・神田/長尾・岩垣・伯野ほか), 2. 土木工事における騒音・振動問題 (伊藤・中村/道田・大北・山本・畠山ほか).
昭46(26) 1971.10.1 ~3 東 北 工 大	【研究討論会】 1. 橋梁設計の問題点 (伊藤/多田・猪股・菊池), 2. 移動床流れの粗度と河床形状 (林/芦田・鮎川・岸・土屋), 3. 土の動的性質 (市原/石原・小川・谷本), 4. 施工合理化の問題点 (増岡/萩原・堀井・横山), 5. サンフェルナンド地震の耐震設計に対する教訓 (久保/大久保・横田・田村), 6. 水質汚濁の“inenviroment”コントロール (末石/佐藤・南部・柏谷), 7. トンネルボーリングマシンの地質適応性と大型化 (浜/三谷・矢木・笹木・川村), 8. 21世紀の国土設計 (小川/松井・戸沼・鈴木・神谷), 9. コンクリート界における設計および材料に関する話題 (国分/尾坂・岡村・山崎).
昭47(27) 1972.10.20 ~23 九 大	【研究討論会】 1. 構造用鋼板の選定とその設計, 施工 (笹戸/明石・財前・中野), 2. 構造計算における電子計算機の役割 (大地/飯田・大阪・宮田), 3. 都市産業物の処理 (岩井/森下・花嶋・平田・岩下・高田), 4. 水工学における資料解析 (吉川/角屋・堀川・日野), 5. シラス切土斜面の崩壊とその設計 (山内/上田・藤本・露木・持永), 6. トンネル工事における岩盤調査 (小野寺/今西・御牧・高橋), 7. 幹線交通体系と九州 (内田/山根・町田・大塚), 8. 海洋とコンクリート (樋口/小林・西沢・杉田).
昭48(28) 1973.10.1 ~3 北 大	【研究討論会】 1. 第5回世界地震工学会議のトピックス (林/後藤・田村・桜井・栗林), 2. 寒冷地における溶接構造用鋼材 (渡辺/阿部・堀川・進藤・大島), 3. 人間と川 (岸/岩佐・高橋), 4. 軟弱地盤における土工の調査, 設計, 施工 (宮川/大平・渡辺・中沢・河野), 5. 膨張性をもった地盤中のトンネル施工 (足立/星野・斉藤・小林・石山), 6. 土地利用と開発計画 (小川/八十島・堀・市瀬), 7. コンクリート構造におけるプレキャスト部材の活用 (横道/岡田・野口・松本・三浦・伊藤).
昭49(29) 1974.10.6 ~10 広 島 工 大	【研究討論会】 1. 建設工事における海外と国内の断絶 (吉越/松原・赤木・石橋), 2. 重要文化財と土木 (高橋/青木・石原・佐藤), 3. 海洋鋼構造物の現況と問題点 (村上/秋山・佐竹・吉田), 4. 海水交流と水質の汚濁 (岩垣/樋口・中西・土屋), 5. 地盤の変形と破壊解析の問題点 (綱干/山口・柴田・中瀬), 6. トンネルの調査と掘削によって生ずる地表部への影響 (島田/川崎・桜井・笹木・田島・塚田・戸田・三好・山崎), 7. 省エネルギーと交通 (安山/広田・並木・中村・定井), 8. 海洋コンクリート構造物 (田中/赤塚・河野・岡村・桜井・遠藤).

昭50(30) 1975.10.16 ～18 名工大	【部門講演】 1. 鋼構造に関する展望 (吉田/小西・奥村), 2. 写真情報の土工学への利用 (佐々波/大嶋・渡辺), 3. 土の変形問題の意義と解明への考察 (西田/村山朔郎). 【研究討論会】 1. 高炉スラグのコンクリート材料としての利用 (国分/小林・山崎・吉田), 2. 自然環境の変化と土砂収支 (足立/細井・河村), 3. 新交通システムへの期待 (渡辺/佐佐木・加藤), 4. 会誌のあり方と明日の学会誌 (八十島/長尾・横山・高橋).	昭56(36) 1981.10.6 ～8 広島大	【研究討論会】 1. 構造設計示方書における安全性照査の方法 (野口/伊藤), 2. 河川環境の管理 (吉川/中西・山口・米倉), 3. 高性能減水剤によるコンクリートのワーカビリティの向上 (船越/石橋・河野・長瀬・西林), 4. 軟弱地盤におけるサンドコンパクション工法および深層混合工法の問題点 (綱干/一本・奥村・曾我部・中村), 5. 都市美と土木景観 (天野/大田・中村・樋口・丸茂), 6. 年次学術講演会のあり方 (西野・長瀬/星谷勝).
昭51(31) 1976.10.8 ～10 東工大	【部門講演】 1. 第10回国際構造工学会議での話題 (前田/平井・国分・伊藤), 2. フィルダムの堤体設計上の諸問題 (浅川/河上房義), 3. コンクリート工学の現在と将来 (岩崎/水野高明). 【研究討論会】 1. 確率統計水文学の展望 (岸/高橋・室田・日野・高棟), 2. 土木事業と緑の創造 (鈴木/新田・齋木), 3. これからの土木教育を考える (丹羽/田中・森田・菅原), 4. 橋梁と景観 (田原/柳・中村・関).	昭57(37) 1982.10.12 ～15 名工大	【研究討論会】 1. 耐震設計とその背景 (野口/栗林・伯野・林・山田), 2. 比較河川学 (室田/岸・堀・岩佐・上森・村上), 3. これからの土木教育を考える (塚/石川・小坂・成岡), 4. 広域地盤沈下と地下水問題 (植下/桑原・佐藤・山内), 5. コンクリート標準示方書の問題点 (樋口/吉田・小柳), 6. 21世紀の伊勢湾地域 (毛利・河上/岩本・川崎・田上), 7. 論文報告集を中心とした定期刊行物のあり方 (吉川/伊藤).
昭52(32) 1977.10.14 ～16 神戸大	【部門講演】 1. 豪雨に起因する大規模崩壊災害 (松梨/田中茂), 2. 第9回国際土質基礎工学会議報告 (久野/福岡・星塾・村山), 3. 大阪湾上の新都市への期待 (天野/桜井・中北), 4. コンクリート船の将来 (樋口/竹鼻三雄), 5. 本四架橋の現況 (西村/下川浩資). 【研究討論会】 1. 都市の公共構造物の防災 (小西/佐藤・上野・加藤ほか), 2. 埋立計画に伴う海岸自然性状の事前調査手法 (榎木/山口・堀江・野田/本), 3. 埋立地盤の土質工学的諸問題 (柴田/三笠・谷本・中瀬・佐々木), 4. 都市づくりと文化開発 (三輪/里井・末次・山崎), 5. コンクリート構造の設計指針 (岡田/河野・岡村・尾坂).	昭58(38) 1983.9.28 ～30 関東学院大	【研究討論会】 1. 土木学会の活動のあり方 (田辺/玉井・中川), 2. 土木史と土木事業 (新谷/鶴見・岡・宮村), 3. コンクリート構造物の早期劣化をめぐる諸問題 (小林/小林・蒔田・中村), 4. 土質工学における予測 (宇野/稲田・黒田・栗原・渡辺), 5. 21世紀の国土と国民生活 (毛利/佐藤・長瀬・半田), 6. 構造工学におけるパソコンの利用 (阿部/太田・川原・武田・花村), 7. 東京湾の利用と保全 (堀口/金沢・柴・奥山)
昭53(33) 1978.9.19 ～21 東北工大	【部門講演】 1. 地震をめぐる最近の話題 (伯野/平沢・田村・片山・兼子), 2. 石油・液化ガス備蓄に関する土質工学上の問題 (稲田/山口・榎戸), 3. セメントモルタルのレオロジー (後藤/梅屋薫). 【研究討論会】 1. 膨張コンクリートの現況と問題点 (樋口/三宅信雄), 2. 橋梁の現場溶接 (倉西/田島二郎), 3. 都市河川の管理 (松本/狩谷・山口・加藤), 4. 近代土木技術の黎明期と土木技術 (高橋/村松・金関).	昭59(39) 1984.10.1 ～3 京大	【研究討論会】 I. 新しい土木技術の最近の話題 [I-1 地中環境における新技術 (片瀬/中村・平井・河原畑・園田・庄野・松田・青井), I-2 海洋・水中環境における新技術 (錦織/神崎・姫路・中原・松本・山川・富永), I-3 新技術開発のあり方 (那智/片瀬・錦織・篠原・金屋敷・井上)], II 大規模プロジェクトの意義と評価 (長尾/持永・田中・持田・大橋・天野・森杉・今野), III 外国人からみた日本の土木 (岩佐/プリュール・サウル・ヴリート・シャビーロ・ホリオカ)
昭54(34) 1979.10.16 ～18 九大	【部門講演】 1. 土木と風 (白石/伊藤・東原・市原・成田), 2. 浮上鉄道 (沼田/諸岡薫). 【研究討論会】 1. 福岡潟水と水資源開発 (高橋/池淵・和氣・若松), 2. シラス地盤のトンネル工法 (山内/歳田・長野・高森), 3. 九州自治体の構想 (内田/手島・兼尾・佐藤), 4. 高性能減水剤の活用 (徳光/小林・渡辺・近藤).	昭60(40) 1985.9.12 ～14 東北学院大	【研究討論会】 1. 構造工学の現状と将来 (倉西/能町・横溝・吉田), 2. 都市の地震防災計画における被害復旧の予測と信頼性 (片山/栗林・山田・大嶋・渡辺), 3. 大規模都市トンネル工事の現況と将来 (三好/清野・猪瀬・橋本・平田), 4. これからどうする東北の地域開発 (須田/鈴木・高橋・馬場・西岡・齋藤), 5. 技術開発 (丸安/岩井・成田・佐川・井畔), 6. 岐路に立つ土木と土木学会の新しい役割 (高橋/柳沢・戸嶋・渋谷・上野)
昭55(35) 1980.9.13 ～15 北大	【研究討論会】 1. 溶接構造と疲労 (田島/阿部・佐伯・石黒・三木), 2. 栽培漁業としての沿岸湖沼開発 (柏村/菊地・近藤・戸巻), 3. 土木計画における評価基準 (長尾/五十嵐・天野・八十島), 4. 泥炭性地盤の地盤改良効果 (河野/持永・佐々木・鎌田), 5. 歴史的土木施設の再利用 (高橋/三浦・大熊・遠藤), 6. コンクリート構造物の耐久性 (小林/太田・渡辺・柳田).	昭61(41) 1986.11.23 ～25 福岡大	【研究討論会】 1. 年次学術講演会講演方式の見直し (玉井/柳沢・今井), 2. 建設産業の国際化と大学・職場教育のあり方 (藤田/赤木・吉田・渋谷・横山・花村), 3. 鋼構造の進歩と明日の構造物 (田島/長谷川・佐藤・成瀬), 4. コミュニタ航空を考える (森地/樗木・栢原・足立・田村), 5. コンクリート構造物の安全性と設計耐用年の考え方 (渡辺/御子柴・野

	尻・斉藤), 6. 火山性土石流・泥流災害を考える(中川/高橋・平野・太田・小川), 7. 九州のみなと(中島/中村・福井・川端・中山), 8. ヒューマンライフと環境(丹保/住友・中村・真柄).	原・馬場), 11. 克雪技術の進歩と将来(小林/西田・中村・松本・佐藤・赤川)
昭62(42) 1987.9.26 ~28 北大	【研究討論会】 1. 国際化時代を迎えたわが国建設コンサルタントの使命(渡辺/上条・佐伯・山口・町田・渋谷), 2. 岩盤力学教育の現状と課題(西松/足立・北条・野尻・田中・石橋), 3. 世界の中の日本の土木技術(石戸/山下・吉松・城崎・パチエコ), 4. 構造物のタイムリスクの評価(白石/池田・山本・古田・黒田・藤野), 5. コンクリート構造物の維持管理(岡田・太田/西村・篠原・宮本・石沢・比奈地), 6. 土木改名論を考える(中瀬・小林/天野・西野), 7. 青函トンネルの建設とその将来を考える(五十嵐/森地・石田・神山・飯塚・田畑), 8. 建設業の国際化と大学教育・職場教育のあり方(藤田/玉井・小林・富瀬・太田), 9. 日本の河川の比較河川学(岸/竹内・日野・芦田・岩佐・丹保・高橋).	平3(46) 1991.9.17 ~19 関西大
昭63(43) 1988.10.3 ~5 広島工大	【研究討論会】 1. 人間土木工学(竹内/広松・回谷・加藤・依田), 2. 情報化された都市の防災(片山/石崎・木村・月尾・吉村・米澤), 3. ウォーターフロント空間利用(名合/長尾・満岡・粕原・中村), 4. フラクチャーマカニクス:発展する力学分野(倉西/三木・堀井・六郷・広瀬・小田), 5. 大形海上橋梁の防食と維持管理(成瀬/香川・呉藤・桐村・田中).	平4(47) 1992.9.28 ~30 東北大
平1(44) 1989.10.16 ~18 名古屋工大	【研究討論会】 1. 米国における社会基盤施設の再構築(赤木/ASCE参加 Loney, Custer Jr., Cohen, Grinberg), 2. 鋼コンクリート共通コード作成の問題点(田辺/藤原・依田・秋元・前川), 3. 地球規模環境問題(楠田/北野・西岡・山地・松尾), 4. 伊勢湾の総合利用をめぐる(酒匂/山根・谷本・上嶋), 5. 21世紀を目指す国土のデザイン(天野/栗山・須田・水谷・八幡), 6. 建設と新素材(小林/飯島・上田・魚本・菅原 西岡・野尻・則武・松井・森田・山口), 7. 読んでますか, 学会誌(三木/磯部・馬場・姫路), 8. 国際単位系(SI)について(長/三笠・安田・杉本・巻内・大西・小泉)	平5(48) 1993.9.8 ~10 九州産大 九州造形短大
平2(45) 1990.9.30 ~10.2 新潟大	【研究討論会】 1. 90年代のコンクリート技術(岡村/小林・伊東・根上), 2. 地球温暖化への対応と戦略(花木/太田・丹羽・松岡・森田), 3. 侵食対策から長期的海浜安定化へ(首藤/泉・宇多・神田・土屋), 4. ロマ・プリータ地震(亀田/片山・高橋・小林・Schulz, 柳沢), 5. 建設産業における技術情報の収集と活用(太田/横田・五嶋・長峯・根本), 6. 建設業の魅力と課題(藤田/佐藤・魚本・西山・田澤・斉藤), 7. 地下空間の技術展望(佐藤/朝倉・厨川・水谷・大西・村上), 8. 青山士と大河津分水(高橋/田村・前田・松浦・渡部), 9. いま考えよう! これからの大学土木教育(赤井/松井・宮村・成田・藤野・泉谷), 10. 環日本海圏を考える(中村/多賀・安島・栢	【研究討論会】 1. 土木学(シビル・コスモス)に向けて(吉川/高橋・竹内・落合・河田), 2. 土木工学に関連する事故・災害をどう考えるか(宇野/長・藤波・高松・中村), 3. 建設マネジメントの国際比較(馬場/Brown, Larkin, Dickison・国島・山川), 4. 海面上昇への適切な対応(村岡/細川・渡辺・中辻・楠田), 5. 建設技術研究開発とコンピュータ(吉田/武田・中山・徳永・前田), 6. コンクリートの現状と将来(長瀬/辻・山本・水元・小野・渡辺), 7. ペリエリアの創生にむけて(榛沢/吉川・清水・河上・間瀬), 8. 近代の大阪計画(室田/三輪・仙石・松村・小野・安田), 9. 見直そう, 考えよう, 建設技術の将来(藤田/後藤, 隈元, 原田, 池村), 10. 魅力あるコンサルタントを求めて(渡辺/三上・田村・森下・杉木), 11. ウォーターフロント(嘉門/矢部・鹿島・仙波).
		【研究討論会】 1. コンクリート構造物の品質保証(三浦/河野・奥村・石原・中根), 2. 防災と国際化(椎井/土岐・堀井・浜守・片山・高橋), 3. いま舗装に求められるもの(笠原/岡崎・阿部・井上・阿部(栄)・尾崎・北村), 4. エネルギー土木分野における国際貢献のあり方(赤木/神田・佐々木・千原・藤野), 5. 歴史的土木構造物の保存と活用(新谷/大熊・馬場・新井田・村上・栗田), 6. ごみ減量・資源循環社会実現への課題(藤田/田中・盛岡・久柴・花嶋), 7. 国際化の中でこれからの土木鋼構造のあり方をさぐる(福本/藤野・渡辺・西川・坂井), 8. 国際化とコンサルタント(渋谷/向井・安藤・ボスマン・赤川), 9. 人工知能と土木(花村/大坂・鍛冶・古田・佐々木), 10. いま世界から日本の建設技術に望まれているものは(西野/柳生・池田・草柳・松本・上條), 11. 生活大国と地方都市(黒川/小畑・マリ クリスティヌ・平木・矢田)
		【研究討論会】 1. 途上国における持続可能な開発に向け土木は何をなすべきか(楠田/藤岡・桜井・柴山・藤野・池口), 2. 留学生教育はこれでいいのか(日下部/西澤・西野・内山・佐藤・張・平井・山口), 3. 力学教育(岩熊/田村・井浦), 4. 河川の水質管理(中西/浜田・柳下・関・中村・浅野), 5. 火山災害工学(陶野・北村/伯野・藤井・高橋・今村・池谷), 6. 地域づくりからみたりゾート開発の現状と課題(渡辺/原・遠藤・舟田・染谷), 7. 環境とコンクリート(町田/井村・池村・魚本・内藤・中原), 8. 21世紀の建設用ロボット(大林/岡山・横山・足立・松垣・神崎), 9. 建設現場をこう変えたい!(三嶋/戸谷・大丸・平石・岡野・松井), 10. 施工時の事故・災害への取り組み(国島・岡崎/吉川・花安・黒田・木口・中野・山口), 11. エネルギー施設と環境調和・地域共生(高木/和田・吉野・若谷・山下). 【臨時】 北海道南西沖被害調査速報会.

9.20 公益信託「土木学会学術交流基金」
助成一覧

年度	A-1	A-2	B	C	Study Tour Grant	その他	合計 (助成額)
平1 1989	5 (20)	3 (4)	20 (21)	11 (11)			39 (499.5万円)
平2 1990	12 (24)	6 (15)	23 (24)	6 (7)		1 ¹ (1)	48 (1250.0万円)
平3 1991	12 (36)	5 (8)	募集中止	3 (6)	2 ²	2 ³ (2)	24 (1209.0万円)
平4 1992	15 (57)	5 (11)	募集中止	4 (6)	1 ⁴	2 ⁵ (2)	27 (1107.0万円)
平5 1993	15 (43)	2 (7)	募集中止	2 (6)	1 ⁶	2 ⁷ (2)	22 (1009.0万円)

() 内は応募件数 (助成決定年度)

- A-1: 海外派遣のための助成金交付 (旅費等)
- A-2: 日本招聘のための助成金交付 (旅費等)
- B: 外国人が日本国内で開催される学会等へ参加するための助成金交付 (旅費等)
- C: 日本人・外国人が日本国内で開催される国際会議等に発表するための助成金交付 (旅費等)

※注¹・第4回土木建築コンピューター国際会議 (土木学会・日本建築学会主催) 150万円

注²・Mr. Svant Roupe (スウェーデン土木構造工学会) 60万円
・Mr. Timothy W. Macoun (オーストラリア工学会) 60万円

注³・耐震工学委員会 (トルコ地質調査) 60万円
・海岸工学委員会 (インドネシア津波調査) 60万円

注⁴ Mr. John L. Thompson (米国土木学会) 60万円

注⁵ 1993年国際津波シンポジウム 100万円
第25回国際水理学会会議 100万円

注⁶ カナダ (予定) 60万円

注⁷・第24回国際海岸工学会議 80万円
・土木学会創立80周年記念 国際シンポジウム 150万円

9.21 「土木学会学術振興基金」当選者

通称「鹿島基金」で基金総額は2億円、基金の果実で運営している。1993年度は「土木特派員」として公募した。

【分野A】主として土木以外の方が土木をクリエートし「土木および土木工学の将来の発展」に寄与できる提案分野

【分野B】土木の専門領域を主たる対象とする「21世紀展望型」の夢のある提案分野

年度	A	B	年度	A	B
1992	4 (165)	3 (97)	1993	1 (45)	4 (85)

賞金は1件あたり100万円を支給し成果の公表を義務づける。() 応募件数

●1991年度 (第1回)

A-1 一般向け土木写真雑誌

柿沢 圭子 主婦 (会社員 柿沢忠弘) 千葉県柏市

A-2 土木歳時記

金子 千秋 会社員・横浜市

A-3 子供たちと「土木」との接点を考える—移動テーマパーク「土木ランド」の提案—

徳村 薫 主婦・福岡市

A-4 大地が動く—小学生の地すべり観測

広中 正一 小学校長 (小学校教頭 山田恵美子) 石川県輪島市

B-1 都市にやさしいゴミ処理システム—ジオフロンによるゴミ処理総合システム—

富永 克巳 (南 治・高尾秀之・徳山 茂・福本育央・熊谷組大阪支店)

B-2 都市に深呼吸のシステム—深夜に分散した圧縮空気による大電力貯蔵、昼間に空気と水・電気と熱の「都市のエアロピクス構想」—

林 正夫・東海大学

B-3 ボランティアの橋

三藤 重剛 (羽田義治・大場義人・中野晴一・清水建設土木本部)

平成4年度 (1992) 全国大会 (関西大学) で成果を公開展示。

A-4は小学生による発表会で好評。「土木に夢をください」

●1992年度 (第2回)

A-1 夢の騒音変換環境ジェネレーション

大西 俊一 (野口一也・ベンステーション会社)

B-1 キャナル・ルネッサンス・プロジェクト—環境にやさしい持続型交通システム—

長野 正孝 (山本修司・運輸省港湾技研)

B-2 「DOBOKU ショーウインドウ」—よりよい生活空間の創造と土木技術の発展へ向けての一提案—

佐久間信夫 (佐倉政光・佐土浩之・尾之内和久・池田隆・清水建設)

B-3 東京通勤ターズサイクルシステム—通勤地獄からの開放—

小島 隆志 (亀井隆夫・国峯紀彦・川本卓・ハザマ)

B-4 土木体験ゲームソフト“フィールドオブドリームス”の制作

桜井 英二 (阿部龍介・角谷竜二・相川秀一・東洋建設)

平成5年度 (1993) 全国大会 (福岡タワー) で成果を公開展示。「土木に夢とロマンをください」

●1993年度

Do・Bo-Ku 特派員 (応募総数 205件)

1. 駅前の横断歩道橋を視察する旅—障害者の立場から—
上 紀夫 (46) 自由業 (日本国内) 100万円

2. 千年の遺産—今に生きる行基・空海の社会事業

山崎 誠子 (34) 草月出版

(中華人民共和国・国内関西地方) 48万円

3. 橋梁における作家性の検証

大平 正 (27) 日東技術開発(株)

(丸亀・熊本・イタリア・スイス・スペイン) 45万円

- 4. 検証 200 年前の測量技術 (伊能図への挑戦)
内海 克成 (34) (株)ナンバ (伊豆半島) 38 万円
- 5. 中世イスラム都市へ住み込んでみる
木下 徹 (23) 東京大学 (イエメン) 220 万円
田尻 敦子 (22) 〃
大坪 玲子 (26) 〃
池田 創 (23) 慶応大学
- 6. 古代ローマに見る安定処理工法とその耐久性
鈴木 孝一 (42) 小野田ケミコン(株)
西尾 経 (39) 〃
(イタリア・イギリス) 117 万円

(2) 1946~1964

建設ニュース (1号で廃刊)	1946. 8
土木ニュース (38号, 49.12で廃刊)	1946.12
南海大地震災害報告-学会誌 32巻1号	1947. 8
土木学会会員名簿 昭和22年度用 (以下2年ごとに刊行)	1947.12
東北関東水害報告-学会誌 33巻1号	1948. 3
コンクリート電気養生施工法指針-学会誌 33巻3号	1948. 7
水理公式集 (原案)	1948.10
下水道学 前編* (叢書)	1948.11
昭和23年北陸地震災害調査報告-学会誌 33巻4号	1948.12
木構造学* (叢書)	1949. 3
昭和24年制定土木学会コンクリート標準示方書 閘門隧道*	1949. 7
上水道学 前編* (叢書)	1949. 8
昭和24年土木学会水理公式集	1949. 8
鉄道線路* (叢書)	1949. 9
鋼橋 (I)* (叢書)	1950. 4
最新土質工学 (昭和25年夏期講習会)	1950. 7
土木工学論文抄録・第3集	1950. 8
昭和24年土木学会制定コンクリート標準示方書解説 土木工学の概観* (1940~1945)	1950.12
福井地震震害調査報告書	1951. 4
土木工学論文抄録・第4集	1951.10
昭和24年土木学会コンクリート標準示方書, 昭和 26年度版	1952. 6
同上・解説	1952. 6
コンクリートとダム (昭和26年夏期講習会 (I))	1952. 8
橋梁 (昭和26年夏期講習会 (II))	1952. 8
鉄筋コンクリート橋* (叢書)	1952. 6
建設機械化 (昭和27年夏期講習会)	1952. 8
水工学の最近の進歩 (水工学論文集)	1953. 3
土木製図基準 (I)	1953. 4
プレストレストコンクリートと構造力学 (昭和28年 夏期講習会)	1953. 8
下水道学 後編* (叢書)	1953. 8
学術用語集・土木工学編	1954. 3
応用力学* (叢書)	1954. 5
新材料と新工法 (昭和29年夏期講習会)	1954. 8
創立40周年記念土木学会略史	1954.10
土木工事写真集-土木学会創立40周年記念 土木工学ハンドブック* (上・下巻)	1954.10
第1回海岸工学講演会論文集 (1993まで40回刊行)	1954.11
わが国土木工学の趨勢-学会誌 39巻12号	1954.12
昭和30年土木学会プレストレストコンクリート設計 施工指針	1955. 6
土木工学論文抄録・第5集	1955. 6
鋼鉄道橋設計示方書解説・昭和30年版	1955. 8
鋼橋設計示方書とプレストレストコンクリート指針 (昭和30年夏期講習会)	1955. 8
海岸工学* I (海岸工学委員会訳)	1955. 9
海岸工学* II (海岸工学委員会訳)	1955.11
鋼鉄道橋設計示方書解説・改訂2版	1956. 1
海岸工学用語集	1956. 4
第1回水理講演会論文集 (1993年まで37回刊行)	1956. 5
道路工学* (叢書)	1956. 6
災害とその対策 (昭和31年夏期講習会)	1956. 8
無筋コンクリート標準示方書	1956. 8
コンクリートの品質管理	1956.11
昭和31年度制定コンクリート標準示方書	1956.11

9.22 土木学会出版物一覧

注: 委員会資料類は記載してありません。

9.22.1 本部出版物

(1) 1914~1944

書名	発行年
土木学会名簿	1914. 4
(以下, 1942年まで28冊刊行)	
東京市内外交通二関スル調査書-学会誌5巻3号	1919. 8
大阪市内外高速鉄道調査会報告書-学会誌11巻5号	1925.10
大正12年関東大地震震害調査報告書・第1巻	1926. 8
東京・横浜付近交通調査報告書-学会誌12巻2号	1926.12
大正12年関東大地震震害調査報告書・第2巻	1927. 1
大正12年関東大地震震害調査報告書・第3巻	1927.12
大東京高速鉄道調査会報告書 (未定稿)	1928
大東京高速鉄道調査会報告書 付図	1928
土木工事写真集-学会誌臨時増刊	1930. 6
昭和6年土木学会鉄筋コンクリート標準示方書	1931. 9
昭和6年土木学会鉄筋コンクリート標準示方書解説 土木工学論文抄録・第1集	1931.10
創立20周年記念土木学会略史-学会誌20巻12号	1934.10
明治以前日本土木史	1934.12
昭和10年台湾中部地方震害調査報告書	1936. 6
昭和9年関西地方風水害調査報告	1936. 8
昭和11年土木学会鉄筋コンクリート標準示方書	1936. 8
昭和11年土木学会鉄筋コンクリート標準示方書解説	1936.10
丹那隧道工事誌	1936.11
土木工学用語集	1936.11
第1回年次学術講演会講演梗概集 (2~4回要旨集のみ, 5~49回・1994年まで刊行)	1937. 4
創立25周年土木学会略史-学会誌25巻12号	1939.12
土木工学論文抄録・第2集	1939.10
鋼鉄道橋標準設計示方書-学会誌26巻7号	1940. 3
昭和15年土木学会鉄筋コンクリート標準示方書	1940. 5
昭和15年土木学会鉄筋コンクリート標準示方書解説	1940. 8
国難打開課題	1941. 8
関東及び関西地方水害調査報告書	1941.11
明治以後本邦土木と外人	1942. 2
防空土木緊急対策	1942. 2
杭の支持力公式調査報告-学会誌28巻9号	1942. 9
水理公式集 (未定稿)	1943.12
昭和18年9月鳥取地方震害調査報告 -学会誌30巻2号	1944. 2

鋼橋(Ⅲ)*(叢書)	1956.12	土木製図基準(Ⅰ)・昭和39年改訂版	1964.3
海岸保全施設設計便覧・昭和32年版	1957.8	土木工学ハンドブック・昭和39年度版*(上・下巻)	1964.3
水理公式集・昭和32年改訂版	1957.8	構造用軽量骨材シンポジウム(CL.10号)	1964.5
第1回地震工学研究発表会講演概要(1993年まで22回刊行)	1957.9	土木学会誌・論文集総索引-1915~63-	1964.6
機械化土工*(叢書)	1957.9	土地造成*	1964.6
プレストレストコンクリートの設計及施工*(叢書)	1957.11	水工学に関する夏期研修会講義集(A,Bコース)(1993年まで29回刊行)	1964.7
昭和31年度制定コンクリート標準示方書	1958.6	昭和39年土木学会トンネル標準示方書解説	1964.8
同上・解説	1958.6	最近のトンネル工学-工事の実例と話題(昭和39年夏期講習会・TS2号)	1964.8
Coastal Engineering in Japan, Vol. 1(1993年までにVol.32刊行)	1958.4	日本の土木技術-100年の発展のあゆみ	1964.10
新しい建設工法(昭和33年夏期講習会)	1958.8	創立50周年記念土木学会略史	1964.11
昭和31年土木学会コンクリート標準示方書(昭和33年度版)	1958.12	建設/創造/技術*(写真集)	1964.11
同上・解説,昭和33年度版	1959.1	微細な空けきてん充のためのセメント注入における混和材料に関する研究(CL.11号)	1964.12
トンネルと掘削工法(昭和34年夏期講習会)	1959.8	第1回衛生工学研究討論会(環境工学)論文集(1993まで30回刊行)	1964.12
鋼鉄道橋設計示方書解説・改訂3版	1960.7	Earthquake Resistant Design for Civil Engineering Structures, Earth Structures and Foundations in Japan-1964	1964.12
Earthquake Resistant Design for Civil Engineering Structures, Earth Structures and Foundations in Japan-1960)	1960.7		
最近の道路問題と高速道路(昭和35年夏期講習会)	1960.8		
関門トンネル工事誌*	1960.12		
土木工学論文抄録・第6集	1961.1		
最近におけるプレストレストコンクリート(昭和36年夏期講習会)	1961.8		
土木学会プレストレストコンクリート設計施工指針・昭和36年度改訂版	1961.8	(3) 1965~1974	
吉田徳次郎博士論文集	1961.9	コンクリート舗装の構造設計に関する実験的研究(CL.12号)	1965.1
Civil Engineering in Japan, Vol. 1(1993年までにVol.31刊行)	1961.12	プレバッドコンクリート施工例集(CL.13号)	1965.3
コンクリート橋-鉄筋コンクリート橋およびプレストレストコンクリート橋*(叢書)	1962.5	爆破*	1965.2
コンクリートの話-吉田徳次郎先生御遺稿より-(CL.1号)	1962.5	工事報告 大鳥セミアーチダム	1965.3
第1回トンネル工学シンポジウム(TS1号)	1962.6	本州四国連絡橋技術調査第一次報告書・付属資料-耐風設計指針(1964)解説	1965.5
最近の基礎工法(昭和37年夏期講習会)	1962.8	同上・付属資料-鋼材調査	1965.5
第1回岩盤力学に関するシンポジウム講演論文集(1993まで25回刊行)	1962.11	構造工学における最近の諸問題(昭和40年夏期講習会)	1965.8
第1回異形鉄筋シンポジウム	1962.12	工事報告 川俣アーチダム	1965.8
工事報告 坂本アーチダム	1963.2	工事報告 一ツ瀬・杉安アーチダム	1965.8
異形鉄筋を用いた鉄筋コンクリート構造物の設計例(CL3号)	1963.2	土木技術者の活躍と大学土木教育	1965.9
同・改訂版	1968.7	土木構造物の耐震設計指針(案)	1965.10
ペーストによるフライアッシュの使用に関する研究(CL4号)	1963.3	日本土木史 大正元年~昭和15年	1965.12
小丸川PC鉄道橋の架替え工事ならびにこれに関連して行った実験研究の報告(CL.5号)	1963.3	第2回異形鉄筋シンポジウム(CL.14号)	1965.12
鉄道橋としてのプレストレストコンクリート桁の設計方法に関する研究(CL.6号)	1963.3	工事報告 黒部川第四発電所	1966.4
コンクリートの水密性の研究(CL.7号)	1963.6	人工軽量骨材コンクリート設計施工指針(案)	1966.5
鉱物質微粉末がコンクリートのウォーカビリティーおよび強度におよぼす効果に関する基礎研究(CL.8号)	1963.7	昭和39年新潟地震震害調査報告書	1966.6
添えばりを用いるアンダーピンニング工法の研究(CL.9号)	1963.7	ディビダーク工法設計施工指針(案)(CL.15号)	1966.7
水理公式集・昭和38年増補改訂版	1963.8	土木技術者のための振動便覧	1966.8
土質実験指導書	1963.8	プレバッドコンクリート施工指針(案)	1966.10
若戸橋調査報告書	1963.10	第3回トンネル工学シンポジウム(TS3号)	1966.11
若戸橋工事報告書	1964.2	わが国シールド工法の実施例・第1集(TS4号)	1966.11
土木材料実験指書	1964.2	土木年鑑-1967*	1966.11
昭和39年土木学会トンネル標準示方書	1964.3	土木技術者のための岩盤力学	1966.11
		土木図書館蔵書目録・第1集	1967.1
		第1回土木計画学シンポジウム論文集(1993まで27回刊行)	1967.1
		水理実験指導書	1967.3
		土木製図基準・昭和42年改訂版	1967.5
		昭和42年土木学会コンクリート標準示方書	1967.5
		工事報告 天草五橋	1967.5
		The Earthquake Resistant Design Criteria and It's Manual for the Honshu-Shikoku Bridge	1967.5
		単純曲げをうける鉄筋コンクリート桁およびプレストレストコンクリート桁の極限強さ設計法に関する	1967.5

研究 (CL. 16号)		土木製図基準・昭和45年改訂版	1970.3
MDC工法設計施工指針(案)(CL.17号)	1967.7	土質実験指導書・昭和45年改訂版	1970.3
昭和42年土木学会コンクリート標準示方書解説	1967.7	測量実習指導書	1970.3
本州四国連絡橋技術調査報告書・付属資料1-耐震設計指針(1967)および同解説	1967.7	東名高速道路建設誌	1970.3
同上・付属資料2-耐震設計指針(1967)・同解説および耐震設計詳説	1967.7	下水汚泥の処理・処分および利用に関する研究報告書・昭和44年度	1970.3
同上・付属資料3-鋼材に関する調査資料	1967.7	第1回海洋開発シンポジウム講演集(1993まで18回刊行)	1970.4
同上・付属資料4-基礎施工に関する調査資料	1967.7	高炉セメントコンクリートの研究(CL.25号)	1970.4
同上・付属資料5-道路橋構造概要図	1967.7	鉄道橋としての鉄筋コンクリート斜角げたの設計に関する研究(CL.26号)	1970.5
同上・付属資料6-道路鉄道併用橋構造概要図	1967.7	高張力異形鉄筋の使用に関する基礎研究(CL.27号)	1970.5
同上・付属資料7-道路鉄道併用橋に関する調査資料	1967.7	明日の国土を築く力-高校土木教育白書	1970.6
コンクリート標準示方書改訂資料(昭和42年度夏期講習会)	1967.8	土木工事の積算(昭和45年度夏期講習会)	1970.8
鋼橋(Ⅲ)*(叢書)・改訂版	1967.9	第6回トンネル工学シンポジウム(TS7号)	1970.9
土木年鑑-1968*	1967.11	土木技術フィルムリスト-1970	1970.9
土木図書館蔵書目録・第2集	1968.1	応用力学(Ⅱ)*(わかり易い5)	1970.10
土木図書館蔵書目録・第3集	1968.1	爆破*(全訂新版)	1970.10
現場コンクリートの品質管理と品質検査(CL.18号)	1968.3	土木図書館蔵書目録・第5集	1970.11
港湾工事におけるプレパックドコンクリートの施工管理に関する基礎研究(CL.19号)	1968.3	鋼鉄道橋設計標準解説・昭和45年版	1970.11
橋1966-67(1993まで27冊刊行)	1968.3	コンクリートの品質管理に関する基礎研究(CL.28号)	1970.12
コンクリート工学(1)*(わかり易い10)	1968.5	フレシネー工法設計施工指針(案)(CL.29号)	1970.12
第4回トンネル工学シンポジウム(TS5号)	1968.6	土木年鑑-1971*(廃刊)	1971.1
建設技術者のための測定法	1968.8	水理*(わかり易い7)	1971.1
第1回土木計画学講習会テキスト(1993まで18回刊行)	1968.8	施工*(わかり易い14)	1971.2
フライアッシュを混和したコンクリートの中性化と鉄筋の発錆に関する長期研究(CL.20号)	1968.10	青函トンネル土工研究調査報告書 昭和45年度	1971.3
Earthquake Resistant Design for Civil Engineering Structures, Earth Structures and Foundations in Japan-1968	1968.11	下水汚泥の処理・処分および利用に関する研究報告書・昭和45年度	1971.3
パウ・レオンハルト工法設計施工指針(案)(CL.21号)	1968.12	土木用語辞典*	1971.4
レオバ工法設計施工指針(案)(CL.22号)	1968.12	土木学会投稿の手引き・昭和46年版	1971.4
応用力学(1)*(わかり易い4)	1968.12	本州四国連絡鉄道吊橋技術調査委員会中間報告書-軌道専門部会報告, 橋梁専門部会報告	1971.7
土木年鑑-1969*	1968.12	同上-併用橋	1971.7
数学*(わかり易い1)	1969.1	沈埋トンネル要覧	1971.7
大学土木教育の方向を探る-その現状と問題点	1969.3	土木技術者のための法律講座(昭和46年夏期講習会)	1971.9
土木材料実験指導書・昭和44年版	1969.3	フープコーン工法設計施工指針(案)(CL.30号)	1971.10
鉄筋コンクリート工場製品設計施工指針(案)	1969.3	鉄道*(わかり易い13)	1971.10
上水道学*(叢書)	1969.4	建設機械*(叢書)	1971.10
フィルムライブラリーの案内 I-1969	1969.4	OECDトンネル会議の全貌と現場視察報告*	1971.10
下水汚泥の処理・処分および利用に関する研究報告書・昭和43年度	1969.4	水理公式集・昭和46年改訂版	1971.11
衛生工学*(わかり易い15)	1969.5	サンフェルナンド地震(1971年2月9日)の震害について-学会論文報告集195号抜刷	1971.11
海岸保全施設設計便覧・改訂版	1969.7	土木製図*(わかり易い20)	1971.12
測量(Ⅰ)*-基礎(わかり易い2)	1969.8	海岸・港湾*(わかり易い17)	1972.3
土質力学*(叢書)	1969.8	下水汚泥の処理・処分および利用に関する研究報告書・昭和46年度	1972.3
Thirteenth Congress of the International Association for Hydraulic Research, Vol. 1-5	1969.8	OSPA工法設計施工指針(案)(CL.31号)	1972.5
BBRV工法設計施工指針(案)(CL.23号)	1969.9	OBC工法設計施工指針(案)(CL.32号)	1972.5
第2回構造用軽量骨材シンポジウム(CL.24号)	1969.10	VSL工法設計施工指針(案)(CL.33号)	1972.5
土木図書館蔵書目録・第4集	1969.11	ダム基礎岩盤グラウチングの施工指針・昭和47年制定	1972.6
トンネル標準示方書解説・昭和44年改訂版	1969.11	鉄筋コンクリート終局強度理論の参考(CL.34号)	1972.8
第5回トンネル工学シンポジウム(TS6号)	1969.11	基礎工(Ⅱ)*(叢書)	1972.8
シールド工法指針・昭和44年制定	1969.12	市街地土木工事の仮設と安全対策(昭和47年度夏期講習会)	1972.8
土木年鑑-1970*	1970.1	農業工学*(わかり易い19)	1972.9
構造実験指導書	1970.2	土木図書館蔵書目録・第6集	1972.10
		河川*(わかり易い16)	1972.11
		コンクリート橋*(叢書)・改訂版	1972.11

遠心力大径プレストレストコンクリート杭設計施工指針案	1972.11	構造力学公式集	1974.12
アルミナセメントコンクリートに関するシンポジウム・施工指針案 (CL. 35号)	1972.12	Proceedings, U. S.-Japan Seminar on Engineering and Environmental Aspects of Waste Heat Disposal.	1974.12
第1回高校土木教育研究委員会会報 (1993 まで 22 回刊行)	1972.12		
地震応答解析と実例	1973. 1	(4) 1975~1984	
プレストレストコンクリート原子炉構造物設計施工要領	1973. 2	下水汚泥の処理・処分および利用に関する研究報告書 (昭和 48, 49 年度)	1975. 3
本州四国連絡橋鋼上部構造に関する調査研究報告書 (昭和 47 年度) 別冊 2-吊橋主塔設計要領 (案)	1973. 3	土木材料実験指導書 (昭和 50 年改訂版) [基礎編]	1975. 3
同 上・別冊 4-鋼上部構造用鋼板の所要性能	1973. 3	港大橋工事誌	1975. 3
同 上・別冊 5-塗装分科会中間報告書	1973. 3	沈埋トンネル耐震設計指針 (案)	1975. 3
同 上・別冊 6-吊橋のねじり解析	1973. 3	橋 (II)* (わかり易い 9)	1975. 4
下水汚泥の処理・処分および利用に関する研究報告書・昭和 47 年度	1973. 3	太径鉄筋 D 51 を用いた鉄筋コンクリート構造物の設計指針 (案)	1975. 6
土木技術者のための振動便覧	1973. 4	土木技術者のための岩盤力学 (昭和 50 年度改訂版)	1975. 7
橋 (I)* (わかり易い 8)	1973. 4	測量 (II)*-応用 (わかり易い 3)	1975. 8
日本土木史 昭和 16 年~昭和 40 年	1973. 4	実務者のための工事管理 (昭和 50 年夏期講習会)	1975. 8
Earthquake Resistant Design for Civil Engineering Structures, Earth Structures and Foundations in Japan-1973	1973. 5	構造力学公式集発刊記念講習会テキスト	1975. 9
ダム基礎岩盤グラウチングの施工実例集	1973. 5	日本の土木技術-近代土木発展の流れ (改訂版)	1975.10
道路* (わかり易い 12)	1973. 7	鉄筋コンクリート設計法の最近の動向 (CL. 41 号)	1975.11
基礎と地盤 (昭和 48 年夏期講習会)	1973. 8	土木計画学の領域と構成* (土木計画学シリーズ II)	1976. 1
海洋鋼構造物設計指針 (案) 解説	1973. 8	斜張橋資料集成	1976. 2
シールド工用標準セグメント-鋼製セグメント・コンクリート系セグメント*	1973.11	水理公式集例題集	1976. 2
第7回トンネル工学シンポジウム (TS 8 号)	73.11	青函トンネル土工研究調査報告書 (昭和 50 年度)	1976. 3
第1回環境システム研究論文集 (1993 まで 21 回刊行)	1973.12	平板載荷による原位置岩盤の変形試験法の基準	1976. 4
明治以前日本土木史 第3刷*	1973.12	海上作業足場の設計要領	1976. 5
本州四国連絡橋鋼上部構造に関する調査研究報告書 (昭和 48 年度) 別冊 1-補剛材つき圧縮板の設計要領 (案)	1974. 3	土木製図基準 (昭和 51 年版)	1976. 5
同 上・別冊 2-本州四国連絡橋の疲労設計	1974. 3	地下構造物の設計と施工 (昭和 51 年夏期講習会)	1976. 8
同 上・別冊 3-本州四国連絡橋の防錆塗装	1974. 3	建設プロジェクトの進め方	1976. 9
同 上・別冊 4-アーチの解析と吊橋解析の追補	1974. 3	プレストレストコンクリート原子炉構造物設計・施工要領解説	1976. 9
同 上・別冊 5-鋼上部構造の工場製作における品質管理	1974. 3	構造物の安全性, 信頼性	1976.10
鋼鉄道橋設計標準解説・1974 年改訂版	1974. 4	わが国におけるトンネル掘進機の実績と展望	1976.10
発電工学* (わかり易い 18)	1974. 9	創立 60 周年記念土木学会略史 1914~1975	1976.11
コンクリート標準示方書・昭和 49 年度版	1974. 9	第1回日本土木史シンポジウム講演集 (1980 まで 7 回刊行, 中止)	1976.11
同 上・解説	1974. 9	第1回電算機利用 (土木情報システム) シンポジウム講演集 (1993 まで 18 回刊行)	1976.11
SEEE 工法設計施工指針 (案) (CL. 36 号)	1974. 3	海洋コンクリート構造物設計施工指針 (案) (CL. 42 号)	1976.12
日本の土木地理*-国土への理解と認識のために	1974. 8	昭和 49 年制定コンクリート標準示方書 (昭和 52 年版)	1977. 1
コンクリート標準示方書 (昭和 49 年版) 改訂資料 (CL. 37 号)	1974. 9	同 上・解説	1977. 1
コンクリートの品質管理 (CL. 38 号)	1974. 9	開削トンネル指針 (昭和 52 年制定)	1977. 1
膨張性セメント混和材を用いたコンクリートに関するシンポジウム (CL. 39 号)	1974.10	トンネル標準示方書 (シールド編)・同解説 (昭和 52 年版)	1977. 1
海外建設工事の契約・仕様	1974.10	トンネル標準示方書 (山岳編)・同解説 (昭和 52 年版)	1977. 1
土木工学ハンドブック* (上・中・下巻・資料編)	1974.11	関門橋設計計算書*	1977. 3
土木図書館蔵書目録・第7集	1974.11	関門橋工事報告書	1977. 3
土木技術フィルムリスト-1974	1974.11	土木材料実験指導書 (基礎編) 昭和 52 年改訂版	1977. 3
土木工学における数値解析* 基礎編 (サイエンス・ライブラリー情報電算機 27)	1974.11	土木材料実験指導書 (基礎編・応用編) 昭和 52 年改訂版	1977. 3
同 上・計画手法編 (同 上 28)	1974.11	トンネル標準示方書 (山岳編) 同解説 昭和 52 年版	1977. 3
同 上・変形応力解析編 (同 上 29)	1974.11	東京港トンネル工事誌	1877. 3
同 上・流体解析編 (同 上 30)	1974.11	土木図書館蔵書目録・第8集	1977. 3
国鉄建造物設計標準解説・1974 年版	1974.11	鉄道工学* (叢書)	1977. 5
		土木学会誌・論文報告集総索引 1915~1975	1977. 6
		青函トンネル土工研究調査報告書	1977. 7
		最近の河川・砂防計画 (昭和 52 年夏期講習会)	1977. 8

太径鉄筋 D 51 を用いる鉄筋コンクリート構造物の設計指針 (CL. 43 号)	1977. 8	測量実習指導書 昭和 55 年版	1980. 4
ダム地質調査	1977. 9	無筋および鉄筋コンクリート標準示方書 (昭和 55 年制定) 改訂資料 (CL. 46 号)	1980. 4
衛生工学実験指導書 (プロセス編)	1977.11	高強度コンクリート設計施工指針 (案) (CL. 47 号)	1980. 4
Earthquake Resistant Design for Civil Engineering Structures, Earth Structures and Foundations in Japan-1977	1977.12	地下貯油施設技術指針 (案)	1980. 5
製図のかき方-線の引き方から透視図のかけるまで	1978. 3	道路 (II)-計画と幾何設計-* (新体系 62)	1980. 5
土木計画学の成立と背景* (土木計画学シリーズ I)	1978. 3	貯蔵タンク・サイロ* (新体系 95)	1980. 5
鋼構造架設計指針	1978. 5	建設プロジェクトの分析と評価	1980. 5
高炉スラグ砕石コンクリート設計施工指針 (案)	1978. 5	土木測量* (新体系 51)	1980. 6
ダム地質調査	1978. 5	橋梁上部構造 (III)-コンクリート橋-* (新体系 43)	1980. 6
コンクリート工学 (I)* 施工 新訂版 (わかり易い 10)	1978. 6	契約・積算* (新体系 97)	1980. 7
衛生工学* 新訂版 (わかり易い 15)	1978. 6	ダムの設計* (新体系 75)	1980. 7
第 1 回土木計画学研究・講演集 (1993 まで 16 回刊行)	1979. 1	特殊コンクリート* (新体系 30)	1980. 8
プレストレストコンクリート標準示方書 (昭和 53 年制定)	1979. 1	第 1 回環境問題ワークショップ講演集 (1987 までに 8 回刊行)	1980. 8
コンクリート工学 (II)* 設計 (わかり易い 11)	1979. 1	港湾施設設計* (新体系 82)	1980. 9
土木計画における最適化* (土木計画学シリーズ IV)	1979. 2	港湾施設の施工* (新体系 83)	1980. 9
土木材料実習指導書 (基礎編・応用編) 昭和 54 年版	1979. 3	上水道* (新体系 88)	1980. 9
土木計画における予測と計量化* (土木計画学シリーズ III)	1979. 5	Earthquake Resistant Design for Civil Engineering Structures, Earth Structures and Foundations in Japan-1980	1980. 9
仮設構造物の計画と施工	1979. 6	鋼構造物の製作と施工* (新体系 39)	1980.10
プレストレストコンクリート標準示方書解説資料 (CL. 44 号)	1979. 7	砂防・地すべり・急傾斜地崩壊* (新体系 77)	1980.10
土木工事管理* (新体系 98)	1979. 9	下水道* (新体系 89)	1980.11
エネルギー施設 (II)-火力・原子力発電, 都市ガス, 石油精製*- (新体系 94)	1979. 9	エネルギー施設 (I)-水力発電, 送変電-* (新体系 93)	1980.11
海洋施設の設計と施工* (新体系 85)	1979.10	コンクリート工学 (II)* 設計 新訂版 (わかり易い 11)	1980.11
基礎工 (II)-特殊工法-* (新体系 46)	1979.10	鉄道 (III)-都市鉄道, 特殊鉄道-* (新体系 68)	1980.12
軟岩の調査・試験の指針	1979.10	ダムの施工* (新体系 76)	1980.12
地域計画 (I)-計画の分析-* (新体系 53)	1979.11	Proc. of the 3rd International Symposium on Stochastic Hydraulics, Tokyo, August 5-7, 1980	1980.12
構造物の振動解析* (新体系 10)	1979.11	土木施工-計画と施工技术-* (新体系 99)	1981. 1
鉄筋コンクリート構造物の設計と施工* (新体系 33)	1979.11	フレッシュコンクリート, 硬化コンクリート* (新体系 29)	1981. 1
弾性体の力学* (新体系 6)	1979.12	海の波の水理* (新体系 24)	1981. 1
廃棄物処理* (新体系 91)	1979.12	歴青系材料* (新体系 27)	1981. 2
膨張コンクリート設計施工指針 (案) (CL. 45 号)	1979.12	港湾計画* (新体系 81)	1981. 2
構造物の非弾性解析* (新体系 8)	1980. 1	漂砂と海岸保全施設* (新体系 79)	1981. 3
鉄道 (II)-線路, 防災, 電気設備-* (新体系 67)	1980. 1	自動作画の基礎技術	1981. 3
トンネル (I)-山岳トンネル-* (新体系 70)	1980. 1	構造力学公式集例題集	1981. 3
コンクリート材料* (新体系 28)	1980. 2	航空写真のみかた	1981. 3
道路 (III)-構造-* (新体系 63)	1980. 2	衛生工学実験指導書 (現場調査編)	1981. 3
鉄道 (I)-建設, 停車場, 新幹線-* (新体系 66)	1980. 3	プレストレストコンクリートの力学* (新体系 34)	1981. 4
環境保全 (II)-環境の制御・管理-* (新体系 87)	1980. 3	構造物の耐震解析* (新体系 11)	1981. 4
密度流の水理* (新体系 22)	1980. 3	コンクリート構造の限界状態設計法試案 (CL. 48 号)	1981. 4
汚泥処理上からみた合理的浄水方法	1980. 3	社会資本と公共投資* (新体系 49)	1981. 5
土木技術フィルムリスト (1980 年版)	1980. 3	都市計画 (III)-都市計画事業-* (新体系 57)	1981. 5
土木計画のシステム分析* (新体系 52)	1980. 3	土木構造設計法* (新体系 12)	1981. 6
全国土木系大学教員・教員名簿 1980 (1994 まで 1~2 年おきに刊行)	1980. 3	環境保全 (I)-環境の指標と評価-* (新体系 86)	1981. 6
土質実験指導書 (昭和 55 年版)	1980. 3	第 1 回日本土木史研究発表会講演集 (1990, 土木史研究と改題し 1993 年まで 13 回刊行)	1981. 6
土木材料実験指導書 (基礎編・応用編) (昭和 55 年版)	1980. 3	土の力学 (IV)-応力分散, 安定, 変形-* (新体系 19)	1981. 7
基礎工 (I)-構造物の基礎-* (新体系 45)	1980. 4	土の力学 (III)-圧密, せん断, 動的解析-* (新体系 18)	1981. 8
昭和 49 年制定コンクリート標準示方書 (昭和 55 年改版)	1980. 4	土木工事の積算と実際	1981. 9
同上・解説	1980. 4	構造用鋼材* (新体系 37)	1981. 9
亜鉛めっき鉄筋を用いる鉄筋コンクリートの設計施工指針 (案)	1980. 4	施工* 新訂版 (わかり易い 14)	1981. 9
		交通需要予測ハンドブック*	1981.10

エネルギー計画* (新体系 92)	1981.10	これからの土木技術-技術開発の展望-(第18回夏	1983. 8
確率・統計解析* (新体系 2)	1981.11	期講習会)	
土質工学* 新訂版 (わかり易い6)	1981.12	土質工学における予測	1983. 9
海岸・港湾* 新訂版 (わかり易い17)	1981.12	数値計算法* (新体系 1)	1983. 9
土地造成 (1) 宅地造成* (新体系 78-1)	1981.12	有限要素法* (新体系 3)	1983.10
土地造成 (2) 埋立* (新体系 78-2)	1981.12	流動化コンクリート施工指針 (案) (CL. 51号)	1983.10
水文学-確率論的手法とその応用-* (新体系 26)	1982. 1	第1回建設マネジメント問題に関する研究討論会論	1983.11
鉄筋継手指針 (CL. 49号)	1982. 2	文集 (1993 まで 11 回刊行)	
構造実験指導書 (昭和 57 年版)	1982. 2	コンクリート構造物の維持・補修・取壊し* (新体系	1983.11
水理実験指導書 (昭和 57 年版)	1982. 2	36)	
土木材料実験指導書 (応用編) (昭和 57 年版)	1982. 2	コンクリート構造の限界状態設計法指針 (案) (CL.	1983.11
水理学の基礎* (新体系 21)	1982. 2	52号)	
水処理-単位操作と産業用水・廃水-* (新体系 90)	1982. 3	工事災害と安全対策* (新体系別 2)	1983.12
海外建設プロジェクトと建設輸出* (新体系別 1)	1982. 4	原位置岩盤の変形およびせん断試験の指針-解説と	1983.12
応用力学 (II)* (わかり易い5)	1982. 4	設計への適用-	
構造物の耐震解析* (新体系 10)	1982. 4	海洋土質* (新体系 84)	1984. 1
プレストレストコンクリート構造物の設計と施工*	1982. 5	トンネル (II)-開削, シールド, 沈埋-* (新体系 71)	1984. 2
(新体系 35)		測量実習指導書 昭和 59 年版	1984. 3
美しい橋のデザインマニュアル	1982. 6	土木材料実験指導書 (基礎編) 昭和 59 年版	1984. 3
近代土木技術の黎明期	1982. 6	同上 (応用編) 同上	1984. 3
土木施工と情報	1982. 7	道路 (V)-維持管理-* (新体系 65)	1984. 3
海外在住土木技術者名簿 1982	1982. 7	フライアッシュを混和したコンクリートの中性化と	1984. 3
Concrete Libraly International, Vol. 1 (1993 まで	1982. 7	鉄筋の発錆に関する長期研究 (第二次) (CL. 53号)	
Vol. 22 刊行)		鉄筋コンクリート構造物の設計例 (CL. 54号)	1984. 4
土木景観計画* (新体系 59)	1982. 8	土地地質* (新体系 14)	1984. 5
建設機械* (新体系 100)	1982. 8	空港* (新体系 69)	1984. 5
開削トンネル指針に基づいた仮設構造物の設計計算	1982. 8	土木計画における総合化* (土木計画学シリーズV)	1984. 7
例 (TL 1号)		土木技術の発展と社会資本に関する研究*	1984. 7
応用力学 (I)* (わかり易い4)	1982. 9	土木学会投稿の手引き-1984 年版-	1984. 7
構造物の座屈・安定解析* (新体系 9)	1982. 9	土の力学 (II)*-特殊土・締固め・土と水 (新体系 17)	1984. 9
道路* (わかり易い12)	1982. 9	大正 12 年関東大地震震害調査報告書 (1~3 巻) 復	1984. 9
コンクリート工学 (I)* 施工 新訂版 (わかり易い	1982.10	刻版*	
10)		鉄筋継手指針* (その 2) (CL. 55号)	1984. 9
河川* 新訂版 (わかり易い16)	1982.10	Earthquake Resistant Design for Civil Enginee-	1984. 9
海岸・港湾* 新訂版 (わかり易い17)	1982.10	ring Structures in Japan-1984	
鉄筋コンクリートの力学* (新体系 32)	1982.11	道路 (IV)-付属施設-* (新体系 64)	1984.10
シールド工用標準セグメント*	1982.11	国土調査*-地域の調査と分析- (新体系 50)	1984.11
屋外タンク貯蔵所基礎の規制基準解説*	1983. 1	土木学会略史 1914-1984	1984.11
高炉スラグ細骨材を用いたコンクリートの設計施工	1983. 2	国づくりのあゆみ* (Gくらしと土木 1)	1984.11
指針 (案)		電子計算処理* (新体系 4)	1984.12
鋼構造架設施工指針	1983. 2	ロックボルト吹付コンクリートトンネル工法	1984.12
フレッシュコンクリートの物性値の測定ならびに挙	1983. 3	(NATM)の手引書 (TL 2号)	
動に関するシンポジウム論文集		軟岩-調査・設計・施工の基本と事例-	1984.12
コンクリートの製造と施工* (新体系 31)	1983. 3	Trans. of the Construction Management Comm	1984.-
鋼繊維補強コンクリート設計施工指針 (案) (CL. 50	1983. 3	ittee (1993 まで Vol. 5 刊行)	
号)			
第1回建設用ロボット技術講習会テキスト (1994 まで	1983. 4	(5) 1985~1994. 3	
12 回刊行)			
道路 (I)-交通流-* (新体系 61)	1983. 4	水理公式集 (昭和 60 年版)	1985. 1
Journal of Hydrosceince and Hydraulic, Vol. 1	1983. 4	トンネル (Gくらしと土木 5)	1985. 2
(1993 まで Vol. 10 刊行)		橋梁下部構造* (新体系 44)	1985. 2
国鉄建造物設計標準解説-鉄筋コンクリート構造物	1983. 5	土木図書館図書目録	1985. 3
および無筋コンクリート構造物, プレストレストコ		山と川と海* (Gくらしと土木 2)	1985. 3
ンクリート鉄道橋		構造工学論文集・Vol.31 A (1993 まで年 1 回刊行)	1985. 3
国鉄建造物設計標準解説-鋼鉄道橋, 鋼とコンク	1983. 5	エネルギー* (Gくらしと土木 4)	1985. 4
リートとの合成鉄道橋		第1回最近の施工技術講習会テキスト (1993 まで 8	1985. 4
構造物の弾性解析* (新体系 7)	1983. 6	回刊行)	
トンネルの地質調査と岩盤計測	1983. 7	人工軽量骨材コンクリート設計・施工マニュアル	1985. 5
地域計画 (II)*-計画の作成と実施- (新体系 54)	1983. 7	(CL 56号)	
		交通* (Gくらしと土木 3)	1985. 5
		都市* (Gくらしと土木 8)	1985. 6

第1回施工体験発表会講演概要(1993まで13回刊行)	1985.6	メントー米国における建設マネジメントのめざすものー	
橋*(Gくらしと土木6)	1985.7	第1回施工トラブルとその対策講習会概要(1990まで4回刊行)	1987.9
土と防災ー自然と防災ー	1985.7	座屈設計ガイドライン	1987.10
ダム*(Gくらしと土木7)	1985.8	土質工学における情報化施工研究報告書	1987.10
原子力発電所地質・地盤の調査・試験法および地盤の耐震安定性の評価手法報告書(10分冊)	1985.8	日本の海岸と港湾(スライド)	1987.10
土木技術者のための振動便覧(改訂版)	1985.10	橋梁の計画と管理*(新体系40)	1987.10
岩盤力学*(新体系20)	1985.10	第1回建設コンサルタントシンポジウム(1993まで7回刊行)	1987.11
コンクリートのポンプ施工指針(案)(CL57号)	1985.11	環境アセスメント*(新体系別3)	1987.12
土木行政と関連制度*(新体系48)	1985.12	鋼構造物設計指針PART A 一般構造物	1987.12
街路の景観設計*	1985.12	鋼構造物設計指針PART B 特定構造物	1987.12
建設業の国際化とその対応	1985.12	土質工学における情報化施工に関するシンポジウム講演論文集	1988.1
第1回新しい材料・工法・機械 講習会講演概要(1991まで5回刊行)	1986.1	建設の情報化の現状と将来ーAIエキスパートシステム	1988.1
土木工事標準検測方法(セスムCESMM)	1986.2	高炉スラグ微粉末を用いたコンクリートの設計施工指針(案)(CL63号)	1988.2
エポキシ樹脂塗装鉄筋を用いる鉄筋コンクリートの設計施工指針(案)(CL58号)	1986.2	土木学会誌・論文集総索引ー1976~85ー	1988.2
国鉄建造物設計標準解説(基礎構造物・抗土圧構造物)	1986.2	フライアッシュを混和したコンクリートの中性化と鉄筋の発錆に関する長期研究(最終報告)(CL64号)	1988.3
フレッシュコンクリートの物性と施工への適用シンポジウム論文集	1986.3	Standard Specification of Design and Construction of Concrete StructuresーPart 1 (Design)	1988.3
橋梁上部構造*(Ⅱ)ー吊橋ー(新体系42)	1986.3	土木情報処理の基礎ーFOTRAN 77に即してー	1988.3
流体力*(新体系25)	1986.4	橋梁上部構造*(Ⅰ)ー鋼橋ー(新体系41)	1988.4
移動床流れの水力*(新体系23)	1986.4	都市計画*Ⅱー土地利用ー(新体系55)	1988.4
連続ミキサによる現場練りコンクリート施工指針(案)(CL59号)	1986.5	土の力学*(Ⅰ)ー土の分類・物性化学的性質ー(新体系16)	1988.5
構造力学公式集(改訂版)	1986.6	国際建設契約約款の基礎(第Ⅰ部・第Ⅱ部)	1988.5
マタディ橋工事誌	1986.6	連続体の力学*(新体系5)	1988.5
衛生工学実験指導書(プロセス編)[改訂版]	1986.7	孔内載荷試験法の現状と課題ー指針化の試みー	1988.5
昭和61年改訂トンネル標準示方書(開削編)・同解説	1986.7	Standard Specification of Design and Construction of Concrete StructuresーPart 2 Constructionー	1988.6
同上(シールド編)・同解説	1986.7	建設支援のための土木情報システムⅠ	1988.8
アンダーソン工法設計施工要領(案)	1986.9	構造システムの最適化ー理論と応用ー	1988.9
第1回合成構造の活用に関するシンポジウム講演論文集	1986.9	水力公式集例題集(昭和60年版)	1988.9
1983年日本海中部地震震害調査報告書	1986.10	土木計測*(新体系13)	1988.9
ダムの地質調査(改訂版)	1986.10	河川の計画と調査*(新体系73)	1988.10
海岸・港湾調査法*(新体系80)	1986.10	第1回地下空間利用シンポジウム講演集(1993まで5回刊行)	1988.10
コンクリート標準示方書(昭和61年制定)改訂資料(CL61号)	1986.10	環境アセスメント*(新体系別3)	1988.12
土木技術フィルムリスト1986	1986.10	水辺の景観設計*	1988.12
昭和61年改訂トンネル標準示方書(山岳編)・同解説	1986.10	構造物のライフタイムリスクの評価	1988.12
昭和61年制定コンクリート標準示方書(設計編・施工編・舗装ダム編・土木学会規準編4分冊)	1986.10	鋼・コンクリート合成構造の設計ガイドライン	1989.1
鋼構造物の設計*(新体系38)	1986.11	建設分野における新材料とその展望	1989.2
青函トンネルの注入技術	1986.11	都市計画(Ⅱ)ー都市施設* (新体系56)	1989.3
海外交通プロジェクトの評価*	1986.12	土構造*(新体系47)	1989.4
1985年メキシコ地震の被害とその復旧	1986.12	土木製図基準(平成元年改訂版)	1989.4
未来に生かす土木構造物ー土木構造物の寿命を考えるー	1987.1	動的解析と耐震設計*(全4巻)	1989.6
土質試験法*(新体系15)	1987.2	1.地震動・動的設計, 2.動的設計の方法, 3.エネルギー施設, 4.ライフライン施設	~7
トンネル用語辞典(TL3号)	1987.3	コンクリート教育の現状と展望に関するシンポジウム講演論文集	1989.7
土木材料実験指導書(基礎編)・(応用編)[改訂版]	1987.3	コンクリート構造物の耐久設計指針(試案)(CL65号)	1989.8
高炉スラグ微粉末のコンクリートへの適用に関するシンポジウム講演集	1987.3	第2回合成構造の活用に関するシンポジウム講演論文集	1989.9
鋼橋の維持管理のための設備	1987.3	構造物の振動解析*(新体系10)	1989.10
PC合成床版工法設計施工指針(案)(CL62号)	1987.4		
トンネルにおける調査・計測の評価と利用	1987.6		
プロフェッショナル・コンストラクション・マネージ	1987.7		

第1回システム最適化に関するシンポジウム論文集 (1993 まで 3 回刊行)	1989.11	太径ねじふし鉄筋 D 57 および D 64 を用いる鉄筋コンクリート構造物の設計施工指針 (案) (CL 71 号)	1992. 1
材料特性の数理モデル入門 - 構成則主要用語解説集	1989.11	第1回環境システムシンポジウム講演集 (1994 まで 3 回刊行)	1992. 1
土木工学ハンドブック (第4版)* (上・下)	1989.11	土木材料実験指導書「基礎編」(改訂版)	1992. 2
新しい潮流と土木への期待	1989.12	同 上・「応用編」(改訂版)	1992. 2
波エネルギー利用技術の現状と将来展望	1990. 1	土木モニュメント見て歩き	1992. 2
土木技術者のための高レベル放射性廃棄物地層処分 の現状と技術的課題	1990. 1	構造デザイン	1992. 3
石炭灰の土木材料としての利用技術と将来展望	1990. 3	土質試験のてびき	1992. 3
道路深層地下利用技術の現状と課題	1990. 3	関西国際空港の施工技術	1992. 3
エネルギー土木設備の維持管理技術	1990. 3	連続繊維補強材のコンクリート構造物への適用に関 するシンポジウム講演論文報告集	1992. 4
エネルギー土木と環境問題	1990. 3	連続繊維補強材のコンクリート構造物への適用 (CL 72 号)	1992. 4
風工学における流れの数値計算に関する研究論文集	1990. 3	ダムの岩盤掘削	1992. 4
超電導エネルギー貯蔵発電 (SEMS) と土木技術	1990. 5	舗装機能の評価法	1992. 5
圧縮空気貯蔵発電システム (CAES) と土木技術	1990. 7	風工学における流れの数値シミュレーション法入門	1992. 5
地球環境の保全に対する土木の役割	1990. 7	初期地圧測定法の現状と課題	1992. 6
土木資料百科* (新体系 4)	1990. 7	これからの土木に生かすニューテクノロジー - 土木 と学際領域 -	1992. 7
京葉都心線地下部の計画と施工	1990. 7	熱環境セミナー講演集	1992. 7
水中分離性コンクリートに関するシンポジウム講演 集	1990. 8	鋼コンクリートサンドイッチ構造設計指針 (案) (CL 73 号)	1992. 8
AI で描く未来 - 土木 AI 進化論 -	1990. 9	Earthquake Resistant Design for Civil Enginee- ring Structures in Japan, 1992	1992. 8
鋼床版の疲労	1990. 9	海岸工学用語集	1992. 8
鋼斜張橋 - 技術とその変遷 -	1990. 9	基礎・地盤・構造物系の動的相互作用	1992. 9
ニューフロンティア・地下空間*	1990.10	原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震設計に関す る安全性照査マニュアル	1992. 9
国際建設プロジェクトの進め方	1990.10	建設事業の国際化講習会資料	1992.10
交通整備制度 - 仕組と課題* -	1990.11	建設支援のための土木情報システム II	1992.10
NATM とシールド工法の境界領域に関するシンポ ジウム講演集	1990.12	地球環境委員会設立シンポジウム資料集 - 地球環境 研究の現状 第1号 -	1992.10
パイプライン* (新体系 96)	1990.12	くらしとどばくのガイドブック - 全国の記念館・PR 館・図書館 -	1992.11
シビックデザインを考える	1991. 1	土木情報処理の基礎 II - Basic, Pascal, C に則して	1992.12
土木施工 Q & A 200	1991. 2	フォース橋の 100 年	1992.12
学術用語集 - 土木工学編 -	1991. 2	軟岩評価 - 調査・設計・施工への適用	1992.12
第1回落石等による衝撃問題に関するシンポジウム 講演集	1991. 3	地区交通計画*	1992.12
プレストレストコンクリート工法設計施工指針 (CL 66 号)	1991. 3	交通計画* (新体系 60)	1993. 1
水中不分離性コンクリート設計施工指針 (案) (CL 67 号)	1991. 5	環境微生物工学研究法*	1993. 4
コンクリートの現状と将来 (CL 68 号)	1991. 5	東京湾横断道路の施工技術	1993. 4
長大橋下部工の施工技術	1991. 6	美しい橋のデザインマニュアル 第2集	1993. 4
堤防の設計と施工* - 海外の事例を中心として - (新 体系 74)	1991. 7	流動化コンクリート設計施工指針 (案) (CL 74 号)	1993. 5
コンクリート教育の取り組み方シンポジウム論文集	1991. 7	土木図書館図書目録 (追補版)	1993. 5
新地球時代におけるエネルギーとその展望	1991. 7	土木図書館雑誌目録	1993. 5
第1回振動制御に関するコロキウム講演集	1991. 7	水資源* (新体系 72)	1993. 6
都市空間論* (新体系 58)	1991. 8	フィリピン・ルソン島地震震害報告	1993. 6
新しい時代の契約方式 - VE と CM -	1991. 9	コンストラクションクレーム - 予防と解決 - (第2 版)	1993. 6
平成3年度版コンクリート標準示方書 (設計編・施 工編・規準編)	1991. 9	トンネル標準示方書 (開削編) に基づいた仮設構造 物の設計計算例 (TL 4 号)	1993. 6
土木工学における非破壊評価シンポジウム講演集	1991.10	第2回落石等による衝撃問題に関するシンポジウム 講演集	1993. 6
建設支援のための土木情報システム (II)	1991.10	膨脹コンクリート設計施工指針 (案) (CL 75 号)	1993. 7
第2回システム最適化に関するシンポジウム講演論 文集	1991.11	高炉スラグ骨材コンクリート設計施工指針 (案) (CL 76 号)	1993. 7
軟岩の調査・試験の指針 (1991 年度版)	1991.11	第1回地球環境シンポジウム講演集 1993	1993. 7
交通整備制度 - 仕組と課題* (改訂版)	1991.11	21 世紀に向けて - 技術開発の方向を探る -	1993. 7
人工島の施工技術	1991.11	第2回振動制御に関するコロキウム PART A, B	1993. 8
大学土木教育委員会 - 第VI期委員会報告	1991.11	鋼構造物の弾塑性性状と耐震設計法	1993. 8
港の景観設計*	1991.12		
第1回トンネル工学研究論文・報告集 (1993 まで 3 回刊行)	1991.12		
ウォーターフロント開発シンポジウム講演論文集	1992. 1		

のぞいてみようドラえもんの土木のひみつ*	1993. 9
地下揚水発電 (UPHS) と土木技術-その現状と技術的課題-	1993.10
吉田徳次郎先生の御遺徳を偲んで	1993.11
フェロニッケルスラグ細骨材コンクリート設計施工指針 (案) (CL 78号)	1994. 1
鉄筋のアモルファス接合継手設計指針 (案) (CL 77号)	1994. 2
構造物の衝撃挙動と設計法	1994. 1
明治以前日本土木史* (第4刷)	1994. 2
補助工法 (TL 5号)	1994. 3
海岸波動-波・構造物・地盤の相互作用の解析	1994. 3
地球温暖化の沿岸影響	1994. 3

注: TS・トンネル工学シリーズ, TL・トンネルライブラリー, 叢書・土木工学叢書, わかり易い・わかり易い土木講座, 新体系・新体系土木工学, Gくらしと土木・グライフックスくらしと土木, の略称
* 本会編集・監修出版物

(6) 主要シリーズ出版物

●土木工学叢書 (全16巻)●

社文社・技報堂

巻	書名	著者名	発行年
1	下水道学 (前編)	杉戸 清	1948
2	下水道学 (前編)	廣瀬孝六郎	1949
3	木構造学	福田 武雄	1949
4	鋼橋 (1)	平井 敦	1950
5	鉄道線路	岡田 信次	1950
6	鉄筋コンクリート橋	横道 英雄	1952
7	下水道学 (後編)	杉戸 清	1953
8	応用力学	岡本 舜三	1954
9	鋼橋 (3)	平井 敦	1956
10	道路工学	片平 信貴	1956
11	機械化土工 ・コンクリート橋・鉄筋コンクリート橋・プレストレストコンクリート橋 (全訂版)	種谷 実 横道 英雄	1957 1962
12	下水道学	石橋 多聞	1969
13	土質力学	最上 武雄	1969
14	建設機械 ・コンクリート橋 (改訂版)	加藤三重次 横道 英雄	1971 1972
15	基礎工	白石 俊多	1972
16	鉄道工学	沼田 政矩・八十島義之助	1977

注: 1~5 社文社, 6~16 技報堂

●わかり易い土木講座 (全20巻)●

彰国社

巻	書名	著者名	発行年
1	数 学	大地 羊三・染 谷 弘	1969
2	測量 (I) 基礎	山 田 晃 長谷川 博・大島 太市	1969
3	測量 (II) 応用	原田 静男 大島 太市・柴田 耕爾	1975
4	応用力学 (I)	春日屋伸昌・小林 長雄	1968
5	応用力学 (II)	畑中 元弘・高 端 宏直	1970
6	土質力学*	箭内 寛治・浅川 美利	1968
7	水 理	嶋 祐之・三宅 政光 山本 宏	1971

8	橋 (I)	堀井健一郎・長井 敬二	1973
9	橋 (II)	西脇 威夫・小池 修二 多田 安夫	1975
10	コンクリート工学 (I) 施工*	樋口 芳朗・村田 二郎 小林 春夫	1968
11	コンクリート工学 (II) 設計*	後藤 幸正・尾坂 芳夫	1979
12	道 路*	伊吹山四郎・高橋国一郎	1973
13	鉄 道	毛利 正光 天野 光三・佐藤 吉彦 野沢 太三	1971
14	施 工*	白石 俊多・鷺森 喜重	1971
15	衛生工学*	合田 健・津郷 勇 山本 剛夫	1969
16	河 川*	細井 正延・稲田 裕 橋本 清	1972
17	海岸・港湾*	合田 良実・佐藤 昭二	1972
18	発電工学	千秋 信一・川島 賢一 細谷 浩正・前田 弘	1974
19	農業工学	鈴木 重義・林 弘人	1972
20	土木製図	下石坂克典・長尾 守	1971

注: * は改訂版発行, 発行年は第1刷を示す。

●新体系土木工学 (全105巻・別巻5巻)● 技報堂出版

巻	書名	編著者名	発行年月
1	数値計算法	林 正・浜田 政則	1983. 9
2	確率・統計解析	亀田 弘行・池淵 周一 春名 攻	1981.10
3	有限要素法	吉田 裕・川原 睦人	1983.10
4	電子計算処理	岩松 幸雄	1984.12
5	連続体の力学	白石 成人・大西 有三 谷口 健男	1988. 5
6	弾性体の力学	秋山 成興	1979.12
7	構造物の弾性解析	西野 文雄・長谷川彰夫	1983. 6
8	構造物の非弾性解析	太田 俊昭	1980. 1
9	構造物の座屈・安定解析	福本 誘士	1982. 9
10	構造物の振動解析	片山 恒雄・宮田 利雄 国井 隆弘	1989.10
11	構造物の耐震解析	土岐 憲三	1982. 4
12	土木構造設計法	尾坂 芳夫・高岡 宣善 星谷 勝	1981. 6
13	土木計測	岡村 甫	1988. 9
14	土木地質	岡本 隆一・緒方 正彦 小島 圭二	1984. 5
15	土質調査法	坂口 理・梅原 靖文	1987. 2
16	土の力学 (I) - 土の分類・物理化学的性質 -	嘉門 雅史・浅川 美利	1988. 5
17	土の力学 (II) - 特殊土・締固め・土と水 -	吉国 洋・宇野 尚雄 柳沢 栄治	1984. 9
18	土の力学 (III) - 圧密・せん断・動的解析 -	足立 紀尚・龍岡 文夫	1981. 8
19	土の力学 (IV) - 応力分散・安定・変形 -	松尾 稔・木村 孟 太田 秀樹	1981. 7
20	岩盤力学	川本 眺万・吉中龍之進 日比野 敏	1985.10

21	水理学の基礎	今本 博健・板倉 忠興	1982. 2	57	市施設-	間瀬 延幸		
22	密度流の水理	高木 不折	1980. 3		都市計画(Ⅲ)-都	支倉 幸二・西 健吾	1981. 5	
23	移動床流れの水理	玉井 信行	1986. 5		市計画事業-	岸井 隆幸		
24	海の波の水理	中川 博次・辻本 哲郎	1981. 3	58	都市空間論	中村 良夫・樋口 忠彦	1991. 8	
25	流体力	首藤 伸夫	1986. 4	59	土木景観計画	窪田 陽一・北村 真一	1982. 8	
26	水文学-確率論的手法とその応用-	荻原 国宏	1982. 1	60	交通計画	篠原 修	1993. 1	
27	暦青系材料	神田 徹・藤田 睦博	1981. 2	61	道路(Ⅰ)-交通流	森地 茂・山形 耕一	1983. 4	
28	コンクリート材料	南雲 貞夫・阿部 頼政	1980. 2	62	道路(Ⅱ)-計画と	越 正毅・明神 証	1980. 5	
29	フレッシュコンクリート-硬化コンクリート	長瀧 重義・町田 篤彦	1981. 1	63	幾何設計-	鈴木 道雄	1980. 2	
30	特殊コンクリート	関 博	1980. 8	64	道路(Ⅲ)-構造-	三谷 浩	1984.10	
31	コンクリートの製造と施工	岩崎 訓明・西林 新蔵	1983. 3	65	道路(Ⅳ)-付属施設-	木倉 正美	1984. 3	
32	鉄筋コンクリートの力学	青柳 征夫	1982.11	66	道路(Ⅴ)-維持管理-	布施 洋一	1980. 3	
33	鉄筋コンクリート構造物の設計と施工	小林 一輔	1979.11	67	鉄道(Ⅰ)-建設、	岡田 宏	1980. 1	
34	プレストレストコンクリートの力学	塚山 隆一・野尻 陽一	1981. 4	68	停車場、新幹線-	伊能 忠敏	1980.12	
35	プレストレストコンクリート構造物の設計と施工	中原 康	1982. 5	69	鉄道(Ⅱ)-線路、	中山 隆・井上 六郎	1984. 5	
36	コンクリート構造物の維持・補修・取壊し	池田 尚治・小柳 洽	1983.11	70	防災、電気設備-	原 慧	1980. 5	
37	構造物用鋼材	角田興史雄	1981. 9	71	トンネル(Ⅰ)-山	平井磨礎夫	1984. 2	
38	鋼構造物の設計	谷内田昌熙・神山 立男	1986.11	72	岳トンネル-	天野 礼二・長友 成樹	1984. 2	
39	鋼構造物の製作と施工	秋元 泰輔	1980.10	73	トンネル(Ⅱ)-開	三好 迪男・岡田 郁生	1993. 6	
40	橋梁の計画と管理	渡辺 明・藤井 学	1987.10	74	削、シールド、沈埋-	鹿田 住雄	1988.10	
41	橋梁上部構造(Ⅰ)-鋼橋-	小林 和夫	1988. 4	75	水資源	椎貝 博美	1991. 7	
42	橋梁上部構造(Ⅱ)-吊橋-	百島 祐信・小原 忠幸	1986. 3	76	河川の計画と調査	西原 巧	1980. 7	
43	橋梁上部構造(Ⅲ)-コンクリート橋-	佐藤 素啓	1980. 6	77	堤防の設計と施工	玉光 弘明・中島 秀雄	1980.12	
44	橋梁下部構造	小村 敏・太田 実	1985. 2	78-1	-海外の事例を中心として-	定道 成美・藤井 友竝	1980.10	
45	基礎工(Ⅰ)-構造物の基礎-	松村駿一郎	1980. 4	78-2	ダム	飯田 隆一	1981.12	
46	基礎工(Ⅱ)-特殊工法-	成瀬 輝男・松下 貞義	1979.10	79	ダムの設計	糸林 芳彦	1981. 3	
47	土構造	堀川 浩甫	1989. 4	80	ダムの施工	吉岡 良朗	1986.10	
48	土木行政と関連制度	篠原 洋司・稲葉 紀昭	1985.12	81	砂防・地すべり急傾斜地崩壊	吉岡 昭雄	1981. 6	
49	社会資本と公共投資	加藤 正晴	1984.11	82	土地造成(上)-宅	酒見 尚雄	1981.12	
50	国土調査-地域の調査と分析-	加藤 正晴	1984.11	83	土地造成(下)-埋立-	酒見 尚雄	1981. 3	
51	土木測量	澤井 廣之	1980. 6	84	漂砂と海岸保全施設	野田英明・橋本 宏	1981. 2	
52	土木計画のシステム分析	西山 啓伸	1980. 3	85	海岸・港湾調査法	合田 良実	1980. 9	
53	地域計画(Ⅰ)-計画の分析-	青木 重雄・和田 克哉	1979.11	86	港湾計画	藤野 慎吾・川崎 芳一	1984. 1	
54	地域計画(Ⅱ)-計画の作成と実施-	青木一二三	1983. 7	87	港湾施設の設計	松並 仁茂	1979.10	
55	都市計画(Ⅰ)-土地利用-	大橋 勝弘・矢作 枢	1988. 4	88	港湾施設の施工	浦江 恭知	1981. 6	
56	都市計画(Ⅱ)-都	上田 勝基・中村 靖	1989. 3	89	海洋土質	中瀬 明男	1980. 4	
		山村 和也・近藤 正		90	海洋施設の設計と施工	北島 昭一		
		新谷 洋二		91	環境保全(Ⅰ)-環境の指標と評価-	高橋 幹二		
		御巫 清泰・森杉 寿芳		92	環境保全(Ⅱ)-環境の制御・管理-	末石富太郎		
		中村 英夫		93	上水道	丹保 憲仁		
		村井 俊治		94	下水道	柏谷 衛		
		吉川 和広			水処理-単位操作と産業用水・廃水-	金子 光美・藤田 賢二		
		山村 悦夫			廃棄物処理	平岡 正勝		
		西藤 冲・中山大二郎			エネルギー計画	吉田 方明		
		横山 浩・池田 禎男			エネルギー施設(Ⅰ)-水力発電・送変電	御牧 陽一		
		黒川 洸・松田慎一郎			エネルギー施設(Ⅱ)	萩原 敏雄		

	ー火力・原子力発電, 都市ガス, 石油精製ー		
95	貯蔵タンク・サイロ	末原 忠司	1980. 5
96	パイプライン	高梨 洋治・武政 茂夫 当麻 純一・山本 正受	1990.12
97	契約・積算	田村 宥・桜田 光雄	1980. 7
98	土木工事管理	山城 孝	1979. 9
99	土木施工ー計画と施工技術ー	湯田坂益利	1981. 1
100	建設機械	澤田 茂良・千田 昌平 本田 宜史	1982. 8
別 ¹	海外建設プロジェクトと建設輸出	石川 六郎	1982. 4
別 ²	工事災害と安全対策	高橋 浩二	1983.12
別 ³	環境アセスメント	千秋 信一	1987.12
別 ⁴	土木資料百科	成岡 昌夫	1990. 7
別 ⁵	土木史	八十島義之助	1994. 6

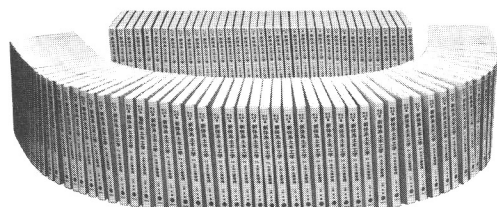


写真 9.3 全 105 巻の新体系土木工学

●マイクロフィッシュ出版物一覧

書名	備考
●海岸工学講演会論文集	1～20回(昭和29年～48年) 115枚
●土木学会論文報告集	1～244号(昭和19年～50年) 488枚
●土木学会誌	1～60巻(大正4年～昭和50年) 1842枚

9.22.2 支部刊行物

(1) 北海道支部

a) 定期刊行物(年1回)

- 論文報告集(技術資料, 研究発表会論文集を改題)
技術資料第1号(1951.10)～第22号(1966.2)年2回
第23号(1967.2)より「研究発表会論文集」(技術資料改題)年1回
第24号(1963.2)～第50号(1994.2), 第30号(1974.1)より「論文報告集」に改題

b) 不定期刊行物

書名	刊行年
講習会 T・北海道の河川における技術的諸問題	1961. 2
同 上・オペレーションズ・リサーチとその応用 他	1962. 2
同 上・鉄筋コンクリートの新発展と PRC 工法	1964. 2
同 上・水理学・河川工学における最近の話題	1964. 2
同 上・ネットワーク・プランニングの使い方 (PERT 基礎編)	1964. 6
同 上・桁における 2, 3 の話題	1965. 2

講習会 T・コンクリートの設計施工の 2, 3 の問題 点他	1967. 3
同 上・河川汚濁の解析ほか	1968. 3
北海道における冬季建設工事実施上の諸問題につ いて(参考資料 No. 2～5)	1968. 3
道路の設計と交通事故(講演概要)	1968. 8
寒地施工の問題点(講演概要)	1968. 8
講習会 T・地震の概論ほか	1969. 3
変動する社会の展望と土木技術者の使命	1969. 9
揚水発電と原子力発電建設の展望と問題点	1969. 9
北の国々の旅からー道路の断熱材工法をたずねて	1969. 12
講習会 T・トンネル技術	1971. 10
同 上・気象と土木技術	1971. 11
同 上・ダム	1971. 12
同 上・都市問題および広域利水	1972. 11
ネットワーク基礎演習	1973. 1
PERT による工程計画と管理	1974. 2
エネルギーと環境問題ー講演会資料	1974. 10
講習会 T・下水道関係	1975. 10
同 上・コンクリート・施工関係	1975. 12
同 上・現場技術者のための土木工事の積算と管 理	1976. 2
同 上・下水道関係	1976. 10
同 上・コンクリート関係	1976. 12
同 上・ネットワーク実技演習	1977. 2
同 上・土木工事に伴う廃水処理	1981. 2
同 上・トンネル(NATM)	1982. 3
同 上・現場技術者のためのマイコンの利用	1983. 3
同 上・土木工事における環境影響評価	1985. 1
同 上・土木と最近のコンピューターについて	1988. 3
ほっかいどう土木技術のあゆみ(50周年記念誌)	1988. 11
講習会 T・1992年度「非破壊評価・検査」に関す る講習会	1993. 1

(2) 東北支部

a) 定期刊行物(年1回)

- 技術研究発表会講演概要
昭和33年度(開始1952.10～不明, 1958.3)～平成5年度
(1994.3)年1回

b) 不定期刊行物

書名	刊行年
創立20周年記念誌	1957. 12
技術者のための最近の水工学	1961. 11
道路講習会講演概要	1962. 7
技術講座 T・土質工学演習	1963. 2
同 上・空中写真測量とその応用	1963. 7
同 上・最近の橋梁形式について	1963. 8
同 上・水資源その他について	1963. 11
同 上・舗装の機械化施工の計画と実施およびそ の問題点	1964. 2
同 上・基礎工のための土質力学	1964. 3
同 上・最近の基礎工法	1964. 3
技術講座テキスト	1965. 3
同 上・品質管理と統計解析	1965. 3
技術講座テキスト	1966. 3
同 上	1966. 10
同 上	1967. 1
同 上	1967. 10
同 上	1968. 10

書名	刊行年
東北の土木史（設立30周年記念出版）	1969. 6
技術講座テキスト	1970. 12
同上	1972. 2
同上	1973. 2
同上	1973. 11
同上	1974. 9
同上	1975. 10
新交通システム講演会講演集	1975. 12
東北地方における昭和51年度公共事業計画についての講演概要集	1976. 5
技術講座テキスト	1976. 10
土工と施工管理に関する講演集	1977. 1
東北地方における昭和52年度公共事業計画についての講演概要集	1977. 5
技術講座テキスト	1977. 11
設立40周年記念誌（記念出版）	1977. 12
東北地方における昭和53年度公共事業計画についての講演概要集	1978. 5
技術講座テキスト	1978. 12
東北地方における昭和54年度公共事業計画についての講演概要集	1979. 4
技術講座テキスト	1979. 10
1978年宮城県沖地震調査報告書	1980. 4
東北地方における昭和55年度公共事業計画についての講演概要集	1980. 4
技術講座テキスト	1980. 11
東北地方における昭和56年度公共事業計画についての講演概要集	1981. 4
技術講座テキスト	1981. 11
東北地方における昭和57年度公共事業計画についての講演概要集	1982. 4
技術講座テキスト	1982. 11
青葉山公園天守台石垣修復調査委託報告書	1983. 3
東北地方における昭和58年度公共事業計画についての講演概要集	1983. 4
技術講座テキスト	1983. 10
日本海中部地震に関するシンポジウム資料集	1983. 11
東北地方における昭和59年度公共事業計画についての講演概要集	1984. 4
東北地方における昭和60年度公共事業計画についての講演概要集	1985. 4
技術講座テキスト	1985. 11
東北地方における昭和61年度公共事業計画についての講演概要集	1986. 4
技術講座テキスト	1987. 10
みちのくの散歩道－土木技術を訪ねて（50周年記念出版）	1987. 11
21世紀への新首都建設・仙台首都構想	1988. 3
技術講座テキスト	1988. 11
ヨーロッパ都市開発調査団（調査報告書）	1988. 11
技術講座テキスト	1989. 10
ヨーロッパ・ウォーターフロント開発調査団（調査報告書）	1989. 11
技術講座テキスト	1990. 10
アメリカ技術開発調査団（調査報告書）	1990. 11
技術講座テキスト	1991. 10
ヨーロッパ構造物調査団（調査報告書）	1991. 11
技術講座テキスト	1992. 10
ヨーロッパ中世土木技術調査団（調査報告書）	1992. 11

(3) 関東支部

a) 定期刊行物（年1回）

・年次研究発表会

第1回（昭和48年度・1994.5）～第21回（平成5年度・1994.3）

・新潟会研究調査発表会（第9回までで研究発表会）

第1回（1983.11）～第11回（1993.11）

b) 不定期刊行物

書名	刊行年
講習会 T・シールド工法の現状と問題点	1965. 7
同上・舗装	1966. 11
同上・新しい工程管理	1966. 11
同上・現場技術者のための測定技術	1966. 12
同上・構造物の基礎	1967. 10
同上・新しい測定技術－写真測量を中心とした	1969. 10
－	－
同上・近代的管理手法の活用	1969. 11
同上・新しい橋梁施工技術	1968. 11
同上・シールド工法と沈埋工法	1968. 11
同上・土留工法	1969. 12
同上・土木構造物の新しい設計法	1970. 12
同上・最近の杭の話題	1972. 2
同上・最近の鋼材の話題	1972. 9
同上・軟弱地盤の設計と施工の問題点	1973. 2
同上・最近の建設機械の話題	1973. 12
同上・土木構造物の最近の諸問題	1974. 8
同上・最近における材料と施工法の話	1975. 3
同上・最近の都市土木における諸問題	1975. 11
同上・最近の施工管理に関する諸問題	1977. 3
同上・失敗例と対策による基礎工事の諸問題	1977. 7
同上・薬液注入工法	1978. 6
同上・機械土工の施工計画と問題点	1978. 10
同上・最近における耐震設計の諸問題	1979. 11
同上・首都圏における土地利用と交通に関する現状と問題	1980. 11
同上・関東地方の土質と土木技術	1981. 4
豪雪の記録（新潟会）	1981. 12
講習会 T・土木施工と情報（管理者のためのコンピュータ入門）	1982. 7
同上・新設計法の考え	1984. 11
豪雪の記録（新潟会）	1984. 12
講習会 T・建設廃棄物に関する問題	1985. 3
同上・土と防災－自然と災害	1985. 10
同上・維持管理分野の現状と展望	1987. 1
同上・建設廃棄物処理の実態と問題点	1988. 9
ランドデザイン（創立25周年記念）	1988. 5
講習会 T・都市 NATM の設計と施工	1989. 1
同上・都市計画概論	1989. 3
土木学会新潟会10周年誌	1989. 9
講習会 T・土木技術フロンティア	1989. 9
同上・土木技術者に求められる資質と素養（1994まで同テーマで5回）	1990. 2
同上・土木景観	1990. 9
Landscape and Civic Design	1990. 9

(4) 中部支部

a) 定期刊行物 (年1回)

・研究発表会講演概要集

昭和28年度(1953.3)～平成5年度(1994.3)

b) 不定期刊行物

講習会 T・明日を拓く土木・中部の21世紀を探る	1992. 2
同上・地震被害と教訓	1992. 9
技術講座 T・構造物設計における最近の話題	1992. 10
講習会 T・水域エコロジーの現状と将来展望	1993. 1

(5) 関西支部

a) 定期刊行物 (年1回)

・年次学術講演会講演概要

昭和34年度(1959.11)～平成6年度(1994.5)

・支部だより (年2回)

No.1 (1972.12)～No.44 (1993.12)

書名	刊行年
防災工学	1955
道路工学	1956
建設工事の施工と工事管理	1959
ORと基礎工について	1961
水工学技術講座テキスト	1968. 8
講習会 T・土木工事の計画と管理	1989. 2
講演概要・高速道路(東名)の計画と施工	1969. 6
同上・高瀬川筋電源開発構想, 長野大橋恵那山	1969. 11
飯田側補助トンネルにおける R.T.M 試験工事-	
橋梁工学講座	1970. 8
技術講座 T・衣浦港連絡道路, 富士山大沢崩れの	1971. 8
調査と工事計画, 長良川河口堰, 名古屋港コンテ	
ナ埠頭整備	
講習会 T・土木構造物の耐震と地震防災, ロス地	1972. 2
震における道路橋とダムの破壊, 地すべりの型と	
対策, のり面の実態調査	
技術講座 T・土質工学講座	1972. 8
講演集・衣浦港沈埋トンネル工事	1973. 7
講習会 T・恵那山トンネルの計画・施工・管理等	1974. 7
について	
技術講座 T・水問題を考える	1974. 8
講習会 T・都市土木における環境対策	1976. 2
木曾三川治水利水の歴史	1976. 3
技術講座 T・土木製図の書き方	1976. 8
講習会 T・環境予測と対策	1976. 11
土木学会中部支部40年誌	1978. 4
技術講座 T・機械土工の計画	1978. 11
土木学会中部支部40年誌続編	1979. 3
中部における土木教育について	1979. 4
技術講座 T・現場技術者のための総合測量	1980. 11
講習会 T・交通計画における最近の諸問題	1982. 7
同上・水工学における最近の知見	1983. 7
技術講座 T・廃棄物処理処分に関する技術講座	1983. 12
講習会 T・名古屋地盤研究の現状	1984. 6
技術講座 T・鉄筋コンクリートに関する技術講座	1984. 12
講習会 T・濃尾平野の地盤沈下と地下水	1985. 7
技術講座 T・NATMの設計・施工について	1985. 10
講習会 T・社会資本整備の財源シンポジウム	1986. 9
中央自動車道長野線岡谷・塩尻トンネル湧水調査	1987. 3
総括報告書	
講習会 T・中部の土木史	1987. 10
中部支部50周年記念誌「中部の土木史」	1988. 1
国造りの歴史-中部の土木史-	1988. 2
土木学会中部支部10年の記録	1988. 4
講習会 T・岩盤工学における問題点と将来展望	1988. 5
技術講座 T・構造物の新しい設計法の考え方	1988. 10
講習会 T・街並みとデザイン	1989. 8
技術講座 T・コンクリート構造物の耐久性設計法	1990. 2
講習会 T・地下空間利用, 新たな交通システムの	1990. 2
現状について	
技術講座 T・構造物の設計にかかわる最近の話題	1990. 11
講習会 T・ニューフロンティア「地下空間」	1990. 12
同上・中部新空港の実現に向けて	1991. 2

書名	刊行年
土地収用法	1931. 6
基礎工事	1931. 6
土木用材総覧	1935. 2
京阪神地方総合水道計画	1940. 10
講習会 P・土質工学 I, II	1952. 11
橋梁工学の最近の動向	1954. 3
海岸工学研究発表会論文集	1954. 11
道路舗装工学・附録第10回国際道路会議 日本提	1955. 3
出報告書(案)	
基礎工学	1956. 3
衛生工学	1957. 3
最近の海外土木技術	1958. 3
創立30周年記念(座談会記事)	1958. 9
最近の建設機械	1958. 10
最近の交通問題とその対策	1959. 3
オペレーションズリサーチの土木工学への応用	1959. 8
新しい衛生工学	1959. 9
技術講座 T・ダム工事の施工計画について	1959. 10
同上・塑性設計法	1959. 11
講習会 T・橋梁工学の最近の諸問題	1959. 11
技術講座 T・日本水害史	1959. 12
同上・浸透および透水に関する問題点	1960. 3
講習会 T・道路工学	1960. 3
技術講座 T・上下水の処理	1960. 11
同上・上下水の処理(補)散水ろ過	1960. 11
同上・土木工事の経済的効果	1961. 1
講習会 T・高速度計算機の土木工学への応用	1961. 2
同上・海岸工学の最近の進歩	1961. 3
技術講座 T・薄肉土木構造物の理論と設計	1961. 10
講習会 T・セメントコンクリート	1961. 11
技術講座 T・土木耐震設計	1961. 12
同上・粘土の力学	1962. 1
講習会 T・溶接構造	1962. 3
技術講座 T・航空写真測量	1962. 9
講習会 T・都市環境衛生	1962. 12
技術講座 T・水面形計算法	1963. 1
講習会 T・水資源	1963. 2
技術講座 T・曲線橋の理論と設計	1963. 9
講習会 T・構造工学	1963. 11
講習会 T・建設工事と高分子材料	1964. 2
同上・水理公式集の解析と例題	1964. 3
同上・土質改良工法	1965. 3
ニュータウン建設と市街地再開発に関する講演会	1965. 10
シールド工法	1966. 1
土木構造物の振動と安全性	1966. 5
講習会 T・プレストレストコンクリートの最近の	1966. 11
進歩	

書名	刊行年	書名	刊行年
講習会 T・道路・交通工学における最近の諸問題	1966. 12	昭和 52 年度全国大会部門別講演および研究討論会	1977. 10
水理学・水文学における最近の進歩	1967. 3	資料 (一般, 第 1, 2, 3, 5 部門)	
講習会 T・土木工学における動的現象の計測とデータ処理	1967. 6	講習会 T・動態観測の活用-情報と施工-	1977. 12
同上・写真測量とその応用	1967. 12	施工技術報告会講演概要・主題「建設工事における公害防止技術」	1978. 1
シールド工法研究会資料 地下鉄シールドの問題点, シールド工事施工上の問題点	1967. 2	講習会 T・土木工事の事故・失敗例とその対策-橋梁上部工を中心として-	1978. 2
騒音・振動公害	1968. 3	同上・臨海埋立地盤の土質工学的諸問題-臨海埋立地盤の土質工学的諸問題に関する研究委員会研究報告-	1978. 7
関西の土木 100 年	1968. 5	同上・汚泥の処理と処分の最近の諸問題	1978.
公害振動測定法 (案)	1968. 9	研修会 T・構造物の自動設計	1978. 11
講習会 T・近畿開発と大型土木プロジェクト	1968. 11	講演会 T・廃棄物問題-廃棄物問題調査研究委員会報告抜粋資料-	1978. 11
同上・工事の安全対策	1969. 2	講習会 T・沿岸の開発・保全と環境アセスメント-特に環境影響の予測法について-	1978. 11
同上・工程管理 (これからの工程管理の考え方・ネットワーク手法の計算および演習・工事実例)	1969. 3	関西の土木工事の概要 (1978 年度版)	1978. 12
建設工事に伴う騒音, 振動の調査報告書	1969. 3	施工技術報告会講演概要・主題「建設工事における機械化施工の新技術」	1979. 1
講習会 T・土木工事における土中水の扱い方	1969. 11	講習会 T・舗装に関する最近の問題と新しい技術	1979. 2
同上・都市廃棄物の処理と処分	1970. 3	同上・都市施設計画の総合評価と住民参加-都市整備計画の総合評価研究委員会研究報告-	1979. 7
同上・物理探査の土木工事への応用	1970. 4	同上・鋼構造の補剛設計法の理論と実際	1979. 9
同上・構造物設計法の最近の進歩と問題点	1971. 3	支部会員名簿 (昭和 54 年度版)	1979. 10
同上・最近の機械化施工の趨勢と問題点	1971. 12	関西の土木工事の概要 (1979 年度版)	1979. 12
同上・騒音・振動公害-測定と評価の問題点とその動向-	1972. 3	研修会 T・土構造物における安定解析の事例研究	1980. 1
関西支部規定ならびに規程・規則	1972. 5	施工技術報告会講演概要・主題「建設工事における掘削技術」	1980. 1
講習会 T・水工学におけるランダム事象と最適化に関する諸問題	1972. 6	講習会 T・関西における大規模交通実態調査	1980. 5
同上・構造工学-長大橋梁の諸問題	1973. 3	同上・都市の耐震防災	1980. 7
関西支部規定ならびに規程・規則等	1973. 5	支部会員名簿 (昭和 55 年度版)	1980. 9
講習会 T・建設技術者のための有限要素法の基礎と応用	1973. 12	講習会 T・橋梁工学-都市沿岸地帯における大規模橋梁の諸問題-	1980. 10
同上・土と基礎の事故防止に関する諸問題	1974. 3	研修会 T・マイクロコンピュータの土木技術への応用	1980. 11
橋りょう, 特に下部構造の健全度診断報告書	1974. 3	関西の土木工事の概要 (1980 年度版)	1980. 12
講習会 T・騒音・振動公害-予測と対策の現状-	1974. 6	施工技術報告会講演概要・主題「最近における新しい掘削技術」特に環境保全, 安全対策など新しいニーズに対応して-	1981. 1
同上・橋りょう下部構造の健全度	1974. 8	講習会 T・廃棄物の処理と再利用	1981. 5
関西支部規定ならびに規程・規則等	1974. 10	同上・水工学-水災害の予測と対策-	1981. 7
関西の土木工事 (1974 年度版)	1974. 11	同上・都市景観の事例研究	1981. 8
研修会 T・河川の水理	1975. 1	支部会員名簿 (昭和 56 年度版)	1981. 9
講習会 T・防災-自然災害と防止対策の展望-	1975. 3	講習会 T・大阪湾沿岸における海洋環境変化の調査手法と問題点	1981. 9
同上・騒音・振動に関する環境問題入門	1975. 7	シンポジウム・道路の維持管理	1981. 11
関西の土木工事の概要 (1975 年度版)	1975. 9	施工技術報告会講演概要・主題「建設工事における最近の環境保全, 安全施工および公害防止の技術」	1982. 1
講習会 T・都市域における水環境および都市水文に関する技術的問題-都市水文委員会研究報告-	1975. 11	関西支部規程ならびに規定・規則等	1982. 5
研修会 T・構造物の耐震設計	1976. 1	土木技術者のためのデータ処理と確率統計マニュアル (5 点 1 組)	1982. 8
講習会 T・総合交通システム計画のあり方-総合交通システム研究委員会報告-	1976. 7	支部会員名簿 (昭和 57 年度版)	1982. 9
同上・騒音・振動に関する環境問題	1976. 9	施工技術報告会講演概要・主題「建設工事における近接施工の技術」	1983. 1
関西土木工事の概要 (1976 年度版)	1976. 10	既設の橋梁構造物およびその構成部材の健全度, 耐久性の判定に関するシンポジウム論文集	1983. 2
研修会 T・海岸	1976. 11	講習会 T・水資源システムの分析・計画・管理および保全に関する最近の技術	1983. 7
講習会 T・構造物の基礎	1977. 1	同上・建設事業等と埋蔵文化財 (3 点 1 組)	1983. 10
施工技術報告会 講演概要	1977. 2		
関西支部創立 50 周年記念誌-関西の土木最近 10 年の歩み-	1977. 5		
講習会 T・鉄筋コンクリート床版の損傷と疲労設計へのアプローチ-鉄筋コンクリート床版疲労設計委員会報告-	1977. 7		
研修会 T・環境問題と住民参加-その実際と課題-	1977. 8		
関西の土木工事の概要 (1977 年度版)	1977. 10		

書名	刊行年
施工技術報告会講演概要・主題「最近における基礎の施工技術」	1984. 1
研修会 T・小型コンピュータの土木技術への応用と展望	1984. 5
昭和 59 年度全国大会研究討論会「新しい土木技術の最近の話題」資料主題「土木構造の施工法における先進技術」	1984. 10
施工技術報告会講演概要・主題「最近の海洋工事における新技術」	1985. 1
関西支部会員名簿（昭和 59 年度版）	1985. 2
講習会 T・既存橋梁の耐荷力と耐久性	1985. 7
研修会 T・地中管路・共同溝の建設と耐震設計	1985. 10
施工技術報告会講演概要・主題「市街地における最近の施工技術」-省力化、低公害に関する技術-研究討論会資料・これからの都市開発の手法と戦略	1986. 1
講習会 T・道路・鉄道・ライフライン施設の災害と復旧事例	1986. 8
施工技術報告会講演概要・主題「特殊条件下における最近の施工技術」	1986. 10
関西支部会員名簿（昭和 61 年度版）	1987. 1
講習会 T・限界状態設計法	1987. 2
同上・プレキャスト床版合成桁橋の設計と施工	1987. 4
同上・都市トンネルへの NATM の適用	1987. 5
関西支部創立 60 周年記念事業ご案内（市民向け）	1987. 7
研修会 T・土木工学における数値解析最前線	1987. 7
土木のはなし-自然と叡知-(60 周年記念出版)	1987. 8
コンクリート構造の設計・施工の基本(2 点 1 組)	1987. 10
講習会 T・新示方書に基づく道路橋の試設計と適用上の問題点	1987. 10
支部創立 60 周年記念事業 懸賞論文発表会論文概要	1987. 10
支部創立 60 周年記念事業 都市防災シンポジウム講演集	1987. 10
講習会 T・複合斜張橋の設計法、河川構造物災害の現状とその対策	1987. 11
創立 60 周年記念誌	1987. 12
施工技術報告会講演概要・主題「建設工事の特殊事例と新技術」	1988. 1
研究・懇話会資料 鋼橋の維持管理の現状と展望	1988. 2
都市 NATM の設計施工マニュアル	1988. 11
昭和 63 年度「土木の日」および「くらしと土木の週間」一般公開シンポジウム資料「浪華八百八橋いまむかし」	1988. 11
講習会 T・構造工学における電算機利用の先端技術	1988. 12
施工技術報告会講演概要・主題「最近の建設技術と特殊事例」	1989. 1
研究・懇話会資料 コンクリート構造物の維持管理の現状と展望	1989. 2
講習会 T・騒音問題の現状と将来を考える	1989. 7
同上・地区交通計画 よりよい地区の交通環境を目指して-その手法と事例	1989. 7
水のなんでも小辞典-飲み水から地球の水まで-(関西支部編 講談社発行)	1989. 10
平成元年度「土木の日」および「くらしと土木の週間」市民フォーラム資料 おおさかベイ!!!	1989. 11
施工技術報告会講演概要・主題「最近の建設技術と特殊事例」	1990. 1
1990 年版土木学会関西支部所蔵雑誌・図書目録	1990. 5
土木における技術継承について	1990. 10

書名	刊行年
講習会 T・次世代へのすばらしい環境創造	1990. 12
施工技術報告会講演概要・主題「最近の建設技術と特殊事例」	1991. 1
講習会 T・鋼橋の設計と限界状態-活荷重と終局疲労限界-	1991. 6
橋のなんでも小辞典-丸木橋から明石大橋まで-(関西支部編 講談社発行)	1991. 8
平成 3 年度全国大会 特別講演会資料	1991. 9
JSCE Osaka 1991 Internasional Symposium on Natural Disaster Reduction and Civil Engineering	1991. 9
講習会 T・より安全な都市を目指して-ライフライン系の地震防災から-	1991. 11
平成 3 年度全国大会市民参加行事「ガイアート展」報告書	1991. 12
施工技術報告会講演概要・主題「最近の建設技術と施工事例」	1992. 1
FCC ブックレット No.1 発会式	1992. 2
同上・No.2 フォーラム「魅力ある土木をめざして」	1992. 2
同上・No.3 第 1 回 FCC「内なる土木への啓蒙」	1992. 5
同上・No.4 第 2 回 FCC「内なる土木への啓蒙」	1992. 5
講習会 T・土木工学へのエキスパートシステムの適用と可能性	1992. 7
コンクリート構造の設計・施工の基本(改訂版, 2 点 1 組)	1992. 10
FCC ブックレット No.5	1992. 11
全国大会記念講演会「外国人からみた日本の交通」	1993. 1
施工技術報告会講演概要・主題「最近の建設技術と施工事例」	1993. 1

(6) 中国四国支部

a) 定期刊行物(年 1 回)

・支部研究発表会講演概要集

昭和 24 年度(第 1 回・1949. 10)~平成 6 年度(第 46 回・1994.5)

b) 不定期刊行物

書名	刊行年
道路及び基礎の設計・施工法	1967
最近の土木構造物の設計法	1978. 10
1 回目 最適構造設計の基礎と応用	
2 回目 鋼構造物	
3 回目 コンクリート構造物	
4 回目 土構造物	
5 回目 道路線形と交通事故	
土木構造物の実際の設計法	1979
最近の土木構造物の耐震設計について	1981
トンネル(NATM 工法)	1983. 1
有限要素法の地盤・基礎工学、耐震工学への応用	1984. 2
山岳トンネルの施工技術	1984. 3
講習会 T・コンクリートをめぐる最近の諸問題	1985. 8
同上・マイクロコンピュータの土木関連業務への活用	1985. 10
工事報告会報告書	1985. 11
講習会 T・都市および交通計画における最近の諸問題	1986. 2
学術講演会テキスト	1986. 2
工事報告会報告書	1986. 11

書名	刊行年
講習会 T・四国地域の交通体系と地域開発	1986. 12
学術講演会テキスト	1987. 1
講習会 T・山陰における地域開発と環境整備	1987. 10
同上・最近の数値解析法と分かりやすい地盤解析への応用	1987. 11
工事報告会報告書	1987. 11
学術講演会テキスト	1988. 1
講習会 T・鋼構造設計指針と限界状態設計法	1988. 7
工事報告会報告書	1988. 10
昭和 63 年度全国大会本四開通記念特別連続講義集 (605 頁)	1988. 10
学術講演会テキスト	1989. 2
講習会 T・山陰における豪雨災害と防止対策	1989. 7
工事報告会報告書	1989. 10
講習会 T・河川環境と街づくり	1990. 2
同上・地域の活性化にかかわる諸問題	1990. 7
同上・地盤と基礎の設計に関する諸問題, 道路橋示方書改訂の背景とポイント	1990. 11
工事報告会報告書	1990. 11
学術講演会テキスト	1991. 2
講習会 T・施工環境の改善を目指して	1991. 11
同上・構造物の設計施工に関する新しい考え方	1991. 11
同上・高知県の開放化時代	1991. 12
支部創立 50 周年記念誌	1991. 12
工事報告会報告書	1991. 11
学術講演会テキスト	1992. 3
講習会 T・ウォーターフロント開発・保全の現状と将来	1992. 8
同上・鋼コンクリート・複合構造の最新技術に関するセミナー	1992. 10
工事報告会報告書	1992. 10
学術講演会 T・地域づくりと環境	1992. 11
講習会 T・都市づくりと環境	1992. 12
中国地方における土木の今後のあり方	1993
地方都市の道路交通を考える	1993
構造物の維持・管理・補修	1993
自然にやさしい土木工事について	1994

(7) 西部支部

a) 定期刊行物 (年 1 回)

- ・支部研究発表会講演集
昭和 28 年度 (1953.3)～平成 5 年度 (1994.3)
- ・西日本岩盤工学シンポジウム論文集 (平 4 年度なし)
昭和 62 年度 (1987.)～平成 5 年度 (1993.)
- ・土木構造・材料論文集
昭和 61 年度 (1986.)～平成 5 年度 (1993.)

b) 不定期刊行物

昭和 28 年西日本水害調査報告書	1957. 2
講習会 T・実用土質工学	1957. 2
新材料新工法発表会講演集	1963. 7
衛生工学講習会テキスト (昭 56 年度)	1981. 8
同上 (昭 57 年度)	1982. 8
同上 (昭 58 年度)	1983. 8
同上・ (昭 59 年度)	1984. 8
夏期講習会テキスト (昭 59 年度) マイコンによる有限要素解析	1984.
衛生工学講習会テキスト (昭 60 年度)	1985. 8

書名	刊行年
夏期講習会テキスト (昭 60 年度)	1985. 8
土木構造物の調査・設計・施工に関する講習会 (昭 60 年度)	1985.
衛生工学講習会・水シンポジウム (昭 61 年度)	1986.8
夏期講習会テキスト (昭 61 年度)	1986. 8
講習会 T・境界要素法の基礎と応用 (昭 61 年度)	1986.
衛生工学講習会 T・洪水抑制と地下水かん養 (昭 62 年度)	1987.
講習会 T・21 世紀の九州ビジョン (昭 62 年度)	1987.
工学における有限要素法の新展開とその利用に関する講習会 (昭 62 年度)	1987.
講習会 T・パソコンを用いたコンクリート構造の限界状態設計法による設計例 (昭 63 年度)	1988.
技術講習会講義集・九州の豪雨災害とハイテク予知 (昭 63 年度)	1988.
衛生工学講習会 T・これからの汚水処理	1988. 8
河川災害に関するシンポジウム (昭 63 年度)	1988.
講習会 T・土木における ES と CAD (平 1 年度)	1989.
衛生工学講習会 T・ごみ問題対策シンポジウム (平 1 年度)	1989. 8
九州土木紀行 -九州・沖縄の土木施設を訪ねて - (九大出版会)	1989.
地盤災害防止における新材料・新工法の適用に関するシンポジウム (平 2 年度)	1990.
講習会 T・ファジィ理論の土木工学への応用 (平 3 年度)	1991.
衛生工学講習会 T・我が国における有害廃棄物処理処分の動向 講演資料集 (平 3 年度)	1991.
豪雨災害に関する講演会 (平 3 年度)	1991.
「宮崎, セーフティロード」シンポジウム議事録 (平 3 年度)	1991.
環境セミナー・処理水水質の現状と将来展望 (平 4 年度)	1992. 8
講習会 T・土木工学への AE 計測の応用 (平 4 年度)	1992.
豪雨災害に関する講演会 (平 5 年度)	1993.
地下と土木の AE 国内コンファレンス論文集 (平 5 年度)	1993.

注: T はテキスト, P はパンフレットの略

9.23 その他の参考資料

9.23.1 大臣経験者

氏名	職名	就任年
仙石 貢	鉄道大臣	1924
八田 嘉明	拓務大臣	1938
	商工兼拓務大臣	1939
	鉄道大臣	1941
	運輸通信大臣	1943
小沢久太郎	郵政大臣	1963
江藤 智	運輸大臣	1974
山内 一郎	郵政大臣	1980
梶木 又三	環境庁長官	1982
上田 稔	〃	1983
今井 勇	厚生大臣	1985
古賀雷四郎	国務大臣 (沖縄・北海道開発庁長官)	1985